



**2025年度
科目登録の手引き
＜2023年度以前入学者用＞**

社会科学部

2025年度学事日程表(社会科学部／社会科学研究科)

春学期 (春クォーター:4/12(土)～6/3(火)、夏クォーター:6/4(水)～7/22(火))									
月		火		水		木		金	土
4月7日	休業期間	4月8日	休業期間	4月9日	休業期間	4月10日	休業期間	4月11日	休業期間
4月12日		4月13日		4月14日		4月15日		4月16日	授業開始
4月14日		4月15日		4月16日		4月17日		4月18日	4月19日
4月21日		4月22日		4月23日		4月24日		4月25日	4月26日
4月28日		4月29日	祝日授業実施日※	4月30日		5月1日		5月2日	5月3日
5月5日	祝日	5月6日	祝日	5月7日		5月8日		5月9日	5月10日
5月12日		5月13日		5月14日		5月15日		5月16日	5月17日
5月19日		5月20日		5月21日		5月22日		5月23日	5月24日
5月26日		5月27日		5月28日		5月29日		5月30日	5月31日
6月2日		6月3日		6月4日		6月5日		6月6日	6月7日
6月9日		6月10日		6月11日		6月12日		6月13日	6月14日
6月16日		6月17日		6月18日		6月19日		6月20日	6月21日
6月23日		6月24日		6月25日		6月26日		6月27日	6月28日
6月30日		7月1日		7月2日		7月3日		7月4日	7月5日
7月7日		7月8日		7月9日		7月10日		7月11日	7月12日
7月14日		7月15日		7月16日	教場試験	7月17日	教場試験	7月18日	教場試験
7月21日	教場試験 祝日授業実施日※	7月22日	教場試験	7月23日	定期試験	7月24日	定期試験	7月25日	定期試験
7月28日	定期試験	7月29日	定期試験	7月30日	休業期間	7月31日	休業期間	8月1日	休業期間

秋学期 (秋クォーター:10/2(木)～11/22(土)、冬クォーター:11/24(月)～1/27(火))									
月		火		水		木		金	土
9月29日	休業期間	9月30日	休業期間	10月1日	休業期間	10月2日	授業開始	10月3日	10月4日
10月6日		10月7日		10月8日		10月9日		10月10日	修論発表※
10月13日	祝日授業実施日※	10月14日		10月15日		10月16日		10月17日	10月18日
10月20日		10月21日	創立記念日 授業実施日	10月22日		10月23日		10月24日	10月25日
10月27日		10月28日		10月29日		10月30日	臨時休業日	10月31日	臨時休業日
11月3日	祝日授業実施日※ 学部デー※	11月4日	学部デー※	11月5日		11月6日		11月7日	11月8日
11月10日		11月11日		11月12日		11月13日		11月14日	11月15日
11月17日		11月18日		11月19日		11月20日		11月21日	11月22日
11月24日	祝日授業実施日※	11月25日		11月26日		11月27日		11月28日	11月29日
12月1日		12月2日		12月3日		12月4日		12月5日	12月6日
12月8日		12月9日		12月10日		12月11日		12月12日	12月13日
12月15日		12月16日		12月17日		12月18日		12月19日	12月20日
12月22日		12月23日	休業期間	12月24日	休業期間	12月25日	休業期間	12月26日	休業期間
12月29日	休業期間	12月30日	休業期間	12月31日	休業期間	1月1日	休業期間	1月2日	休業期間
1月5日	休業期間	1月6日	臨時休業日	1月7日		1月8日		1月9日	1月10日
1月12日	祝日	1月13日		1月14日		1月15日		1月16日	1月17日
1月19日		1月20日		1月21日	教場試験	1月22日	教場試験	1月23日	教場試験
1月26日	教場試験	1月27日	教場試験	1月28日	定期試験	1月29日	定期試験	1月30日	定期試験
2月2日	定期試験	2月3日	定期試験	2月4日	休業期間	2月5日	休業期間	2月6日	休業期間

※「学部デー(11/3,4)」は、**社会科学部**設置科目のみ授業を実施しません。社会科学研究科や他学部等設置科目は授業を実施します。

※「修論発表(10/4,1/24)」は、**社会科学研究科**設置科目のみ授業を実施しません。社会科学部や他研究科等設置科目は授業を実施します。

2025年度 社会科学部 学部暦

行事		日程	
4	月 入 学 式		4月 1日(火)～ 2日(水)
春 学 期	春学期授業開始 ※春クォーター: 4/12(土)～6/3(火)・夏クォーター: 6/4(水)～7/22(火)		4月 12日(土)
	祝日授業日		4月 29日(火)
	祝日授業休講日	自	5月 3日(土)
		至	5月 6日(火)
	春学期中間試験期間	自	5月 28日(水)
		至	6月 3日(火)
	祝日授業日		7月 21日(月)
	春学期教場試験期間	自	7月 16日(水)
		至	7月 22日(火)
	春学期定期試験期間	自	7月 23日(水)
		至	7月 29日(火)
	試験予備日		7月 29日(火)
	春学期授業終了		7月 29日(火)
	夏季休業期間	自	7月 30日(水)
		至	9月 20日(土)
9	月 卒 業 式 ・ 学 位 授 与 式		9月 20日(土)
9	月 入 学 式		9月 21日(日)
秋 学 期	秋学期授業開始 ※秋クォーター: 10/2(木)～11/22(土)・冬クォーター: 11/24(月)～1/27(火)		10月 2日(木)
	祝日授業日		10月 13日(月)
	創立記念日(授業実施)		10月 21日(火)
	臨時休業日		10月 30日(木)
	臨時休業日		10月 31日(金)
	早稲田祭(全学授業休講)	自	11月 1日(土)
		至	11月 2日(日)
	祝日授業日		11月 3日(月)
	学部デー(社会科学部設置科目のみ休講)	自	11月 3日(月)
		至	11月 4日(火)
	秋学期中間試験期間	自	11月 17日(月)
		至	11月 22日(土)
	祝日授業日		11月 24日(月)
	冬季休業期間	自	12月 23日(火)
		至	2026年 1月 5日(月)
	臨時休業日		1月 6日(火)
	祝日授業休講日		1月 12日(月)
	秋学期教場試験期間	自	1月 21日(水)
		至	1月 27日(火)
	秋学期定期試験期間	自	1月 28日(水)
		至	2月 3日(火)
	試験予備日		2月 3日(火)
	秋学期授業終了		2月 3日(火)
	春季休業期間	自	2月 4日(水)
		至	3月 31日(火)
3	月 卒 業 式 ・ 学 位 授 与 式		3月 25日(水)～ 26日(木)

2025年度 社会科学部 科目登録・成績発表日程

学期	項目	日時	申請方法/場所	結果発表	備考
	教養外国語 変更	3/6(木)9:00～3/7(金)17:00	申請フォーム	-	※1
	再履修者 必修英語・教養外国語(春) 登録	3/11(火)9:00～3/12(水)17:00	MyWaseda	～3/14(金)7:00	※2
	1次登録(在学学生)	3/18(火)9:00～3/21(金)17:00		～4/7(月)7:00	
	1次登録(新入生)	4/1(火)9:00～4/3(木)17:00		～4/11(金)7:00	
	2次登録	4/7(月)9:00～4/8(火)17:00		～4/23(水)7:00	
	3次登録	4/18(金)9:00～4/19(土)17:00			
	聴講料・実験実習料納入期間	4/24(木)～4/28(月)23:59	コンビニ・ペイジー・クレジット決済		※3
	成績発表	9/2(火)12:00	MyWaseda	-	
学期	項目	日時	申請方法/場所	結果発表	備考
秋学期	再履修者 必修英語・教養外国語(秋) 登録	9/10(水)9:00～9/11(木)17:00	MyWaseda	～9/16(火)7:00	※4
	1次登録	9/17(水)9:00～9/19(金)17:00		～9/25(木)7:00	
	2次登録	9/25(木)9:00～9/26(金)17:00		～10/1(水)7:00	
	3次登録	10/8(水)9:00～10/9(木)17:00		～10/14(火)7:00	
	聴講料・実験実習料納入期間	10/15(水)～10/20(月)23:59	コンビニ・ペイジー・クレジット決済		※3
	成績発表	2026年 2/27(金)12:00	MyWaseda	-	

※ 日時は変更される可能性があります。必ず社会科学部HPにて最新の情報を確認してください。

※ 上記期間にWeb申請、社会科学部事務所で手続きが行えない場合、代理人による登録・手続きを行ってください。詳細は事務所にご相談ください。

※1 【教養外国語の変更について】

入学時に選択した教養外国語は、在学中一度に限り、変更が可能です。詳細は、学部Webサイト「必修外国語の変更申請手続きについて」をご参照ください。

※2 【再履修者 英語・教養外国語 再履修登録について】

新2年生以上で、必修英語もしくは教養外国語の春学期科目が不合格であった場合、再履修を希望する科目を各自Web申請してください。

※秋学期科目のみ不合格の場合は、秋学期の科目登録時に申請してください。

(1年次必修のTutorial Englishが不合格の場合、社会学設置の「英語1-2(春または秋)」を不足している単位分履修する必要があります。)

!!注意!!

教養外国語の“朝鮮語”・“イタリア語”(GEC設置科目)、“日本語”(日本語教育研究センター設置科目)の再履修は1次登録以降に申請してください。

※3 【聴講料・実験実習料納入方法について】

保健体育科目や教職科目など、授業料の他に「聴講料・実験実習料」が必要な科目が登録決定した場合、期間内に納入をしてください。

納入方法は、コンビニ・ペイジー・クレジットカードからご自身で選択できます。

※4 【再履修者 英語・教養外国語(秋学期) 再履修登録について】

必修英語・教養外国語の秋学期分の単位を未修得の学生は、各自MyWasedaにて申請してください。

CLOSE-UP 2025

▶ 2025 年度より、すべての英語学位プログラム設置科目が 1 次登録より登録可能になります。

これまで一般プログラム学生が 1 次登録で登録できるのは、全学オープン科目に指定されている英語学位プログラム設置科目のみでしたが、今年度からすべての英語学位プログラム設置科目について 1 次登録から登録可能になります（必修科目は除く）。

▶ 抽選時の優先順位が新たに設定されます。

2024 年度以降入学者のカリキュラムにおいて「コース科目」として扱われる科目について、抽選時の優先順位が設定されます。詳細は P.64 を確認してください。

▶ 申請情報確認メールおよび登録結果確認メールを廃止します。

申請情報および登録結果については、Web 科目登録画面を確認してください。登録結果は、登録結果発表日の朝 7 時以降に確認ができます。

▶ （2019～2023 年度入学者）単位を修得していない初年次教育科目については合格するまで自動登録されます。

自動で登録されますので、ご自身で再履修登録する必要はありません。

▶ 教養外国語（イタリア語・朝鮮語）の再履修登録は 1 次登録以降に行います。

今年度より当該科目は「必修外国語再履修登録」の対象外となります。再履修が必要な科目がある場合、1 次登録以降にご自身で Web 登録してください。

2025 年度 科目登録の手引き

＜2023 年度以前入学者用＞

—目次—

はじめに

- (1) Support Anywhere ----- P. 7
- (2) 科目登録のよくある質問集----- P. 8

I. カリキュラム ----- P. 12

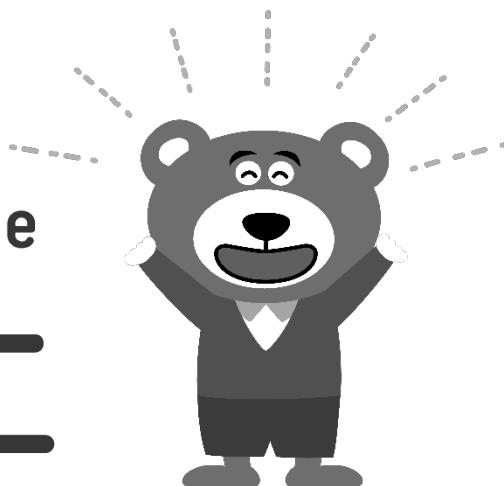
- (1) 卒業要件----- P. 13
 - 1 - 1 2021 年度～2023 年度入学者 ----- P. 13
 - 1 - 2 2019 年度・2020 年度入学者----- P. 15
 - 1 - 3 2018 年度以前入学者 ----- P. 17
- (2) 分野紹介 ----- P. 19
- (3) 履修計画の指針 ----- P. 21
 - 3 - 1 「アカデミックカテゴリー（特定テーマ研究）」とは ----- P. 21
 - 3 - 2 各ゼミナールにおいて履修が望まれる科目 ----- P. 45
- (4) 社会科学部以外で履修できる科目 ----- P. 46

II. 科目登録の手続き----- P. 47

- (1) 科目登録手続きのながれ ----- P. 48
- (2) 主なルール・注意点 ----- P. 54
 - 2 - 1 単位の種類（算入区分） ----- P. 55
 - 2 - 2 登録制限単位数・算入上限単位数 ----- P. 56
 - 2 - 3 社会科学部以外で履修した科目の単位算入部門 ----- P. 60
 - 2 - 4 科目名のルールと履修方法 ----- P. 61
 - 2 - 5 履修条件の例外科目一覧----- P. 62
 - 2 - 6 定員と抽選----- P. 64
 - 2 - 7 決定した科目の取り消し・算入区分変更 ----- P. 65
 - 2 - 8 申請情報・登録結果の確認----- P. 66
 - 2 - 9 聴講料・実験実習料納入 ----- P. 67
- (3) WEB 科目登録利用マニュアル ----- P. 69

III. 学科目配当表 ----- P. 79

Support Anywhere サポエニ



Support Anywhere（サポエニ）は、早稲田大学の学生のみなさんの疑問や不安を **いつでも（Anytime）どこでも（Anywhere）** 解決するために開設された在学生向けお役立ち Web サイトです。

例えば科目登録については以下のような情報が掲載されています！

科目登録で注意しなければいけないことは何？

Web 科目登録はどうやってやるの？

科目登録でわからないことはどこに問い合わせればいいのか？

全学オープン科目って何？他学部提供科目と何が違うの？

科目登録でエラーが出たのはどうして？

資格や副専攻について知りたい！

Etc...

※ 学部・研究科・センターのカリキュラムや科目に関することは該当する学部・研究科・センターから配付される科目登録関連書類（学部要項・科目登録の手引き・学科目配当表など）を十分確認してください。

その他にも、

#証明書発行 #学費・奨学金 #教員免許状 #成績 #施設利用 #学生生活

など豊富な学内情報をひとまとめに掲載しています。



分からないことや知りたいことがあれば、辞書で調べるような感覚でまずは

Support Anywhere（サポエニ）を使ってみてください。

そして、それでも問題が解決できない場合は、窓口にお問い合わせください。

ブックマークに登録を！

➤ URL: <https://wnpspt.waseda.jp/student/supportanywhere/>

2. 科目登録のよくある質問集

科目登録期間中によく寄せられる質問を登録期間ごとにピックアップしました。科目登録を行う中で分からないことがあればまずこちらをご確認ください。

必修英語について

Q1：入学時の WeTEC のスコアで「必修英語免除」と言われたのですが、必修英語科目を受けなくても良いのでしょうか？

A1：必修英語科目が免除となった学生は必修英語代替科目として①社会科学部設置「グローバルラーニング」、②社会科学部英語学位プログラム設置科目、③グローバルエデュケーションセンター提供の指定英語科目の中から 6 単位分選択し、それに、「Tutorial English（2 単位分）」を加えた合計 8 単位分を履修する必要があります。

教養外国語について

Q2：入学時に選択した「教養外国語」を変更することはできますか？

A2：在学中に一度だけ変更することができます。なお、変更できる言語は社会科学部設置言語（ドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語）に限りです。また、変更を行った場合は既に修得した教養外国語科目は自由科目扱いとなり卒業単位には算入されません。

選択外国語について

Q3：教養外国語で選択しなかった社会科学部設置の外国語科目（ドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語）を選択外国語として履修したいのですがどうすればよいでしょうか？

A3：各学期の 1 次登録開始前に社会科学部事務所からお知らせを発信しますので、そのお知らせに記載された URL からフォームにアクセスして登録申請を行ってください。その際には既に登録されている科目やこれから登録する科目と曜日時限が重複しないよう注意してください。曜日時限が重複していた場合は登録することができません。

必修外国語の再履修について

Q4：必修外国語の再履修申請について、「選外」となる可能性はありますか？

A4：定員に達した場合、「選外」となる可能性があります。各言語で選択可能な希望順位を最大まで選択しないと「選外」になる可能性が高くなりますので、希望順位は極力すべて選択して登録申請するようにしてください。

Q5：1 年次に「英語 1-2(Tutorial English)」が不合格だった場合、再履修のためにもう一度「Tutorial English」を登録すればよいですね？

A5：「英語 1-2(Tutorial English)」の再履修科目は「英語 1-2（春/秋学期）スピーチ」となりますので、こちらを登録してください。2 単位の修得が必要な場合、春学期・秋学期の両方を履修してください。1 単位の修得が必要な場合、履修すべき学期の指定はありませんのでいずれかを履修してください。

アカデミックカテゴリー/ゼミナールについて

Q6：アカデミックカテゴリーの修了やゼミナールの履修は卒業に必須ですか？

A6：アカデミックカテゴリーやゼミナールはカリキュラム上の履修方針であり、必須ではありません。

全学オープン科目の取扱について

Q7: ×××学部「△△△△」という科目は卒業に必要な単位に算入されますか？

A7: P.60 の「2-3.社会科学部以外で履修した科目の単位算入部門」の表を参考に、お問い合わせの科目がどの科目区分に当てはまるかご確認ください。また、他学部の科目を登録する際は科目設置箇所の履修ルールに従ってください。

登録制限単位数について

Q8: たくさん科目を登録申請したら「登録制限単位数オーバーエラー」と表示されました。どうすればよいですか？

A8: 1～3年生は半期 24 単位、年間 40 単位、4 年生以上は半期 28 単位、年間 48 単位までしか卒業算入科目として登録できません。それ以上に科目登録したい場合は「超過履修」の区分を選んで登録してください。なお、超過履修科目・自由科目といった卒業必要単位に算入しない科目を含め、年間登録単位数の上限の目安は 49 単位です。

オンライン 60 単位制限について

Q9: 卒業単位に算入できるオンライン科目は 60 単位までと聞きました。これまでに修得したオンライン科目の単位数を確認したいです。

A9: 成績照会画面の科目名末尾に「Online」とついている科目が 60 単位制限の対象となります（不合格科目は対象外です）。オンライン科目を 60 単位以上修得していた場合でも、卒業要件の 124 単位の中で、対面授業科目が 64 単位を超えていれば問題ありません。詳細は P.59 を確認してください。

科目の検索について

Q10: 「□□□□□□」という科目が検索しても表示されなくて困っています！どうにかしてください！

A10: 履修を希望する科目が科目検索に表示されない場合はまず以下①②をご確認ください。それでも科目が表示されない、もしくは科目が表示されない原因が分からない場合は社会科学部事務所までご連絡ください。

①履修を希望する科目のシラバスで開講学期と配当年次を改めてご確認ください。

→ほとんどの科目が開講する学期に登録可能となります。また、配当年次より学年が下の場合は検索に表示されません。

②履修を希望する科目が「休講」になっていないか最新の情報を社会科学部 Web サイトでご確認ください。

→開講予定であった科目が直前で「休講」になる場合があります。その場合は学部 Web サイトにて周知します。

科目登録を行った際に表示されるエラーについて

Q11: 「登録制限単位数オーバーエラー」と表示されているのですが、登録申請をすることができたのでエラーを解消せずにこのまま科目登録期間を終えてもいいですか？

A11: エラーを解消しないまま科目登録を終えた場合は、制限単位数内に登録単位数をおさめるために無作為に登録申請した科目が「不可」となり登録自体ができない、又は科目区分が「超過履修」（卒業非算入）に変更されて登録されます。その為、必ずエラーを解消してから科目登録期間を終えてください。

Q12: 「○○（科目名）Ⅱ」という科目を登録しようとすると「前提条件エラー」と表示され登録できません。

A12: 科目名末尾にⅠ・Ⅱとつく科目は積み上げ科目となり、「○○（科目名）Ⅰ」の合格がⅡ履修の前提条件となります。なお、春学期に「○○（科目名）Ⅰ」に合格した場合、秋学期に「○○（科目名）Ⅱ」が自動登録されます。

科目取消について

Q13: 前学期に「○○（科目名）Ⅰ」の単位を修得したところ、今学期「○○（科目名）Ⅱ」が自動登録されていました。これは必ず履修する必要がありますか？

A13: 履修は任意です。希望しない場合は 1 次登録からご自身で取り消すことが可能です。

卒業算入単位の確認について

Q14：これまでに修得した単位で卒業要件を満たしているか不安です。事務所で確認してもらうことはできますか？

A14：事務所では個別の確認を行っておりませんのでご自身で確認してください。「MyWaseda＞成績照会＞単位修得状況の照会」において、「所定」欄に記載の必要単位数を、「算入」欄のとおり修得している場合は卒業必要単位数を満たしていることになります。詳細は、社会科学部 Web サイト＞「在学生の方へ」＞「成績」を確認してください。

—2 次登録—

科目の検索について

Q15：1 次登録では科目検索画面に表示されていた科目が、検索しても表示されず困っております。

A15：履修を希望する科目が科目検索画面に表示されない場合は、科目の設置（開講）学部に応じて以下をご確認ください。それでも原因が分からない場合は社会科学部事務所までご連絡ください。

①社会科学部設置科目の場合：

→社会科学部 Web サイトの科目登録のページにて公開している「余裕定員表」で履修を希望する科目の定員をご確認ください。履修定員に達した段階でその科目は「締切」となります。「締切」となった科目は検索に表示されなくなります。

②他学部設置科目の場合：

→「全学オープン科目」のみに指定されている科目の場合、検索できるのは 1 次登録期間中のみとなります。「他学部提供科目」にも指定されている場合には定員に余裕があれば 3 次登録にて表示される可能性があります。

③グローバルエデュケーションセンター設置科目の場合：

→グローバルエデュケーションセンター Web サイトにて「余裕定員表」より履修を希望する科目の定員をご確認ください。履修定員に達した段階でその科目は「締切」となります。「締切」となった科目は検索に表示されなくなります。

曜日時限の重複について

Q16：1 次登録期間に登録した科目と履修したい科目の曜日時限が重複しているのですが、どうすればよいですか？

A16：3 次登録期間にて現在登録されている科目を取り消してから、履修したい科目を登録申請してください。ただし、2 次登録期間で定員に達した場合は 3 次登録で登録申請をすることはできませんのでご注意ください。

—3 次登録—

科目取消/区分変更について

Q17：取り消したい科目が取り消せません。

A17：科目によって取消可否が異なります。P.65 を確認してください。

Q18：誤って取り消すつもりではなかった科目を取り消してしまったのですが、元に戻すことはできませんか？

A18：残念ながら一度取り消された科目を「登録」に戻すことはできません。再度登録申請からお願いします。なお、取り消してしまった科目が既に募集を締め切っている場合は再度登録申請をすることもできませんのでお気をつけください。

Q19：「必修英語代替科目」として登録した「グローバルラーニング」や社会科学部英語学位プログラム設置科目を取り消すことはできますか？

A19：「必修英語代替科目」は「必修外国語」扱いとなりますので取り消すことはできません。

Q20：「超過履修」（卒業非算入）として登録した科目を後から卒業算入に変更することはできますか？

A20：一度「超過履修」として登録された科目を卒業算入の区分に変更することはできません。

聴講料・実験実習料の納入について

Q21 : 「Tutorial English」の受講には聴講料・実験実習料の支払いが必要と聞いたのですが…

A21 : 必修科目（「英語 1-2」）として自動登録された「Tutorial English」については入学時の学費に含まれているので改めての聴講料・実験実習料の支払いは不要です。ご自身で登録した「Tutorial English」は支払いが必要となります。

Q22 : うっかり聴講料・実験実習料を払い忘れてしまったのですが、後からでも納入することはできますでしょうか？

A22 : 残念ながら所定納入期間外での納入は受付できません。また、未納となった科目の登録は取消となります。

— 科目登録に関する相談窓口について —

科目登録全般について

Q23 : 科目登録について分からない部分や不安があるのですがどこで相談に乗ってもらえますか？

A23 : 質問内容によってお問い合わせ先を変えていただくと効率よく回答を得ることができます。

①科目登録に関する基礎知識について : Support Anywhere（通称：サポエニ）



[URL] <https://wnpspt.waseda.jp/student/supportanywhere/>

*詳細については P.7 をご確認ください。

*科目登録以外にも各種申請・手続き等様々な情報を得ることができます。

②社会科学部の履修ルールについて

: 1)早稲田大学社会科学部 Web サイト> 在学生の方へ> 科目登録



[URL] <https://www.waseda.jp/fsss/sss/students/registration/>

2)社会科学部事務所科目登録担当 (kamoku18@list.waseda.jp)

③Web 科目登録システムについて

: 早稲田大学 IT サービスポータル



[URL] <https://support.waseda.jp/it/s/inquiryform?language=ja>

*資格 : 「学生」、種別 : 「問い合わせ」、サービス名称 : 「科目登録」を選択し、必要事項を入力してください。

履修計画や履修モデルの相談について

Q24 : 履修計画（ゼミナール、留学等を含む）について先輩学生からのアドバイスが欲しいです！

A24 : 社会科学部では 2022 年度より学生メンター制度を導入しており、先輩学生による新入生・後輩サポート（相談受付）を行っています。初めての履修登録やこれから始まる大学生活に対して、不安や疑問に思うことを同じ社会科学部の先輩が話を聞き、自らの経験に基づいてアドバイスします。漠然とした不安や疑問を解消したいという方、とにかく先輩と話をしてみたいという方も大歓迎です。新入生向けのイベントも企画しておりますので是非ご利用ください！



←社会科学部学生メンターの公式紹介ページはこの QR コードからアクセスできます！

Instagram アカウント : <https://www.instagram.com/sssmentor2022/>

X（旧：Twitter）アカウント : <https://twitter.com/sssmentor2022>

I. カリキュラム

1. 卒業要件

社会科学部では「社会科学基礎教育課程（主として1・2年次）」と「学際・複合教育課程（主として3・4年次）」の『2階建て構造』の下に、各部門・分野が設置されており、下表のとおり卒業までに所定の124単位を修得する必要があります。

入学年度により卒業に必要な科目と単位数が異なります。必ずご自身の入学年度に対応したページを参照してください。

1-1. 2021年度～2023年度入学者

課程	科目部門※1		科目分野	所定単位数		
社会科学基礎教育課程	①初年次教育		ラーニング・コミュニティ	1 単位	4 単位	80 単位
			学術的文章の作成	1 単位		
			統計リテラシー	2 単位		
	必修外国語	② 必修 英語	英語 1	4 単位	8 単位	
			英語 2	4 単位		
		③ 教養 外国語	ドイツ語	4 単位		
			フランス語			
			中国語			
			スペイン語			
			イタリア語			
			朝鮮語			
		日本語				
	④選択外国語※2			0～8 単位		
	⑤コア科目	共通入門群	14～20 単位※3			
		専門入門群				
	⑥基盤専門科目	社会科学総合分野	34～50 単位			
人文科学分野						
自然科学分野						
政治学分野						
法学分野						
経済学分野						
商学分野						
情報科学分野						
専門英語						
グローバルラーニング						
⑦ゼミナール※4	ゼミナールⅠ	0～2 単位				
	ゼミナールⅡ・Ⅲ	0～8 単位				
学際・複合教育課程	⑧先進専門科目	社会科学総合分野	36～44 単位			
		人文科学分野				
		自然科学分野				
		政治学分野				
		法学分野				
		経済学分野				
		商学分野				
		情報科学分野				
		社会科学特講				
		外国書研究				
⑨社会科学総合研究						
卒業必要単位数の合計			124 単位			

※1. 卒業必要単位数は、科目部門毎に定められた所定の単位数に達するように科目を履修し、単位を修得することで満たされます。

※2. 「選択外国語科目」の履修は、卒業のための要件ではありません。希望者が履修し修得した単位は「社会科学部基礎教育課程」の卒業必要単位として「8単位まで」算入することができます。

※3. コア科目は、卒業までに「14単位以上」の修得が必須となり、「20単位まで」社会科学基礎教育課程の卒業単位数に算入することができます。

※4. ゼミナールの履修は卒業のための要件ではありません。希望者が履修し修得した単位は、卒業単位数に算入されます。ゼミナールⅠは社会科学基礎教育課程として「2単位まで」算入されます。また、ゼミナールⅡ・Ⅲは学際・複合教育課程として、「8単位まで」算入されます。したがって、ゼミナールは卒業単位として、「合計10単位まで」算入されます。なお、ゼミナールは同一学期に複数のクラスを履修することはできません。

社会科学基礎教育課程（卒業必要単位数：80単位）

① 初年次教育

2021年度以降入学者の初年次教育は、「ラーニング・コミュニティ」とグローバルエデュケーションセンター設置の「学術的文章の作成」、「統計リテラシーα」、「統計リテラシーβ」で構成され、各1単位、合計4単位を履修します。1年次の春学期に全ての科目を履修する必要がありますが、「ラーニング・コミュニティ」と「統計リテラシーα」は春クォーターに、「統計リテラシーβ」は夏クォーターに登録され、「学術的文章の作成」は春クォーターまたは夏クォーターのどちらかに登録されます。なお、初年次教育の科目が不合格だった場合は、卒業までに修得する必要があります。

※「統計リテラシーα」「統計リテラシーβ」はデータ科学認定制度の対象科目となっています。詳細はP.46をご確認ください。

② 必修英語

英語は入学時のWeTECおよびLANGX（2023年度入学者のみ）の受験結果により、習熟度別クラスに分かれて履修します。

1年次に英語1-1（春学期／秋学期）各1単位、英語1-2（Tutorial English）2単位、2年次に英語2-1（春学期／秋学期）各1単位、英語2-2（春学期／秋学期）各1単位、在学中合計8単位の修得が必要です。

※入学時のWeTECが高得点だった者は、英語1-1、英語2-1、英語2-2ではなく、代替科目を履修します。代替科目は「グローバルラーニング」、「社会科学部英語学位プログラム提供科目」、「グローバルエデュケーションセンター提供 Tutorial English（実験実習料が必要です）」のいずれかから選択します。

※1・2年次に修得できなかった科目があった場合、卒業までに修得する必要があります。

③ 教養外国語

教養外国語は、ドイツ語・フランス語・中国語・スペイン語・イタリア語・朝鮮語・日本語（外国学生※のみ選択可）より1言語選択し、1年次の春学期に“〇〇語1・2基礎”各1単位、秋学期に“〇〇語1・2初級”各1単位、合計4単位の修得が必要です。

※外国学生とは、外国学生入試制度、海外指定校推薦入試制度および外国人留学生特別選考制度等により入学した学生です。

※イタリア語・朝鮮語・日本語は社会科学部設置科目ではないため、“基礎・初級”ではありません。必要単位数は同じ合計4単位です。

※1年次に修得できなかった科目があった場合、卒業までに修得する必要があります。

④ 選択外国語

教養外国語として選択しなかった言語及び「〇〇語・地域研究入門」「〇〇語・地域研究」を選択外国語として履修することが可能です。卒業のための要件ではありませんが、年間4単位・卒業まで8単位を上限として卒業算入単位とすることができます。

⑤ コア科目

コア科目は、社会科学部カリキュラムの基礎にあたる科目で、1・2年次に履修が望まれます。どの学問領域にも共通する基本的知識を身につけるとともに、それぞれの学問領域における基本的概念や専門用語についての知識を習得します。分析の技法や手法を中心に据えた「共通入門群」と、専門用語の解説や必須の概念・理論を中心に組み立てた「専門入門群」があり、あわせて最低14単位の修得が必要です。

⑥ 基盤専門科目

基盤専門科目は、主に1・2年次に履修します。専門科目の中でも基礎性が高く、専門的内容のエッセンスを1・2年次のうちに学び終えることを理想とする、社会科学基礎教育課程の中心科目です。社会科学総合・人文科学・自然科学・政治学・法学・経済学・商学・情報科学・専門英語・グローバルラーニングの10分野があります。

⑦ ゼミナール

ゼミナールは、社会科学部の基本理念のひとつである「問題発見・解決のできる学生の育成」をより具体的に推し進めるため、少人数教育の充実を目指した演習授業です。卒業のための要件ではありませんが、修得した単位は、ゼミナールⅠは社会科学基礎教育課程、ゼミナールⅡ/Ⅲは学際・複合教育課程の単位として算入されます。ゼミナールの各クラスは、2年半にわたって一貫したテーマにより実施されます。ゼミナール登録は、担当教員による選考で決定し、合格したゼミナールが自動登録されます。

※ゼミナールⅡおよびⅢは、Ⅱ・Ⅲの履修者が合同で科目を受講します。

学際・複合教育課程（卒業必要単位数：44単位）

⑧ 先進専門科目

先進専門科目は、学際・複合教育課程に算入される科目で、主に3・4年次に履修します。新しい領域、学際性、専門性の高い科目が設置されている、学際・複合教育課程の中心科目です。社会科学総合・人文科学・自然科学・政治学・法学・経済学・商学・情報科学・社会科学特講・外国書研究の10分野があります。

⑨ 社会科学総合研究

社会科学総合研究は、「学際」の概念を推進し、最新の社会動向とそれらの抱える諸問題を総合的に分析、解決の糸口を探り出そうとする科目です。現代社会が直面しているテーマについて、専門分野を異にする教員が交替で担当し、多角的な切り口から問題を分析し講義する科目であり、本学部の標榜する社会科学の総合化・学際化を具現化する科目となっています。卒業のための要件ではありませんが、修得した単位は学際・複合教育課程の単位として算入されます。

1-2. 2019 年度・2020 年度入学者

課程	科目部門※1		科目分野	所定単位数								
				【1 年次入学】		【学士入学】						
社会科学基礎教育課程	①初年次教育		ラーニング・コミュニティ	1 単位	2 単位	—						
			学術的文章の作成	1 単位								
	必修外国語	②必修 英語	英語 1	4 単位	8 単位							
			英語 2	4 単位								
		③教養 外国語	ドイツ語	4 単位								
			フランス語									
			中国語									
			スペイン語									
			イタリア語									
			朝鮮語									
	日本語											
	④選択外国語※2			0～8 単位		0～8 単位						
	⑤コア科目	共通入門群	16～20 単位※3		80 単位	0～12 単位						
		専門入門群				10～32 単位						
	⑥ 基盤専門科目	社会科学総合分野	36～50 単位			32 単位						
		人文科学分野										
		自然科学分野										
政治学分野												
法学分野												
経済学分野												
商学分野												
情報科学分野												
社会科学特講												
専門英語												
グローバルラーニング												
⑦		ゼミナールⅠ						0～2 単位		0～2 単位		
学際・複合教育課程	ゼミナール※4	ゼミナールⅡ・Ⅲ	0～8 単位			44 単位	0～8 単位					
		社会科学総合分野	36～44 単位				44 単位					
	人文科学分野											
	自然科学分野											
	政治学分野											
	法学分野											
	経済学分野											
	商学分野											
	情報科学分野											
	社会科学特講											
	外国書研究											
	⑨社会科学総合研究											
	卒業必要単位数の合計				124 単位				76 単位			

※1. 卒業必要単位数は、科目部門毎に定められた所定の単位数に達するように科目を履修し、単位を修得することで満たされます。

※2. 「選択外国語科目」の履修は、卒業のための要件ではありません。希望者が履修し修得した単位は「社会科学部基礎教育課程」の卒業必要単位として「8 単位まで」算入することができます。

※3. コア科目は、卒業までに「16 単位以上」の修得が必須となり、「20 単位まで」社会科学基礎教育課程の卒業単位数に算入することができます。

※4. ゼミナールの履修は卒業のための要件ではありません。希望者が履修し修得した単位は、卒業単位数に算入されます。ゼミナールⅠは社会科学基礎教育課程として「2 単位まで」算入されます。また、ゼミナールⅡ・Ⅲは学際・複合教育課程として、「8 単位まで」算入されます。したがって、ゼミナールは卒業単位として、「合計 10 単位まで」算入されます。なお、ゼミナールは同一学期に複数のクラスを履修することはできません。

※ 「学士入学者」は、2 年以上在学し、所定の科目を「76 単位以上」修得しなければなりません。

社会科学基礎教育課程（卒業必要単位数：80単位）

① 初年次教育

2019年度・2020年度入学者の初年次教育は、「ラーニング・コミュニティ」とグローバルエデュケーションセンター設置の「学術的文章の作成」から構成され、**各1単位、合計2単位**を履修します。

※1年次の春学期にどちらの科目も履修する必要がありますが、どちらを先に履修するかは学生によって異なります。春クォーターに「ラーニング・コミュニティ」が登録された学生は夏クォーターに「学術的文章の作成」が登録され、春クォーターに「学術的文章の作成」が登録された学生は夏クォーターに「ラーニング・コミュニティ」が登録されます。また、初年次教育の科目が不合格だった場合は、卒業までに修得する必要があります。

② 必修英語

英語は入学時の WeTEC 受験結果により、習熟度別クラスに分かれて履修します。

1年次に英語1-1（春学期／秋学期）各1単位、英語1-2（General Tutorial English）2単位、2年次に英語2-1（春学期／秋学期）各1単位、英語2-2（春学期／秋学期）各1単位、在学中**合計8単位**の修得が必要です。

※入学時の WeTEC が高得点だった者は、英語1-1、英語2-1、英語2-2ではなく、代替科目を履修します。代替科目は「グローバルラーニング」、「社会科学部英語学位プログラム提供科目」、「グローバルエデュケーションセンター提供 Tutorial English（実験実習料が必要です）」のいずれかから選択します。

※1・2年次に修得できなかった科目があった場合、卒業までに修得する必要があります。

③ 教養外国語

教養外国語は、ドイツ語・フランス語・中国語・スペイン語・イタリア語・朝鮮語・日本語（外国学生※のみ選択可）より1言語選択し、1年次の春学期に“〇〇語1・2基礎”各1単位、秋学期に“〇〇語1・2初級”各1単位、**合計4単位**の修得が必要です。

※外国学生とは、外国学生入試制度、海外指定校推薦入試制度および外国人留学生特別選考制度等により入学した学生です。

※イタリア語・朝鮮語・日本語は社会科学部設置科目ではないため、“基礎・初級”ではありません。必要単位数は同じ合計4単位です。

※1年次に修得できなかった科目があった場合、卒業までに修得する必要があります。

④ 選択外国語

教養外国語として選択しなかった言語及び「〇〇語・地域研究入門」「〇〇語・地域研究」を選択外国語として履修することが可能です。**卒業のための要件ではありませんが**、年間4単位・卒業まで8単位を上限として卒業算入単位とすることができます。

⑤ コア科目

コア科目は、社会科学部カリキュラムの基礎にあたる科目で、1・2年次に履修が望まれます。どの学問領域にも共通する基本的知識を身につけるとともに、それぞれの学問領域における基本的概念や専門用語についての知識を習得します。分析の技法や手法を中心に据えた「共通入門群」と、専門用語の解説や必須の概念・理論を中心に組み立てた「専門入門群」があり、あわせて**最低16単位**の修得が必要です。

⑥ 基盤専門科目

基盤専門科目は、主に1・2年次に履修します。専門科目の中でも基礎性が高く、専門的内容のエッセンスを1・2年次のうちに学び終えることを理想とする、社会科学基礎教育課程の中心科目です。社会科学総合・人文科学・自然科学・政治学・法学・経済学・商学・情報科学・社会科学特講・専門英語・グローバルラーニングの11分野があります。

⑦ ゼミナール

ゼミナールは、社会科学部の基本理念のひとつである「問題発見・解決のできる学生の育成」をより具体的に推し進めるため、少人数教育の充実を目指した演習授業です。**卒業のための要件ではありませんが**、修得した単位は、ゼミナールⅠは社会科学基礎教育課程、ゼミナールⅡ/Ⅲは学際・複合教育課程の単位として算入されます。ゼミナールの各クラスは、2年半にわたって一貫したテーマにより実施されます。ゼミナール登録は、担当教員による選考で決定し、合格したゼミナールが自動登録されます。

※ゼミナールⅡおよびⅢは、Ⅱ・Ⅲの履修者が合同で科目を受講します。

学際・複合教育課程（卒業必要単位数：44単位）

⑧ 先進専門科目

先進専門科目は、学際・複合教育課程に算入される科目で、主に3・4年次に履修します。新しい領域、学際性、専門性の高い科目が設置されている、学際・複合教育課程の中心科目です。社会科学総合・人文科学・自然科学・政治学・法学・経済学・商学・情報科学・社会科学特講・外国書研究の10分野があります。

⑨ 社会科学総合研究

社会科学総合研究は、「学際」の概念を推進し、最新の社会動向とそれらの抱える諸問題を総合的に分析、解決の糸口を探り出そうとする科目です。現代社会が直面しているテーマについて、専門分野を異にする教員が交替で担当し、多角的な切り口から問題を分析し講義する科目であり、本学部の標榜する社会科学の総合化・学際化を具現化する科目となっています。卒業のための要件ではありませんが、修得した単位は学際・複合教育課程の単位として算入されます。

1-3. 2018 年度以前入学者

課程	科目部門※1		科目分野	所定単位数				
				【1 年次入学、3 年次編入学】			【学士入学】	
社会科学基礎教育課程	必修外国語	①必修英語	英語 1	4 単位	8 単位	80 単位	—	
			英語 2	4 単位				
		②教養外国語	ドイツ語	4 単位				
			フランス語					
			中国語					
			スペイン語					
			イタリア語					
			朝鮮語					
		日本語						
	③選択外国語※2		0～8 単位			0～8 単位	32 単位	
	④コア科目	共通入門群	16～20 単位※3			0～12 単位		
		専門入門群						
	⑤ 基盤専門科目	社会科学総合分野	38～52 単位 (2012 年度以前、2018 年度入学者) 36～52 単位 (2013～2017 年度入学者)			10～32 単位		
		人文科学分野						
		自然科学分野						
		政治学分野						
		法学分野						
		経済学分野						
		商学分野						
		情報科学分野						
社会科学特講 (社会科学特殊講義)								
初年次教育								
専門英語								
グローバルラーニング								
⑥ ゼミナール※4	ゼミナールⅠ	0～2 (2012 年度以前、2018 年度入学者)			0～2 単位			
	ゼミナールⅡ・Ⅲ	0～4 (2013～2017 年度入学者)						
学際・複合教育課程	⑦ 先進専門科目	ゼミナールⅡ・Ⅲ	0～8 単位			0～8 単位	44 単位	
		社会科学総合分野	36～44 単位			36～44 単位		
	人文科学分野							
	自然科学分野							
	政治学分野							
	法学分野							
	経済学分野							
	商学分野							
	情報科学分野							
	先進社会科学特殊講義							
	外国書研究							
	⑧社会科学総合研究							
	卒業必要単位数の合計			124 単位			76 単位	

※1. 卒業必要単位数は、科目部門毎に定められた所定の単位数に達するように科目を履修し、単位を修得することで満たされます。

※2. 「選択外国語科目」の履修は、卒業のための要件ではありません。希望者が履修し修得した単位は「社会科学部基礎教育課程」の卒業必要単位として「8 単位まで」算入することができます。

※3. コア科目は、卒業までに「16 単位以上」の修得が必須となり、「20 単位まで」社会科学部基礎教育課程の卒業単位数に算入することができます。

※4. ゼミナールの履修は卒業のための要件ではありません。希望者が履修し修得した単位は、卒業単位数に算入されます。ゼミナールⅠは社会科学部基礎教育課程として、2012 年度以前入学者および 2018 年度入学者は「2 単位まで」、2013~2017 年度入学者は「4 単位まで」算入されます。また、ゼミナールⅡ・Ⅲは入学年度に関わらず学際・複合教育課程として、「8 単位まで」算入されます。したがって、ゼミナールは卒業単位として、2012 年度以前入学者および 2018 年度入学者は「合計 10 単位まで」、2013~2017 年度入学者は「合計 12 単位まで」算入されます。なお、ゼミナールは同一学期に複数のクラスを履修することはできません。

※ 「学士入学者」は、2 年以上在学し、所定の科目を「76 単位以上」修得しなければなりません。

※ 「3 年次編入学者」（転部者、3 年編入学者、外国学生編入学者）は、2 年以上在学し、1 年入学者と同様の所定単位数から、出身教育機関における修得単位のうち、本学部編入学時に認定を受けた各科目部門の単位数を減じた、残り単位数を修得することで卒業要件を満たします。

社会科学基礎教育課程（卒業必要単位数：80単位）

① 必修英語

英語は入学時の WeTEC 受験結果により、習熟度別クラスに分かれて履修します。

1 年次に英語 1-1（春学期／秋学期） 各 1 単位、英語 1-2（General Tutorial English） 2 単位、2 年次に英語 2-1（春学期／秋学期） 各 1 単位、英語 2-2（春学期／秋学期） 各 1 単位、在学中合計 8 単位の修得が必要です。

※2016 年度以降入学者で、入学時の WeTEC が高得点だった者は、英語 1-1、英語 2-1、英語 2-2 ではなく、代替科目を履修します。代替科目は「グローバルラーニング」、「社会科学部英語学位プログラム提供科目」、「グローバルエデュケーションセンター提供 Tutorial English（実験実習料が必要です）」のいずれかから選択します。

※1・2 年次に修得できなかった科目があった場合、卒業までに修得する必要があります。

② 教養外国語

教養外国語は、ドイツ語・フランス語・中国語・スペイン語・イタリア語・朝鮮語・日本語（外国学生※のみ選択可）より 1 言語選択し、1 年次の春学期に“〇〇語 1・2 基礎”各 1 単位、秋学期に“〇〇語 1・2 初級”各 1 単位、**合計 4 単位**の修得が必要です。

※外国学生とは、外国学生入試制度、海外指定校推薦入試制度および外国人留学生特別選考制度等により入学した学生です。

※イタリア語・朝鮮語・日本語は社会科学部設置科目ではないため、“基礎・初級”ではありません。必要単位数は同じ合計 4 単位です。

※1 年次に修得できなかった科目があった場合、卒業までに修得する必要があります。

③ 選択外国語

教養外国語として選択しなかった言語及び「〇〇語・地域研究入門」「〇〇語・地域研究」を選択外国語として履修することが可能です。**卒業のための要件ではありませんが**、年間 4 単位・卒業まで 8 単位を上限として卒業算入単位とすることができます。

④ コア科目

コア科目は、社会科学部カリキュラムの基礎にあたる科目で、1・2 年次に履修が望めます。どの学問領域にも共通する基本的知識を身につけるとともに、それぞれの学問領域における基本的概念や専門用語についての知識を習得します。分析の技法や手法を中心に据えた「共通入門群」と、専門用語の解説や必須の概念・理論を中心に組み立てた「専門入門群」があり、あわせて**最低 16 単位**の修得が必要です。

⑤ 基盤専門科目

基盤専門科目は、主に 1・2 年次に履修します。専門科目の中でも基礎性が高く、専門的内容のエッセンスを 1・2 年次のうちに学び終えることを理想とする、社会科学基礎教育課程の中心科目です。社会科学総合・人文科学・自然科学・政治学・法学・経済学・商学・情報科学・社会科学特講・専門英語・初年次教育・グローバルラーニングの 12 分野があります。

⑥ ゼミナール

ゼミナールは、社会科学部の基本理念のひとつである「問題発見・解決のできる学生の育成」をより具体的に推し進めるため、少人数教育の充実を目指した演習授業です。**卒業のための要件ではありませんが**、修得した単位は、ゼミナール **I は社会科学基礎教育課程**、ゼミナール **II/III は学際・複合教育課程**の単位として算入されます。ゼミナールの各クラスは、3 年間（2012 年以前の入学者および 2018 年度以降入学者は 2 年半）にわたって一貫したテーマにより実施されます。ゼミナール登録は、担当教員による選考で決定し、合格したゼミナールは自動登録されます。

※2012 年度以前入学者および 2018 年度以降入学者はゼミナール I（春学期）を卒業単位として算入できません。

※ゼミナール II および III は、II・III の履修者が合同で科目を受講します。

学際・複合教育課程（卒業必要単位数：44単位）

⑦ 先進専門科目

先進専門科目は、学際・複合教育課程に算入される科目で、主に 3・4 年次に履修します。新しい領域、学際性、専門性の高い科目が設置されている、学際・複合教育課程の中心科目です。社会科学総合・人文科学・自然科学・政治学・法学・経済学・商学・情報科学・先進社会科学特殊講義・外国書研究の 10 分野があります。

⑧ 社会科学総合研究

社会科学総合研究は、「学際」の概念を推進し、最新の社会動向とそれらの抱える諸問題を総合的に分析、解決の糸口を探り出そうとする科目です。現代社会が直面しているテーマについて、専門分野を異にする教員が交替で担当し、多角的な切り口から問題を分析し講義する科目であり、本学部の標榜する社会科学の総合化・学際化を具現化する科目となっています。卒業のための要件ではありませんが、修得した単位は学際・複合教育課程の単位として算入されます。

2. 分野紹介

社会科学部は、社会で起こる諸現象を、社会科学の専門諸分野の壁を越えた学際的・総合的視点から、分析、解明して、解決策を考えることを創設以来目指してきた学部です。もちろん、自然科学、人文科学の専門知識も動員します。以下のような科目群や分野があります。将来の目的に沿って上手に組み合わせて選択、履修してください。

社会科学総合分野

社会科学部（通称「社会学」）は、創設以来、社会・人文・自然科学の「総合」を教育理念としている学部です。現実社会が直面する複雑で錯綜した諸課題が、益々、総合的なものの見方とソリューションを要請しているからです。正しく問いを立てなければ、正しい解は導かれません。

社会科学総合分野は、社会学の中で専門分野の縦割りではなく「総合・学際的な科目」を旗印に、福祉、健康と人権、ジェンダー、セクシュアリティ、地域研究、環境、移民、ディーセント・ワーク、小集団、組織イノベーション、組織行動、地域市民社会、社会学、社会調査、多国籍企業、商業史、経済社会思想史、社会科学方法論、文化人類学、心理学、バイオエシックス、公共政策など、テーマ・課題を柱として開講しています。

無論、はじめから「総合」できる訳ではありませんが、まず、総合分野の「入門」や「基礎」の科目から履修をし、その間に、自分が格闘すべきテーマ・課題を見つけて、どんな科目がその課題の解明と解決に役立つのか、の順で考えて履修していきます。その際、ゼミでの学びが大いに役立つ筈です。

在学中に「総合」を志向・思考せずして、社会学を語るなかれ。そうでなければ、他学部の専門科目で事足ります。そして、正しい問いに出会えば、解けたも同然です。

人文科学分野・自然科学分野

学問は大きく人文・社会・自然科学に分けられます。社会科学の多くが近代とともに発展したのとは対照的に、人文科学や自然科学の歴史は古く、中には文明の始まりにまでさかのぼる分野もあります。また、社会科学が主に人間を集団として考察するのにに対し、哲学、文学、心理学のように個人の内面へと向かう視点もあります。人文・自然科学は、社会科学の礎となった学問領域であり、社会科学とは少し違った視点から社会や人間を研究します。

哲学、文学、歴史学のほかに、漢字文化圏の研究、言語学、文化やコミュニケーションに関する研究、写真や映像を使った社会デザインに関する研究、都市計画やまちづくり、環境科学、生物学的な人間研究、生物の世界と環境のかかわり进行分析する生態学など、みなさんの知的好奇心をかき立てる講義が、多数用意されています。これらは、大学生としての幅広い教養を涵養し、新しいアイデアやユニークな着眼点を生む知識の源になります。

政治学分野

政治現象は、地方・国家・国家間・地域・地球規模などさまざまなレベルで展開されます。これを比較・モデル・統計・法政策・歴史・哲学などの手法と視野から分析するのが政治学です。

「政治学入門」や「政治分析の基礎」は政治学の概要と思考様式の基礎を紹介し、「政治学原論」はそれらをより専門的に扱います。また、「国際関係論入門」は、理論とフィールドの両面から、紛争・暴力や共同・統合の問題について学ぶための基礎を提供し、「平和学」や「平和構築論」、「国際関係論」などの科目では、それらの諸問題についてより深く発展的に扱います。

さらに、政治的意思決定の形成を分析する「政治過程論」や「立法過程論」、法政策の運用に注目する「行政学」、各国統治制度を比較の視点も交えて講ずる「現代政治制度論」、地域ごとの研究を反映した「比較政治学」「現代政治分析」、政治理論や理念の歴史を扱う「政治学史」、情報と政治行動のダイナミクスを見る「情報政治論」「政治行動論」などの科目があります。

法学分野

法学は、法律や判例等を通じて制度化されている社会規範である法について学ぶ学問分野です。社会科学部の学生として社会科学を学ぶにあたって、制度の何たるかについての理解は不可欠です。市民間の紛争の解決の基準となる民事法および国家と市民との関係を規律する公法の基礎について学ぶ科目としてコア科目「法学入門」が用意されています。民事法の中でも基本的な法律である民法と会社法にかかわる科目、政府のあり方と国民の人権保障について定める憲法にかかわる科目、犯罪とその処罰についてさだめる刑法にかかわる科目を受講すれば、法学を専門的に学ぶための基盤を築くことができます。行政法や労働法を学ぶと世の中の仕組みがよく理解できるようになります。「環境法」、「医事法」、「国際経済法」のように、法学以外の分野との関連性が強い科目では、学際的な研究に触れることもできるでしょう。

法学分野の学習に関しては、アカデミックカテゴリー「リーガルマインド―法的なものの考え方と議論の技法」の履修ガイドも参考になりますので、参照することをおすすめします。

経済学分野

モノや金の取引は人類が長い歴史の中で培って来た規則にしたがっています。その規則は誰かが設計したものではなく、言語における文法のように出来上がったものです。言葉は日常的に用いられていますが、改めてその規則性を問い直そうと思ったら以上に複雑かつ精妙です。

経済活動を支配する法則も同様です。不便だから、不合理だからといって文法の一部を変更すると言語そのものが混乱してしまうのと同じように経済の仕組みを人為的に変化させると社会は機能しなくなることもしばしばです。この意味で経済学は言語学に似ていますし、一度手を加えるとなかなか元に戻らないという意味では生態学にも似ています。経済の営みの背後にある人々の深い結びつきを探究するのがミクロ経済学とゲーム理論です。具体的な統計データを使って経済全体の動きを分析するのがマクロ経済学です。これらをもとに経済の仕組みの中で何が基本で何を变えてはいけないうかを明らかにするのが経済学です。

貧困、暴力など、さまざまな問題が山積していますが、何かを変えると、また別の問題が発生します。

複数の理想が同時に達成できないことを示す不可能性定理も、たくさん存在しています。どうしても何かを変えたいなら事前のテストも必要です。そのために最近では実験経済学が発展しています。

理想を語るのではなく何ができて何ができないかを冷静に見極める視点を養うことが大切です。そうした大人の教養を身につけることを目指して経済学を勉強してください。

商学分野

企業の経営資源に「人」「物・サービス」「資金」「情報」があります。商学系列の科目を履修することで、これら経営資源を有効に活用し、高い生産性と企業価値の向上を達成するためのマネジメントについて理論的・実証的に学んでいくことができます。まず学んで欲しい中心的な科目として、「経営学入門」、「マーケティング入門」、「会計学入門」を設置しています。「経営学入門」では、企業の活動や、経営の仕組みについて基礎概念を取得することを目的としています。「マーケティング入門」では、商品やサービスなどの消費者との接点の諸相について、事例を踏まえて学んでゆきます。「会計学入門」では企業の財務状況や経営成績を分析する方法について学びます。

経営について、より専門的には「経営学」で学ぶことができます。また、現代企業に必須とされる科学的方法論のスキルは「経営科学」によって得られます。上述の経営資源に対応する固有領域は「経営組織論」「流通論」「国際貿易論」「管理会計」「外部報告会計論」「企業財務論」「情報科学論」に対応していますので、各分野における専門知識を習得することができます。いずれも経営のプロフェッショナルとして必須の内容です。

商学は金融・証券・保険・貿易など、様々な場面における取引がその対象領域とされていますが、本学部では経営に係わる広範な学問領域を学ぶことができます。

情報科学分野

情報科学分野の科目は、主として1、2年生を対象とした社会科学基礎教育課程と高学年を対象とした学際・複合教育課程の科目があります。前者は社会科学諸分野に共通するコンピュータアプリケーションソフトウェアの扱い方やインターネットの活用法を学びながら、社会科学に関わるデータの収集、処理、加工、蓄積、表現の基本的方法を、実習を通して学んでゆく科目です。その中で、簡単なプログラムを作成することも含まれています。後者は、社会科学それぞれの分野固有の問題を情報科学的立場からシステムとして複合的に解析すること、問題解決を目指した情報システムのデザイン、テキスト・画像・音声を総合的に融合し、表現するマルチメディアデータの処理を学んでゆく科目があります。

これらの科目を社会科学科目と併行して履修することにより、学んだことがらをより広く、深く理解し、更にその内容を多様な方法で表現することを体得することが出来ます。

3. 履修計画の指針

年間の登録制限単位数は 40 単位（半期 24 単位）、4 年次以上は 48 単位（半期 28 単位）です。（P.57 参照）
社会科学部には、社会科学を総合的に学ぶ社会科学総合と、政治、経済、法学、商学、人文、自然科学まで幅広い科目が設置されています。

科目履修は学生個人の興味に応じた設計が可能となるように高い自由度を有していますが、このことは履修科目あるいは知識や技術の虫食いの習得を容認するものではありません。

学問的な体系を考慮しない履修計画など、無計画な履修を行うことなく、学生個人の自己責任で自らにマッチした計画的な科目履修を大前提としています。

計画的な科目履修の指針の履修ガイドとして次の二つの指針を利用することが大切です。

ひとつは、アカデミックカテゴリーです。社会科学の様々な問題に理論的、実証的に取り組むため、伝統的な学問分野について学ぶ Academic Approaches と、今日の社会で生起している様々な問題から社会科学方法論を学ぶ Themes & Subjects があり、自身の興味に合わせて計画的に履修してください。

いまひとつは、2 年次秋学期から履修が可能になるゼミナールです。ゼミナールでは少人数でディスカッションを中心とした形式で行われます。2 年半の間同一のゼミナールを履修するのが原則ですので、自らの興味に合致したゼミナールの関連科目を履修することが重要です。

社会科学部で大きく成長するために、自らの将来を見定めた科目履修を行ってください。

3-1. 「アカデミックカテゴリー（特定テーマ研究）」とは

アカデミックカテゴリーは、他学部における専攻や専修にあたります。各自の履修計画の指針として、2 つの視点から構成される科目グループ（カテゴリー）を用意しています。**これらは卒業必須要件ではありませんが**、3 年生までに履修することが望ましく、可能な限り複数の領域に挑戦してみてください。

Academic Approaches

社会科学部の特色のひとつは「学際」です。逆説的のようですが、「学際」的なアプローチを行うには、伝統的な学問領域をしっかり学ぶことが重要です。伝統的な学問領域を体系的に学ぶことで、はじめて「学際」を理解することが可能になるからです。この分野群では、このような目的のために科目群を提供しています。

- 政治学・政治理論研究 P. 22
- 経済学 P. 23
- リーガルマインド P. 25
- ビジネス・アドミニストレーション P. 27
- グローバル社会と文化理解 P. 29
- データサイエンス P. 30
- ヨーロッパ研究 P. 31
- 社会学 P. 32

Themes & Subjects

今日の社会が抱える問題や、グローバル社会のなかでの日本のアイデンティティについて、サブジェクトベースでのアプローチを行う科目群です。伝統的な学問分野の枠を超えてアプローチすることが求められる問題に多面的にアプローチします。

- 法と経済学 P. 34
- サステナビリティ学 P. 35
- 社会デザイン P. 36
- 日本の社会と公共政策 P. 38
- 平和研究 P. 40
- 日本の歴史と文化 P. 42
- アメリカ研究 P. 43
- 社会調査 P. 44

Academic Approaches

政治学・政治理論研究 / Political Science

1. 概要

「政治」などという、ダサくて鬱陶しいものとは関わり合いになりたくないという諸君も多いであろう。しかし、政府の政策に何の影響も受けずにいられるかと言えば、そうではない。民主国家に生きる国民として、必要な政治現象に関する知識と判断力を得ることが、このアカデミックカテゴリーの目標である。政治現象を学ぶための政治学科は、必ずしも多くの大学に設置されてはいない。学科組織を取らないために見逃しやすいことは、本学部設置されている政治学関連科目がカバーする範囲と内容は、多くの他大学の政治学科のそれに遜色がないことである。この条件を生かしてほしい。

2. 修了必要単位：14単位（必須科目から4単位、選択科目10単位）

▼必須科目

科目名	科目区分	配当年次	単位数
政治分析の基礎	コア科目	1年～	2
政治学入門	コア科目	1年～	2
政治学原論Ⅰ	基盤専門	2年～	2
政治学原論Ⅱ	基盤専門	2年～	2
政治学史Ⅰ	基盤専門	2年～	2
政治学史Ⅱ	基盤専門	2年～	2

※必須科目のうち、4単位を超えて修得した単位は、選択科目の単位として取り扱う。

▼選択科目

科目名	科目区分	配当年次	単位数
選挙制度論	基盤専門	1年～	2
政治分析	基盤専門	1年～	2
日本政治史Ⅰ	基盤専門	1年～	2
日本政治史Ⅱ	基盤専門	1年～	2
外国政治史Ⅰ	基盤専門	1年～	2
外国政治史Ⅱ	基盤専門	1年～	2
現代政治制度論	基盤専門	2年～	2
比較政治制度論1	基盤専門	2年～	2
比較政治制度論2	基盤専門	2年～	2
行政学Ⅰ	基盤専門	2年～	2
行政学Ⅱ	先進専門	2年～	2
現代選挙論1	先進専門	2年～	2
現代選挙論2	先進専門	2年～	2
現代政治分析	先進専門	3年～	2
政治過程論1	先進専門	3年～	2
政治過程論2	先進専門	3年～	2
政治行動論Ⅰ	先進専門	3年～	2
政治行動論Ⅱ	先進専門	3年～	2

Academic Approaches

経済学 / Economics

1. 概要

ポイント：経済学関連の科目の履修に際しては、ミクロ経済学ならびにマクロ経済学の基礎知識が必要不可欠である。経済学アカデミックカテゴリーでは、「経済学入門 1〔ミクロ経済学〕」、「経済学入門 2〔マクロ経済学〕」の履修を必須とすることで、それらを応用した科目の履修がスムーズに行われるよう配慮されている。

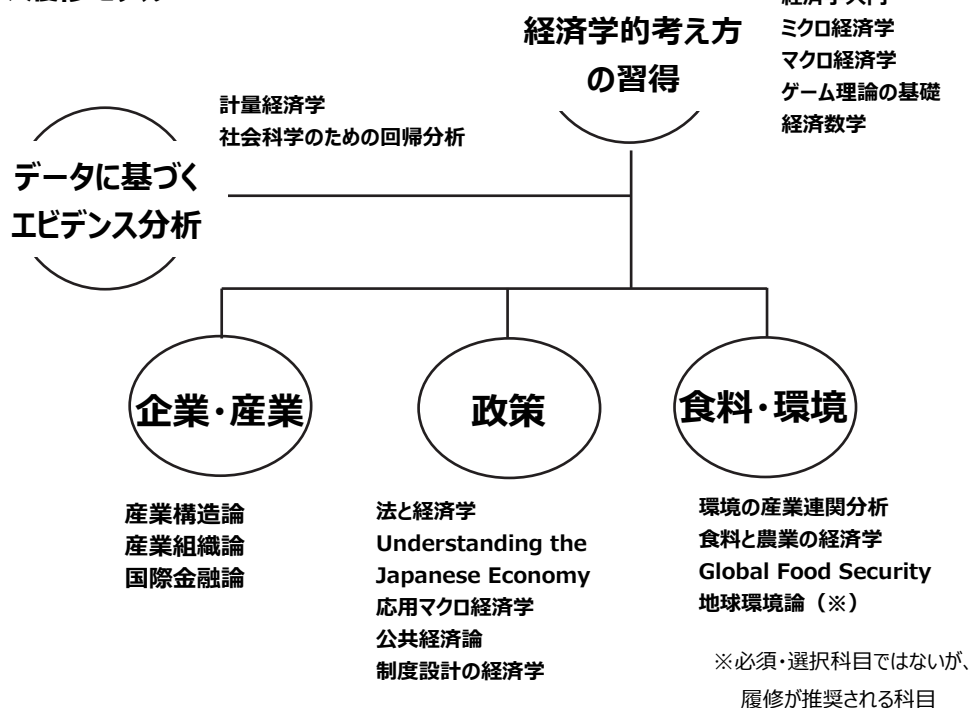
私たちの生活にとって経済活動は欠かせないものである。しかし、その背後にある経済の仕組みを理解し、それをより良いものにするための方策を明瞭に語れる人は少ないだろう。特に現代の経済は、急速なグローバル化の影響もあり、非常に複雑化している。このように身近な存在であるにも関わらず、難解とも思える経済に対して、経済学は「経済モデル」と呼ばれる現実を簡略化した理論モデルを用いることによって、その実体（性質や構造など）を明らかにしようと試みる学問である。従って経済学では、この経済モデルを丹念に学習していくことが中心となる。

ところで経済を学ぶ上で、どのようなことを知りたいと思うだろうか。「物の値段がどのように決まるのかを知りたい」、「自由な市場取引の利点と限界を知りたい」、「そもそも人は、どのように財の購入を決定しているか知りたい」という人もいるかもしれない。このような、個々の市場や主体の行動に関するテーマを扱う分野は、**ミクロ経済学**と呼ばれる。一方で、「日本の国内総生産（GDP）がどのように決まるのかを知りたい」、「国によって経済成長率、インフレ率、失業率などが異なるのはなぜかを知りたい」、「政府の財政政策や金融政策が、どのように経済に影響するのかを知りたい」と思う人もいるだろう。これらは一国全体の経済の動きに関するものであり、**マクロ経済学**と呼ばれる分野で扱うテーマである。そして経済学は大きく分けて、これらの2つの分野から構成される。これらに加えて、**現実のデータ**を用いて経済モデルを検証したり、経済の動きを分析したりするアプローチも存在する。実際、経済学は理論モデルと現実のデータを、上手に融合する形で発展を遂げてきている。

経済学アカデミックカテゴリーでは、上述のミクロ経済学とマクロ経済学を理解する上で前提となる知識を得るために、「**経済学入門 1・2**」の履修を**必須**としている。これらの科目は最初に履修することが望ましく、その上で**学部 2 年次までに「ミクロ経済学 I・II」、「マクロ経済学」、「ゲーム理論の基礎」、「経済数学 1・2」**を履修することが**強く推奨**される。ゲーム理論は、戦略的な状況下における人々や企業などの行動を分析する分野であり、伝統的な経済学に対して新しい視点を与える分析ツールの一つとして知られている。経済数学は、経済モデルを正確に理解し、自在に使いこなせるようになるための基礎を与える科目である。また、現実のデータを通じて経済を理解するために、「**計量経済学 I・II**」を同時並行的に履修することも**推奨**する。

これらの基礎的な学習の後、学部 3・4 年次では、より専門的なテーマを学習する。ここでは、企業の行動や産業の規制方法などを分析する『**企業・産業**』、経済的な問題に対する政策のあり方などを学ぶ『**政策**』、食料・環境問題といった現代の経済を取り巻く諸問題などを扱う『**食料・環境**』の3つのテーマが用意されている。これらの中から1つを選んで深く学習することで、そのテーマに関するスペシャリストを目指しても良いし、いくつかのテーマを横断的に選択することで、総合力を身につけても良い。いずれにおいても、1・2 年次でしっかりと経済モデルやデータの扱い方の基礎を身につけ、3・4 年次でそれを土台として応用力を磨くことで、経済学の全貌が見えてくる。

◆履修モデル



2. 修了必要単位：14単位（必須科目4単位、選択科目10単位）

▼必須科目

科目名	科目区分	配当年次	単位数	科目名	科目区分	配当年次	単位数
経済学入門1(ミクロ経済学)	コア科目	1年～	2	経済学入門2(マクロ経済学)	コア科目	1年～	2

▼選択科目

科目名	科目区分	配当年次	単位数	科目名	科目区分	配当年次	単位数
統計解析の基礎(2020年度以前履修分)	コア科目	1年～	2	ゲーム理論の基礎 ※推奨科目	コア科目	1年～	2
経済数学1 ※推奨科目	基盤専門	1年～	2	経済数学2 ※推奨科目	基盤専門	1年～	2
ミクロ経済学Ⅰ ※推奨科目	基盤専門	2年～	2	ミクロ経済学Ⅱ ※推奨科目	基盤専門	2年～	2
マクロ経済学 ※推奨科目	基盤専門	2年～	4	産業構造論	基盤専門	2年～	2
計量経済学Ⅰ(2020年度以前履修分)	基盤専門	2年～	2	計量経済学Ⅱ(2020年度以前履修分)	基盤専門	2年～	2
社会科学のための回帰分析Ⅰ(2021年度履修分)	基盤専門	2年～	2	社会科学のための回帰分析Ⅱ(2021年度履修分)	基盤専門	2年～	2
社会科学のための回帰分析1	基盤専門	2年～	2	社会科学のための回帰分析2	基盤専門	2年～	2
公共経済論Ⅰ	基盤専門	2年～	2	公共経済論Ⅱ	基盤専門	2年～	2
Understanding the Japanese Economy: Microeconomic Perspectives	基盤専門	1年～	2	Understanding the Japanese Economy: Macroeconomic Perspectives	基盤専門	1年～	2
食料と農業の経済学1〔食料需給の決定要因と食料問題・農業調整問題〕	先進専門	2年～	2	食料と農業の経済学2〔日本の経験と教訓〕	先進専門	2年～	2
Global Food Security: Demand and Supply Challenges	先進専門	2年～	2	Global Food Security: Climate Change, Food and Agriculture	先進専門	2年～	2
国際金融論Ⅰ(2019年度以前履修分)	先進専門	3年～	2	国際金融論Ⅱ(2019年度以前履修分)	先進専門	3年～	2
International Finance	先進専門	1年～	2	国際金融論	先進専門	2年～	2
環境の産業連関分析	先進専門	3年～	2	法と経済学(2018年度以前履修分)	先進専門	3年～	2
法と経済学Ⅰ	先進専門	3年～	2	法と経済学Ⅱ	先進専門	3年～	2
制度設計の経済学Ⅰ	先進専門	3年～	2	制度設計の経済学Ⅱ	先進専門	3年～	2
応用ミクロ経済学Ⅰ	先進専門	3年～	2	応用ミクロ経済学Ⅱ	先進専門	3年～	2
応用計量経済学Ⅰ(2021年度以前履修分)	先進専門	3年～	2	応用計量経済学Ⅱ(2021年度以前履修分)	先進専門	3年～	2
応用計量経済学Ⅰ(2022年度履修分)	先進専門	3年～	2	応用計量経済学Ⅱ(2022年度履修分)	先進専門	3年～	2
応用計量経済学	先進専門	3年～	2	応用マクロ経済学(2022年度以前履修分)	先進専門	3年～	4
産業組織論	先進専門	3年～	4	応用マクロ経済学	先進専門	3年～	2

▼必須・選択科目ではないが、履修が推奨される科目

科目名	科目区分	配当年次	単位数
地球環境論(2024年度以前履修分)	先進専門	3年～	4

Academic Approaches

リーガルマインドー法的なものの考え方と議論の技法 / Legal Mind

1. 概要

「リーガルマインド」という言葉は、「法的思考」、「法律の実際の適用に必要とされる、柔軟、的確な判断」などと定義されることがありますが、もう少し広い意味でも使われます。このアカデミックカテゴリーは、法学分野のうち特に基本となる法律科目の総合的学習を通じて、法解釈の基本の習得、法的思考や議論の技法の獲得を目指すものです。

社会科学部には、基本的科目から、他大学・学部にはほとんど例を見ない学際・複合的な科目まで、多くの法律系科目が設置されています。「六法」に載っている法律の条文をあまり使わない科目もあります。科目によっては、このアカデミックカテゴリーに含まれるような基本的科目をある程度履修した上での履修が望まれます。

法律の中には、正確に覚えておいた方がよい条文があります。ただ、「六法全書」に載っている膨大な数の条文をやみくもに暗記・記憶しようとしても、すぐに挫折するでしょうし、暗記できたとしてもそれだけでは正しく使いこなすことはできません。条文の読み方や解釈については、長い歴史を経てある程度明確に固まった手法もあれば、暗黙のルールや運用のようなものもあります。

法律問題について、解釈の結果、全員一致で一つの結論に落ち着くとは限りません。特定の条文や論点の解釈について、明治時代からずっと多くの学説や判例の対立が続いていることも少なくありません。なぜ学説や判例が矛盾・対立しているのか、その理由を探求することで、法的な論理構造や発想法に触れることができます。

法律は専門家だけのものではありません。だれしも、生活していく上で必要な法律知識や法的発想法を身に付けておく必要があります。法律に直接関係なく暮らしていると考えている人々にとっても、現代社会を生きていく上で知っておくべき法律的情報や知識があります。情報や知識だけでなく、法的な思考方法、論理展開に慣れておくことも重要でしょう。

法律の専門家を志す学生、法律に強い興味を持ち専門的学習を目指す学生にとって、法律学の基本となる憲法、民法、刑法について総合的な知識を身に付けることは、その後の学習・研究にとって極めて重要であることはいうまでもありません。ある条文・論点について、なぜ学説が対立しているのか、なぜ複数の判例は矛盾したかのような結論に至っているのか、それらの理由、背景、沿革などを理解し、さらにいくつかの法律を学ぶ過程で、「解釈」の種類や方法についての理解が深まるはずです。

また、一見すると法律とは直接関係がないように見える他の専門分野の専門的学習を志す学生にとっても、基本的な法律知識はもちろん、条文解釈の技法や法的議論の様式を学ぶことは、それぞれの専門分野で必要となる法的知識の修得を容易にし、その後の学習・研究をさらに深めるのに資するものとなるでしょう。

◆履修モデル：

Step	私法系	公法系	学際／複合系	科目部門 との対応
Step 4	・会社法 3〔組織再編・M&A〕 ・金融商品取引法 2	・刑法各論 2〔財産に対する罪〕 ・学校教育と憲法 ・刑事政策 ・犯罪学	・生命倫理と法 1・2 ・法情報学 ・現代雇用社会の法と政策 ・Bioethics, Family and the Law	おもに 先進専門科目
Step 3	・会社法 2〔会社のファイナンス〕 ・金融証券取引法 1 ・民法 3〔債権総論〕 ・民法 4〔債権各論〕	・刑法各論 1〔個人、社会、国家に対する罪〕 ・国際法 2	・法社会学 I・II ・環境法 1〔公害規制法〕・2〔自然保護法〕 ・知的財産権法（著作権法） ・知的財産権法（特許法，商標法，不正競争防止法） ・国際経済法 2 ・労使関係法 ・労働市場法	
Step 2	・民法 2〔物権〕 ・民法 5〔親族〕 ・民法 6〔相続〕 ・会社法 1〔会社のガバナンス〕	・行政法 ・国際法 1 ・刑法総論 ・刑法総論 I〔犯罪論の基本構造〕 ・刑法総論 II〔犯罪の諸形態〕	・医事法 ・国際経済法 1 ・雇用関係法 I ・雇用関係法 II	おもに コア科目／ 基盤専門科目
Step 1	・民法 1〔総則〕 ・法学入門	・憲法 I・II		

2. 修了必要単位：10単位（必須科目から2単位、選択科目8単位）

▼必須科目

科目名	科目区分	配当年次	単位数
憲法 I	基盤専門	1年～	2
法学入門	コア科目	1年～	2
公法入門（国家と法）（2021年度以前履修分）	コア科目	1年～	2
私法入門（市民と法）（2021年度以前履修分）	コア科目	1年～	2

※必須科目のうち、2単位を超えて修得した単位は、選択科目の単位として取り扱う。

▼選択科目

科目名	科目区分	配当年次	単位数
憲法 II	基盤専門	2年～	2
刑法総論 I〔犯罪論の基本構造〕	基盤専門	1年～	2
刑法総論 II〔犯罪の諸形態〕	基盤専門	2年～	2
刑法総論（2023年度以前履修分）	基盤専門	1年～	4

Academic Approaches

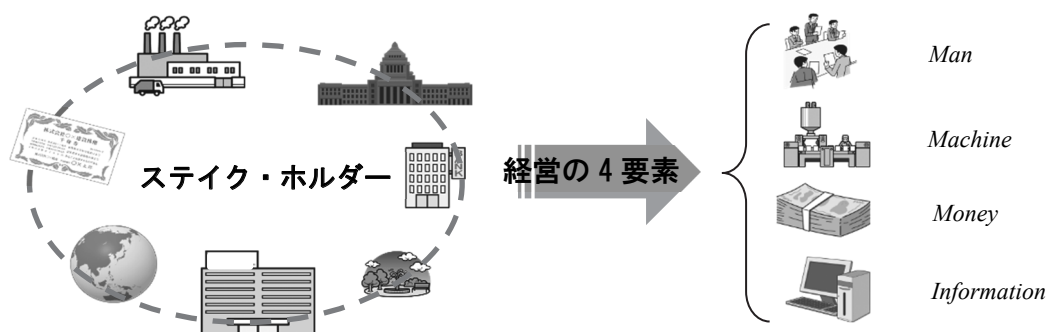
ビジネス・アドミニストレーション / Business Administration

1. 概要

学生の皆さんはすでに企業・会社と、さまざまな形で接点を持っていることと思います。最も身近な企業との関わり合い方は、顧客(消費者)としての立場であろうと思います。企業が我々に提供するものは製品ばかりでは無いことは、指摘するまでもありません。企業が提供する財には、人が直接サービスという価値を提供する形態(例えば学習塾やコンサルティング業務)、企業の運営する資産が人を介さずにサービスを提供するケース(例えば、インターネット接続サービスや、インターネットバンキング)など様々な形態が取られています。そしてこれらに何らかの形で人(従業員)が介在していることは指摘するまでもありません。

企業が提供する製品やサービスは今後も多様化してゆくことが予想されますが、経営の3要素あるいは4要素とよばれるヒト・モノ・カネそして情報を適切に管理運営しなければ、安定的な生産やサービスの提供は継続できませんし、利益を確保することもできません。利益を確保することが出来なければ企業の存続さえ危険にさらされるのです。

このカテゴリーでは、ベーシック・コースとして、経営の4要素に関わる基本的な知識を学ぶことで、会社を中心として将来社会人として社会で活躍するために必要な能力の基礎となるカリキュラムを提供しています。



さらにアドバンス・コースでは、企業経営者に必要な知識を提供しています。また、ここではより広範なステイク・ホルダー(利害関係者)を対象に様々な分析が行われます。顧客や従業員のほかに、企業には様々なステイク・ホルダーが存在します。資金を提供する投資家(株主・債権者)、銀行、協力企業(サプライヤ)、地域社会・国家など多彩な利害が介在しています。アドバンス・コースでは、より広い視点から企業を分析してゆきます。

企業を取り囲む経営環境は日々変化し、様々な環境要因が複雑に絡み合っています。従って、他の社会科学の領域と同様に、全く同じ環境で“実験”を行うことや、一度生起した事象を“再現”することは不可能です。しかし、企業の経営成績は偶然の産物として得られるわけではありません。取り扱う製品やビジネスモデルが秀逸だからといって、必ずしも好業績が得られるとは限らないのです。企業には経営の巧拙があります。名経営者と呼ばれる人たちは、複雑に絡み合った糸を丁寧にほぐして、その本質を突き詰めて意思決定を行っていると考えられます。優秀な経営者は、極めて抽象化された世界で、経営の本質を見抜くからこそ、複雑な要因が介在しても、経営環境が変化しても好業績を残せるのだと考えられています。トップ・マネジメントにとってこのような思考は極めて重要ですから、将来に向けて企業に対する高い視点を手に入れたい方は、より普遍的なアプローチを指向するアドバンス・コースにチャレンジしてみてください。

人に関わる領域	モノ・情報に関わる領域	カネに関わる領域	経営全般	
経営組織論	流通論 I・II 経営科学 2 品質管理	企業財務論 管理会計	経営戦略 1・2	ビジネスのための 専門知識
	ビジネスのための データサイエンス 経営科学 1 国際貿易論 1・2 グローバル・サプライ チェーン・マネジメント 情報科学論	経営分析 証券論 簿記 会計学	国際経営論 1・2	
経営学				ビジネスのための 基礎知識
経営学入門	マーケティング入門	会計学入門	経営学入門	

◆ビジネスのための基本知識

学部2年生までの履修を前提とした科目群です。概要でのべたように、会社を運営して行くためには、ヒト・モノ・カネ・情報を効率的に管理運営しなければなりません。これらの個別要素がどのように関わって会社が運営されているのかを理解することは、会社を知る第一歩です。会社で働く、あるいは、会社と取引(商売)を行うために、ビジネスの仕組みに関する基本的な知識を提供すると言い換えることもできるでしょう。この科目群では、そのための基本を提供するとともに、さらにビジネス関係の科目を深く学習したい学生のための基礎的知識を提供します。

◆ビジネスのための専門知識～経営者の必須知識～

学部3年生以上の履修を前提とした科目群です。ビジネス関連のゼミナールを履修してより専門的に学習する学生はもちろん、ビジネスの固有領域における専門性を身につけたい学生のための科目群です。これらの科目は、自らが経営者あるいは起業家として、会社と主体的に関わるための必須の知識であると同時に、シンクタンクを含む研究機関で企業の様々な行動を分析・研究するための基盤を提供することを目的としています。

2. 修了必要単位：14単位（必須科目から4単位、選択科目10単位）

▼必須科目

科目名	科目区分	配当年次	単位数
マーケティング入門	コア科目	1年～	2
経営学入門	コア科目	1年～	2
会計学入門	コア科目	1年～	2

※必須科目のうち、4単位を超えて修得した単位は、選択科目の単位として取り扱う。

▼選択科目

科目名	科目区分	配当年次	単位数
簿記	基盤専門	1年～	4
情報科学論	基礎専門	1年～	4
国際貿易論 1	基盤専門	2年～	2
国際貿易論 2	基盤専門	2年～	2
産業心理学 I	基盤専門	2年～	2
産業心理学 II	基盤専門	2年～	2
経営分析	基盤専門	2年～	2
会計学	基盤専門	2年～	4
経営学	基盤専門	2年～	4
証券論	基盤専門	2年～	4
グローバル・サプライチェーン・マネジメント	基礎専門	2年～	4
ビジネスのためのデータサイエンス	基盤専門	2年～	4
経営科学 1	基盤専門	2年～	4
品質管理	先進専門	2年～	2
国際経営論 1	先進専門	2年～	2
国際経営論 2	先進専門	2年～	2
生産システム論	先進専門	3年～	2
経営戦略 1	先進専門	3年～	2
経営戦略 2	先進専門	3年～	2
人的資源管理論 I	先進専門	3年～	2
人的資源管理論 II	先進専門	3年～	2
管理会計	先進専門	3年～	4
経営組織論	先進専門	3年～	4
企業財務論	先進専門	3年～	4
経営科学 2	先進専門	3年～	4

Academic Approaches

グローバル社会と文化理解 / *Cultures in Global Society*

1. 概要

私たちは、かつてないほどのグローバル化の時代を生きています。早稲田大学でも 100 を超える国や地域出身の 5,000 人以上の留学生がともに学び、日本で教育を受けてきた学生たちも世界各地に学びの場を広げています。また卒業後のみなさんは海外あるいは地域社会で、日常的にアイデンティティや他者認識を問われていくことになるでしょう。このような変化のなかで、私たちには自文化、異文化を理解し、異なった文化的背景をもつ人びととコミュニケーションする能力が求められています。それは国籍だけでなく、エスニシティ、宗教、ジェンダーなどにも関わります。多層的に交錯する多様性のなかで、どのように差異を認識し、受け止め、「異なっていること」を前提としながら共生を指向していくのかを、私たちは考えていかなばなりません。そのためには、文化に関わる現状およびその分析手法について、理解する必要があります。

このアカデミックカテゴリーでは、文化表出のさまざまな形、文化の社会的機能、そこから派生している現実の諸問題等を理解するための知識を修得し、自文化、異文化に対する自らの向き合い方を考えることを目的としています。ここでは文化を特定の集団内で共有される思考様式、行動様式、価値観など、広い概念として捉え、伝統的なもの・新たに創出されるもの、結束・連帯の強化あるいは対立・紛争の要因としての文化、様々な目的のために利用される資源としての文化など、さまざまな視角から文化をとらえています。

1 年生から履修できる科目がほとんどです。いくつかの科目を履修し、関心が強まれば 2 年以上配当のより専門性の高い科目や、関連するゼミの履修につなげてください。

1. (1 年以上配当)

多様な視点からの文化理解のための科目

文化人類学 1・2 日本文化論 漢字文化圏論 1・2 異文化コミュニケーション論

2. (2 年以上配当)

2-1. 思想、歴史、政策的視点からの文化理解のための科目

日本文化研究 中国研究 1・2

2-2. 外国語文献の講読による文化理解のための科目

中国書研究 西書研究

2. 修了必要単位：12 単位（選択科目のみ）

▼選択科目

科目名	科目区分	配当年次	単位数
文化人類学 1	基盤専門	1 年～	2
文化人類学 2	基盤専門	1 年～	2
日本文化論(2023 年度以前履修分)	基盤専門	1 年～	2
漢字文化圏論 1	基盤専門	1 年～	2
漢字文化圏論 2	基盤専門	1 年～	2
異文化コミュニケーション論	基盤専門	1 年～	2
芸術論 1 (2021 年度以前履修分)	基盤専門	1 年～	2
芸術論 2 (2021 年度以前履修分)	基盤専門	1 年～	2
日本研究 1	基盤専門	1 年～	2
日本研究 2	基盤専門	1 年～	2
日本文化研究(2023 年度以前履修分)	先進専門	2 年～	2
中国書研究(2023 年度以前履修分)	先進専門	2 年～	2
中国語・地域研究演習 1	先進専門	2 年～	2
中国語・地域研究演習 2	先進専門	2 年～	2
中国研究 1	先進専門	3 年～	2
中国研究 2	先進専門	3 年～	2
西書研究(2023 年度以前履修分)	先進専門	3 年～	2
スペイン語・地域研究演習 1	先進専門	2 年～	
スペイン語・地域研究演習 2	先進専門	2 年～	

Academic Approaches

データサイエンス / Data Science

1. 概要

近年、ビッグデータや、AI、機械学習などという用語を頻繁に目にするようになりました。インターネットをはじめとする様々なネットワークや、IoT(Internet of Things)機器から、時々刻々と膨大なデータが生み出され、これら大量のデータを有効に活用しようという動きが広く社会の中で活発になっています。また、様々な学問分野においても、「データによる実証」の重要性が再認識されています。

「データサイエンス」というと非常に難しい分野のように感じるかもしれませんが、しかし、データサイエンスの考え方は実は非常にシンプルです。それは、現実世界における現象を何かしらの方法で観測し、そこから得られたデータを定量的に評価、意思決定に繋げるという考え方です。また、このデータサイエンスの考え方は決して新しいものではありません。例えば、1800年代に活躍した近代看護の母であるフローレンス・ナイチンゲールの重要な功績は、野戦病院における衛生環境に関するデータ分析によってもたらされたのは有名な話です。本学の創設者である大隈重信は、日本における初の統計機関である統計院を設置するなど、政策決定における統計の重要性を訴えていました。つまり、現在の世界的なデータサイエンスのブームは、決して一過性のものなどではなく、もともと古くから重要視されていた考え方が技術の進歩により、今まで充分適用できなかった様々な場面に活用できるようになったため起きていると考えられます。

データサイエンスはデータから有用な知識を抽出するための方法論です。そのため、データサイエンスの手法だけがそこにあっては何もできません。分析対象となるデータやその背景にある問題と合わせることで、データサイエンスは初めてその本領を発揮します。また、データサイエンスの応用範囲は極めて広く、ビジネスはもちろん、政治、経済、社会、あらゆる実社会、学問分野で活用できます。そのため、社会科学部で学ぶことができる、様々な専門知識とデータサイエンスの知識を融合することで、個々の専門領域をより深く理解できるようになると共に、データサイエンスの知識も深く学ぶことができます。

本アカデミックカテゴリーでは、データサイエンスの基礎から、様々な分野における応用について学んでいきます。更に、今後ますます重要になっていくであろう、社会におけるデータ活用に関する諸問題についても学ぶことができます。

2. 修了必要単位：14単位（必須科目から4単位、選択科目10単位）

▼必須科目

科目名	科目区分	配当年次	単位数
統計解析の基礎（2020年度以前履修分）	コア科目	1年～	2
社会調査の基礎	コア科目	1年～	2
社会科学のための基礎コンピュータ	コア科目	1年～	4
データ科学入門α（フルオンデマンド）	他箇所科目	1年～	1
データ科学入門β（フルオンデマンド）	他箇所科目	1年～	1

※必須科目のうち、4単位を超えて修得した単位は、選択科目の単位として取り扱う。

▼選択科目

科目名	科目区分	配当年次	単位数
情報科学論	基盤専門	1年～	4
社会科学のための数学	基盤専門	1年～	4
社会科学のための回帰分析Ⅰ（2021年度履修分）	基盤専門	1年～	2
社会科学のための回帰分析Ⅱ（2021年度履修分）	基盤専門	1年～	2
社会科学のための回帰分析Ⅰ	基盤専門	1年～	2
社会科学のための回帰分析Ⅱ	基盤専門	1年～	2
計量経済学Ⅰ（2020年度以前履修分）	基盤専門	2年～	2
計量経済学Ⅱ（2020年度以前履修分）	基盤専門	2年～	2
産業構造論	基盤専門	2年～	2
ビジネスのためのデータサイエンス	基盤専門	2年～	4
International Finance	先進専門	1年～	2
品質管理	先進専門	2年～	2
国際金融論	先進専門	2年～	2
国際金融論Ⅰ（2019年度以前履修分）	先進専門	3年～	2
国際金融論Ⅱ（2019年度以前履修分）	先進専門	3年～	2
データ倫理	先進専門	3年～	1
法情報学	先進専門	3年～	2
環境の産業連関分析	先進専門	3年～	2
応用計量経済学Ⅰ（2021年度以前履修分）	先進専門	3年～	2
応用計量経済学Ⅱ（2021年度以前履修分）	先進専門	3年～	2
応用計量経済学Ⅰ（2022年度以前履修分）	先進専門	3年～	2
応用計量経済学Ⅱ（2022年度以前履修分）	先進専門	3年～	2
応用計量経済学	先進専門	3年～	2
金融データ解析Ⅰ	先進専門	3年～	2
金融データ解析Ⅱ	先進専門	3年～	2
経営科学Ⅱ	先進専門	3年～	4

Academic Approaches

ヨーロッパ研究 / European Studies

1. 概要

自由民主主義、資本主義経済、立憲主義、福祉国家など、近現代社会の政治経済の基本的な原理や制度は、そのほとんどがヨーロッパに起源をもっています。明治維新以後の日本もまた、ヨーロッパ諸国を手本に近代化を進めました。現代においても、日本国憲法をはじめとする法制度や、議会制度、教育制度、社会保障制度には、ヨーロッパで生まれた「市民社会（civil society）」の理念の強い影響がみられます。

また、多様な民族と文化から成る今日のヨーロッパでは、絶えまない戦争の歴史や、帝国主義や植民地支配の影響が残る一方で、EU に代表される国民国家体制を超えた政治・経済・社会の統合への模索がみられます。このような国家の枠組みの変更は、市民の移動や移民の流入とあいまって、都市や市民権の考え方にも変化をもたらしています。こうしたヨーロッパの試みを学ぶことは、変容する国際政治や、グローバル経済、多文化社会の未来を展望するうえで、欠かせないものであるといえます。

「ヨーロッパ研究」は、ヨーロッパ諸地域の独自性への関心とともに、現代社会の基礎をなす「市民社会」の歴史・思想・制度への視座、およびグローバル化する政治・経済・社会の未来像への展望をあわせもつ、多角的・学際的な研究分野です。それはまた、ヨーロッパ中心主義的な価値観や植民地主義など、ヨーロッパが世界へもたらしてきた負の遺産への批判的な視点を身につけることにもつながるでしょう。

このアカデミックカテゴリーは、「政治・経済・社会」の3つの観点からヨーロッパ市民社会の歴史と現状を学ぶことを通して、現代社会とその展望についての深い理解をもたらすことを目指します。

- ◆ 政治にかかわる科目
現代市民権理論、EU 地域研究 I、政治学史 I、政治学史 II
- ◆ 経済にかかわる科目
近代経済社会思想史 1、近代経済社会思想史 2、比較経済史 1、比較経済史 2、商業史 I、商業史 II、社会科学総合研究（ロシア東欧現代経済）1、社会科学総合研究（ロシア東欧現代経済）2
- ◆ 社会に関わる科目
ヨーロッパ市民社会論 1、ヨーロッパ市民社会論 I、ヨーロッパ市民社会論 2、ヨーロッパ市民社会論 II、EU 地域研究 II、比較近代社会思想 1、比較近代社会思想 2、EU・ドイツの都市づくり、仏書研究、フランス語・地域研究演習 1、フランス語・地域研究演習 2

2. 修了必要単位：14 単位（必須科目 4 単位、選択科目 10 単位）

▼ 必須科目

科目名	科目区分	配当年次	単位数
ヨーロッパ市民社会論 1（2020 年度以前履修分）	基盤専門	1 年～	2
近代経済社会思想史 1	基盤専門	1 年～	2
現代市民権理論	先進専門	3 年～	2
ヨーロッパ市民社会論 I（2023 年度以前履修分）	先進専門	3 年～	2
ヨーロッパ市民社会論 1	先進専門	3 年～	2

▼ 選択科目

科目名	科目区分	配当年次	単位数
EU 地域研究 1（2019 年度以前履修分）	基盤専門	1 年～	2
EU 地域研究 2（2019 年度以前履修分）	基盤専門	1 年～	2
近代経済社会思想史 2	基盤専門	1 年～	2
比較経済史 1	基盤専門	1 年～	2
比較経済史 2	基盤専門	1 年～	2
政治学史 I	基盤専門	2 年～	2
政治学史 II	基盤専門	2 年～	2
商業史 I	先進専門	2 年～	2
商業史 II	先進専門	2 年～	2
比較近代社会思想 1	先進専門	2 年～	2
比較近代社会思想 2	先進専門	2 年～	2
EU・ドイツの都市づくり（2023 年度以前履修分）	先進専門	2 年～	2
フランス語・地域研究演習 1	先進専門	2 年～	2
フランス語・地域研究演習 2	先進専門	2 年～	2
EU 地域研究 I	先進専門	3 年～	2
EU 地域研究 II	先進専門	3 年～	2
ヨーロッパ市民社会論 II（2023 年度以前履修分）	先進専門	3 年～	2
ヨーロッパ市民社会論 2	先進専門	3 年～	2
仏書研究（2023 年度以前履修分）	先進専門	3 年～	2
社会科学総合研究（ロシア東欧現代経済）1	社会科学総合研究	3 年～	2
社会科学総合研究（ロシア東欧現代経済）2	社会科学総合研究	3 年～	2

Academic Approaches

社会学 / Sociology

1. 概要

社会学は、さまざまな価値観をもった人々が集まって形づくる集団・社会や社会生活を研究し、社会的存在としてのわれわれ自身の行動を研究対象とする学問です。社会学と社会科学の区別が付いていない学生がしばしば見受けられますが、社会科学は社会諸科学（政治学、法学、経済学、商学など）の総称であるのに対し、社会学は社会科学の一領域であり、他の社会科学と（社会的なもの）についての研究を分担します。

本学部の社会学のカリキュラムは、他大学の社会学部のカリキュラムのように、社会学の各専門分野（連字符社会学＝〇〇社会学）を個別に学習するのではなく、社会学の全域を見据え、他の社会科学との違いを意識しながら、社会学特有のモノの見方や考えから学ぶことで、効率的かつ効果的に学習を進めることに特徴をもちます。ときに常識を揺さぶる社会学の考え方は、厳しく感じられることがあるかもしれませんが、社会をより深く知り理解するためには、社会学の学習が欠かせません。

アカデミックカテゴリー「社会調査」や社会調査士資格取得プログラムと併せて履修することで、学習効果が一層高まります。

〔カリキュラム体系〕

【入門】コア科目	社会学入門			
【基礎】基盤専門科目	社会学原論 1〔歴史と理論〕・2〔現代社会への応用〕			
	ジェンダーの社会学 1	開発社会学	社会意識論	社会学原論
	現代家族論 1・2			
【応用】先進専門科目	ジェンダーの社会学 2	環境社会学 1・2	観光学	現代社会学の方法
			知識社会学	社会学の思想と理論
（社会調査実習）	ソーシャル・リサーチ （ジェンダーとセク シュアリティ）	ソーシャル・リサーチ （開発・環境）	ソーシャル・リサーチ （歴史と記憶）	
（分野）	ジェンダー・家族	開発・環境	文化・社会意識	理論・社会学史

2. 修了必要単位：14単位（必須科目4単位、選択科目10単位）

▼必須科目 ※

科目名	科目区分	配当年次	単位数
社会学入門	コア科目	1年～	2
社会意識論	基盤専門	1年～	2
開発社会学	基盤専門	1年～	2
Development and Society	基盤専門	1年～	2
社会学原論 1〔歴史と理論〕	基盤専門	1年～	2
社会学原論 2〔現代社会への応用〕	基盤専門	2年～	2

※必須科目のうち、4単位を超えて修得した単位は、選択科目の単位として取り扱う。

▼選択科目

科目名	科目区分	配当年次	単位数
社会学原論（2023年度以前履修分）	基盤専門	1年～	2
現代家族論 1	基盤専門	1年～	2
現代家族論 2	基盤専門	1年～	2
ジェンダーの社会学 1	基盤専門	1年～	2
Sociology of Gender	基盤専門	1年～	2
ジェンダーの社会学 2	先進専門	2年～	2
環境社会学 1	先進専門	2年～	2

環境社会学 2	先進専門	2 年～	2
社会学の思想と理論	先進専門	2 年～	2
知識社会学	先進専門	2 年～	2
現代社会学の方法	先進専門	2 年～	2
観光学	先進専門	2 年～	2
文化の社会学	先進専門	2 年～	2
ソーシャル・リサーチ（文化・メディア）Ⅰ（2021 年度以前履修分）	先進専門	2 年～	2
ソーシャル・リサーチ（文化・メディア）Ⅱ（2021 年度以前履修分）	先進専門	2 年～	2
ソーシャル・リサーチ（歴史と記憶）Ⅰ	先進専門	2 年～	2 または 4
ソーシャル・リサーチ（歴史と記憶）Ⅱ	先進専門	2 年～	2 または 4
ソーシャル・リサーチ（開発・環境）Ⅰ	先進専門	2 年～	2 または 4
ソーシャル・リサーチ（開発・環境）Ⅱ	先進専門	2 年～	2 または 4
ソーシャル・リサーチ（ジェンダーとセクシュアリティ）Ⅰ	先進専門	2 年～	2
ソーシャル・リサーチ（ジェンダーとセクシュアリティ）Ⅱ	先進専門	2 年～	4

Themes & Subjects

法と経済学 / Law and Economics

1. 概要

現代の社会現象の多くは法律的な側面と経済学的な側面を兼ね備えている。たとえば国際貿易は経済活動という意味では経済学の範疇ではあるが通関手続を始めとして国内あるいは国際的な法律や条約に基づくという意味では広く法律学の範疇でもある。また企業行動も経済学と法律学の双方から理解する必要がある。さらには民法や刑法の対象となるような純粋に法学の範疇にあると思われる人間行動も経済学的な動機付けによる理解がその分析を豊かにすることが知られている。そこで、「法と経済学」は、法律と経済の両方の知識を備えた総合的な視点を養うことを目的として設置する。

2. 修了必要単位：14単位（必須科目6単位、選択科目8単位）

▼必須科目

科目名	科目区分	配当年次	単位数
ゲーム理論の基礎	コア科目	1年～	2
民法概論（2019年度以前履修分）	基盤専門	1年～	2
民法 1〔総則〕	基盤専門	2年～	2
法と経済学（2018年度以前履修分）	先進専門	3年～	2
産業組織論	先進専門	3年～	4
法と経済学 I	先進専門	3年～	2

▼選択科目

科目名	科目区分	配当年次	単位数
会社法 1〔会社のガバナンス〕	基盤専門	1年～	2
会社法 2〔会社のファイナンス〕	基盤専門	1年～	2
国際経済法 1	基盤専門	1年～	2
刑法各論 1〔個人、社会、国家に対する罪〕	基盤専門	2年～	2
刑法各論 2〔財産に対する罪〕	先進専門	2年～	2
国際経済法 2	先進専門	3年～	2
会社法 3〔組織再編・M&A〕	先進専門	3年～	2
法と経済学 II	先進専門	3年～	2

Themes & Subjects

サステナビリティ学/Sustainability Study

1. 概要

持続可能な発展・開発(sustainable development)という言葉聞いたことがあると思います。宇宙船地球号という認識を受けて、地球の環境・資源の利用に関する現在世代と将来世代との間の世代間衡平を求める原理を表現する言葉です。もっと具体的に言えば、現在世代は将来世代が幸せに生きていけないような形で、地球の資源を使ったり、環境を破壊したりして、発展・開発をしてはいけないという原理です。1992 年にブラジルのリオデジャネイロで開催された地球サミット(国連環境開発会議)で指導原理として用いられて以来、環境と開発について議論するときのキーワードとなっています。ただし、本来は、世代間の公平に関する基本原理であったのですが、国際会議の場では、開発によって貧困からの脱出を目指す発展途上国と、開発による環境破壊を防ぎたい先進国との利害対立を調整する原理として機能してきました。発展途上国には開発の権利があるけれども、その開発は持続可能なものでなければならないという形で、利害の調整がなされてきました。持続可能な発展・開発という言葉には、開発の促進のニュアンスが残って議論も多いので、近年では、サステナビリティ(持続可能性)という言葉が好んで使われるようになってきています。

「サステナビリティ学」では、持続可能な社会の実現の理解に必要な知識を学ぶことを目標とします。環境、経済そして社会の各側面からの理解が必要になってきます。たとえば、森林の持続可能な管理を素材にして考えるとよくわかります。森林の生態系そのものについての理解がなければ、どのように森林を管理していけば良いか方針すら持てません。今日の森林のほとんどは、天然の原生林ではなく、林業・農業など人々の産業的な働きかけとの関係で形成されてきたものです。これらが経済的に成り立たなくなると、バランスが崩れてしまいます。食糧生産のために森林を開墾して農地を増やすことも、森林生態系の保全、および地球温暖化緩和の観点からは、必ずしも良いことと評価できません。まして、貧困が原因で、やむなく森林を伐採して農地に変えることは許容しがたいことです。

このようなサステナビリティにかかわる問題は、生態学などの科学的知見を基礎にして、経済学的な分析を的確に行い、環境にかかわる政治過程を通じて政策を形成し、法律によって制度化することによって対応されることが必要です。すなわち、生態学、環境経済学、環境政治学、環境法学を学び、学際的なアプローチで問題に挑むことが必要です。「サステナビリティ学」では、表に示すこれらの学問領域の科目をパッケージとして習得することを推奨しています。また、学際領域にある諸課題の理解には、各専門領域の基礎を習得していることも重要なので、1・2 年次にはいろいろな分野の「コア科目」を積極的に履修することを推奨します。

2. 修了必要単位：14 単位（必須科目 6 単位、選択科目 8 単位）

▼必須科目

科目名	科目区分	配当年次	単位数
環境社会学 1	先進専門	2 年～	2
環境法 1〔公害規制法〕	先進専門	3 年～	2
環境の産業連関分析	先進専門	3 年～	2
地球環境論（2024 年度以前履修分）	先進専門	3 年～	4

▼選択科目

科目名	科目区分	配当年次	単位数
持続可能な開発のための社会科学	基盤専門	1 年～	2
生態学 1	基盤専門	1 年～	2
生態学 2	基盤専門	1 年～	2
環境科学概論	基盤専門	1 年～	2
環境社会学 2	先進専門	2 年～	2
食料と農業の経済学 1〔食料需給の決定要因と食料問題・農業調整問題〕	先進専門	2 年～	2
食料と農業の経済学 2〔日本の経験と教訓〕	先進専門	2 年～	2
Global Food Security: Climate Change, Food, and Agriculture	先進専門	2 年～	2
Global Food Security: Demand and Supply Challenges	先進専門	2 年～	2
環境法 2〔自然保護法〕	先進専門	3 年～	2

Themes & Subjects

社会デザイン / Social Design

1. 概要

〔社会デザインとは？〕

地球規模の危機がますます深刻になっている中で、新しい社会を創るための理論と実践が必要です。現状の社会の課題は何か、どういう未来の社会像を描き、市民がどう向き合うか、どう変化をもたらすか、市民が情報を共有・活用し、そのビジョンとプログラムを考えるのが「社会デザイン」(social design)という新しい学問分野です。

〔社会デザインを学ぶポイント〕

社会科学部では、2009 年に「社会デザイン論入門」を開講、2015 年には体系的に社会デザインを学ぶプログラムを日本で最初に設置しました。社会が直面する課題を乗り越え、望ましい社会を創造するための「理論」と「実践」の枠組みを学びます。

私たちを取りまく社会は、安定と変動を繰り返しています。科学技術の進歩・発展により、新たな欲求の高まり、余剰エネルギー（余暇、お金、人材など）の蓄積、社会的な意識の高まり、の3つの条件が相互作用することで新しい時代が準備されてゆきます。一方、そこはフロンティアの領域であり、既得権益の流動化、それにともなう政治・経済・社会的な新たな機会への期待とリスクの不安の両方が伴い、阻害要因（旧態依然とした体制や思考習慣、時代遅れの法や習慣など）が壁になり、多様なコンフリクトが発生します。西欧の一元的世界の限界から、非欧州世界で蓄積されてきた多様な暗黙知との対話への期待が高まっています。それらを乗り越える新たな社会のイノベーターが求められています。

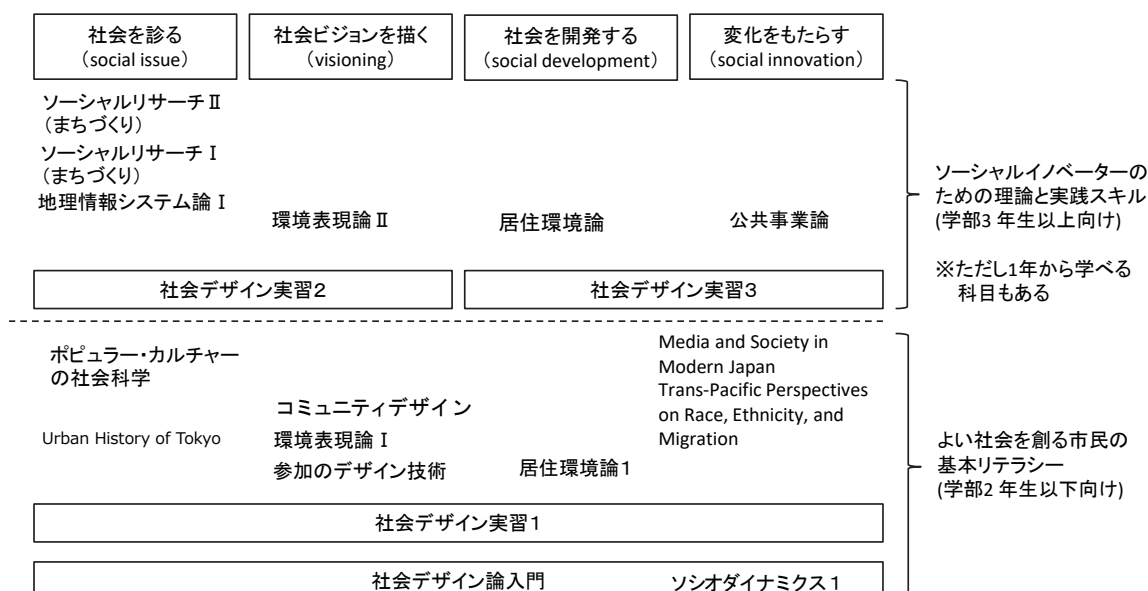
〔4つの 이슈ー〕

以下の①～④のアカデミックな理論と実践スキルを学びます。

- ① 社会を診る (social information and research)
- ② 社会ビジョンを描く (visioning)
- ③ 社会を開発する (social development)
- ④ 変化をもたらす (social innovation)

〔身につけたい資質とスキル〕

豊かな感性と主体的な問題意識をもとに、社会情報を共有・活用する探索力、現代的ニーズへの気づきや他者への共感力、ビジョンを明らかにする計画と社会構想力、新しい社会システムの設計をおこなう創造性や思考力、コミュニティ開発とキャパシティの形成力、自らの考えを伝える表現力、多様な主体とのコミュニケーション力や協働性、市民の立場から政策を熟議、合意形成する判断力、プログラムの導入、資源動員、やり遂げる行動力など、新たな社会の変化を導入し、安定化させるプロセスに必要な知を学びます



◆よい社会を創る市民の基本リテラシー(学部2年生以下向け)

社会デザインを市民として共通に心得るべき現代社会の社会的教養と考え、アクターとしていかに社会デザインに関与することが可能か、多様なアプローチを理解し、自分なりの道筋で思考、機会をとらえて行動できるようになることをベースラインとして目指します。

自分らしい思考をベースにして表現の基本を身につけながら、他者と出会い対話すること、社会や地域の抱える課題を発見し、それに対する提案が行なえることが目標です。

◆ソーシャルイノベーターのための理論と実践スキル(学部3年生以上向け)

公共団体、企業・組合、地域社会、N G O・N P O等において、新しい変化をもたらすソーシャルイノベーターに求められる素養、研究機関やシンクタンクの専門家、研究者の分析スキルの基礎を学びます。豊かな問題意識とアカデミックなスキルをもとに調査、分析、考察をまとめ、社会への提言、働きかけ、熟議、合意形成、社会的アクションを起こすためのスキルを身につけることが目標です。3年生以上向けですが、1年生から学べる科目もあります。

2. 修了必要単位：14単位（必須科目6単位、選択科目8単位）

▼必須科目

科目名	科目区分	配当年次	単位数
社会デザイン論入門(2023年度以前履修分)	コア科目	1年～	2
社会デザイン実習1(2023年度以前履修分)	基盤専門	1年～	2
社会デザイン実習2(2023年度以前履修分) または 社会デザイン実習3(2023年度以前履修分)	基盤専門	1年～	2
社会デザインの思考と技法 1〔他者と関わりを持つということ〕	先進専門	2年～	2
社会デザインの思考と技法 2〔フィールドでの技術〕	先進専門	2年～	2
社会デザインの思考と技法 5〔演劇実践と場の創造〕	先進専門	2年～	2

▼選択科目

科目名	科目区分	配当年次	単位数
ソシオダイナミクス1(2024年度以前履修分)	基盤専門	1年～	2
ポピュラー・カルチャーの社会科学(2024年度以前履修分)	基盤専門	1年～	2
地理情報システム論 I	基盤専門	1年～	2
コミュニティデザイン	基盤専門	1年～	2
環境表現論 I	基盤専門	1年～	2
Media and Society in Modern Japan (2017年度以前履修分)	基盤専門	1年～	2
Trans-Pacific Perspectives on Race, Ethnicity, and Migration	基盤専門	1年～	2
参加のデザイン技術(2023年度以前履修分)	基盤専門	1年～	4
社会デザインの思考と技法 4〔参加のデザイン技術〕	先進専門	2年～	2
ソーシャル・リサーチ（まちづくり）I	先進専門	2年～	2または4
ソーシャル・リサーチ（まちづくり）II	先進専門	2年～	2または4
公共事業論(2023年度以前履修分)	先進専門	2年～	2
環境表現論 II	先進専門	2年～	2
居住環境論(2024年度以前履修分)	先進専門	3年～	2
Urban History of Tokyo	先進専門	3年～	2

Themes & Subjects

日本の社会と公共政策/ Japanese Society and Public Policies

1. 概要

2つの視点から構成されている「アカデミックカテゴリー」のなかで、「日本の社会と公共政策(Japanese Society and Public Policies)」は Theme & Subjects に該当するものです。Theme & Subjects は、今日の社会が抱える問題や、グローバル社会のなかでの日本のアイデンティティについて、サブジェクトベースでのアプローチを行う科目グループで構成され、伝統的な学問分野の枠を超えてアプローチすることが求められる「問題」に多面的にアプローチすることとなっています。もちろん、現代の日本社会をどのようなものとして捉えるかについては様々な手法があります。そのこととの関係で、「日本の社会と公共政策(Japanese Society and Public Policies)」について厳密に述べることに無理があります。「日本の社会と公共政策」について、例えば、経済的側面から光を当てて描くこともできますし、法的側面から光を当てて描くことも出来ます。それぞれは、どちらが「日本の社会と公共政策」の本質に近いものを表現できるかということではなく、対象としての「日本の社会と公共政策」を捉えて描くための枠組みの相違にすぎません。その意味で、捉えるための枠組み次第で、「日本の社会と公共政策」は異なる「意味合い」を持って現れることとなります。では、「日本の社会と公共政策(Japanese Society and Public Policies)」というアカデミックカテゴリーは、どのような意図のもとで「特定テーマ研究」を構成しているのでしょうか。アカデミックカテゴリーの中で Theme & Subjects が置かれている位置からすれば、「日本の社会と公共政策」については以下のように説明できるでしょう。

「日本の社会と公共政策(Japanese Society and Public Policies)」は、現代の日本社会が直面する諸問題（例えば、経済、家族、福祉、環境、働き方など）とその解決に向けた民間の活動や公的政策について、多面的な視点から理解を深めるものです。諸問題に対応すべきは公的なセクターであると当初よりきめられてはいません。それは時代や状況によって異なってきます。「日本の社会」のありようが「公共政策」のありように影響を及ぼし、さらに、その結果として日本の社会の姿が形作られることになります。その意味では、「日本の社会と公共政策」について、より深く理解しようとするならば、構成している科目群の履修だけでは十分とはいえないでしょう。その不十分性は、「日本の社会と公共政策」について学びたいと思った受講生が、関連科目を積極的に履修することで補ってください。もう一つ、「日本の社会と公共政策」が目指しているものがあります。それは、「日本の社会と公共政策」が、日本語および英語で行われる科目を合わせて履修することにより、一般プログラムの学生は英語で、英語学位プログラムの学生は日本語で、現代の日本社会について説明できる能力の習得を目指すというものです。「日本語による表現だけでは深まらなかったこと」や「英語による表現だけでは深まらなかったこと」を総合させることによって、「問題」とされるものを捉え、表現する能力を高めてください。このような「日本の社会と公共政策(Japanese Society and Public Policies)」の有する特殊性から、早い段階で履修することを推奨しますが、3年次以上の段階で履修し、「日本語による表現だけでは深まらなかったこと」や「英語による表現だけでは深まらなかったこと」を総合させることによって、学んできたことをまとめるという意味合いで活用していただくことも可能です。

アカデミックカテゴリーには通常、必須科目と選択科目が設置されていますが、この「日本の社会と公共政策 (Japanese Society and Public Policies)」では、修了必要単位を選択科目のみ 12 単位としています。

社会科学部が提供している科目群は多種多様に存在しています。見ようによっては系統立てられているように感じるかもしれませんが、ばらばらのように感じるかもしれません。履修についての自由度が高いことから、科目登録に際してアルバイトなどを念頭に選択してしまうと、結果として、「何を勉強したかのかわからない」というようになってしまう可能性もあります。ただし、「自分はこのようなことについて勉強する」というような意図で、履修科目を組み立てていけば、「専門性を深めること」も可能ですし、「自分なりのテーマを設定し多角的にアプローチすること」が可能となります。

2. 修了必要単位：12単位（選択科目のみ）

※ただし日本語・英語の科目群からそれぞれ2単位以上を修得すること

▼選択科目

科目名	科目区分	配当年次	単位数
現代家族論 1	基盤専門	1年～	2
現代家族論 2	基盤専門	1年～	2
比較福祉論 1 (2020年度以前履修分)	基盤専門	1年～	2
比較福祉論 2 (2020年度以前履修分)	基盤専門	1年～	2
日常生活の社会学(2023年度以前履修分)	基盤専門	1年～	2
社会問題の社会学 1 (2023年度以前履修分)	基盤専門	1年～	2
社会問題の社会学 2 (2023年度以前履修分)	基盤専門	1年～	2
ソシオダイナミクス 1 (2024年度以前履修分)	基盤専門	1年～	2
ソシオダイナミクス 2 (2024年度以前履修分)	基盤専門	1年～	2
Environmental Law in Japan	基盤専門	1年～	2
Japan in the Age of Globalization	基盤専門	1年～	2
Politics in Modern Japan	基盤専門	1年～	2
Social Issues in Modern Japan (2017年度以前履修分)	基盤専門	1年～	2
The Japanese of the 20th Century: The Immigrant Experience (2017年度以前履修分)	基盤専門	1年～	2
The Japanese of the 20th Century: Work, Culture, and Society(2024年度以前履修分)	基盤専門	1年～	2
Trans-Pacific Perspectives on Race, Ethnicity, and Migration	基盤専門	1年～	2
Trans-Pacific Perspectives on Work, Culture, and Society	基盤専門	1年～	2
Understanding the Japanese Economy: Macroeconomic Perspectives	基盤専門	1年～	2
Understanding the Japanese Economy: Microeconomic Perspectives	基盤専門	1年～	2
Women in Modern Japan: Contemporary Japanese Women	基盤専門	1年～	2

Themes & Subjects

平和研究/ *Peace Studies*

1. 概要

平和研究の射程は広い。平和の反対は戦争ではなく、「平和ならざる状態」(Peacelessness)であると言ったのは、インドのスガタ・ダスグプタであった。また、平和研究者として著名なヨハン・ガルトゥングは構造的暴力という概念を提起した。つまり、現代社会には物理的暴力のみならず、貧困、格差、人権抑圧、環境破壊など様々な脅威が存在し、人びとの日常性を脅かしている現実を指摘する。そこで、戦争や紛争などの物理的暴力が不在な状態は消極的平和と呼び、構造的暴力がなくなって初めて積極的平和と呼ぶことができると述べている。したがって、本平和研究は、ガルトゥングの積極的平和に基づき関連科目が設置されている。平和学Ⅰ、平和学Ⅱは、本平和研究の基本的枠組みを理解する必須の科目である。

しかし他方で、社会科学としての平和研究である以上、広く国際関係論、国際政治学などの理論的枠組みの理解は必要になる。また、応用科目としての平和構築論は、平和研究の諸理論を基礎としながらも実践的な科目として、紛争の再発の芽を摘むことに主眼がある。現代の紛争原因は言うまでもなく多様である。植民地独立戦争から、東西冷戦時代は米国・ソ連の代理戦争を背景とした国家間紛争、冷戦後は宗教、言語などエスニシティなどを理由する国内紛争、さらにはテロリストとの紛争と、非対称的紛争が増大している。

紛争の原因となる様々な理由を理解すると同時に、紛争後の社会を平和な社会に転換するうえで必要な国際協力の在り方を平和研究の視点から学ぶことが求められる。平和構築論は上記したように実践的応用科目である。その点で、現場の視点を学ぶうえで、フィールド経験を積む必要がある。紛争解決論実習 1、2、3 は、紛争後、あるいは紛争を抱える社会を訪問することで、平和構築の現実を理解する絶好の機会になる。

また、平和構築に取り組むアクターは、政府や非政府組織 (NGO)、主権国家の集合体である国際機関、援助機関、地方自治体など多様である。政府に関わる援助体制を理解するうえで国際開発制度論は重要であり、国際 NGO 協力論は NGO の視点からみた国際協力を知るうえで必要になる。なお、英語学位プログラム科目として、日本を視点にして上記科目を理解する科目群が設置されている。一般プログラムの学生は英語で、TAISI の学生は日本語で平和研究の理解を互いの議論を通じて深めることを目指している。

(1) 平和研究のための基本的科目群 (学部 2 年生以下向け)

平和研究の基本的な枠組みを平和学Ⅰで学ぶ。平和研究がなぜ学問として生まれたのか。国際社会に「平和ならざる状態」がいかに存在しているのかを理解する。また、同状態が多くみられる途上国を概観することも有益である。なお TAIISI 科目では、Japan in East Asia: Basic Studies、War and Japan、Japan and Peacebuilding: UN Policies、Japan in East Asia: Contemporary Social Issues、Education and Development など平和研究の理解を深めることが可能である。

(2) 平和研究を深める応用的科目群 (学部 3 年以上向け)

平和研究の基本的な知識や概念の理解を前提に、次に具体的な 이슈で平和研究の理解を深める必要がある。平和学Ⅱは構造的暴力とは何かを考えるうえで必須である。また、応用科目として平和構築論、国際 NGO 協力論、国際開発制度論、人間の安全保障論、国際教育協力論、日本との関連からは TAIISI 科目群から、Japan and Peacebuilding: Asian Policies、Development Assistance by Japan: ODA and NGOs、Contemporary Japanese Foreign Policy が該当する。最後に、平和研究をいっそう理解するうえでフィールド・スタディーズが求められる。本学部が提供する紛争解決論実習 1、2、3 に参加することを勧める。

2. 修了必要単位：12単位（必須科目2単位、選択科目10単位）

※ただし日本語・英語の科目群からそれぞれ2単位以上を修得すること

▼必須科目

科目名	科目区分	配当年次	単位数
平和学 I	基盤専門	1年～	2

▼選択科目

科目名	科目区分	配当年次	単位数
平和学 II	先進専門	2年～	2
平和学 II - 1（平和と戦争）（2019年度以前履修分）	先進専門	2年～	2
平和学 II - 2（貧困・格差・人権・環境と平和）（2019年度以前履修分）	先進専門	2年～	2
平和構築論	先進専門	3年～	2
紛争解決論実習 1	先進専門	2年～	2
紛争解決論実習 2	先進専門	2年～	2
紛争解決論実習 3	先進専門	2年～	2
第三世界論(2018年度以前履修分)	先進専門	3年～	2
国際NGO協力論	先進専門	3年～	2
国際開発制度論	先進専門	3年～	2
人間の安全保障論	先進専門	3年～	2
国際教育協力論	先進専門	3年～	2
Japan in East Asia: Basic Studies	基盤専門	1年～	2
Japan in East Asia: Contemporary Social Issues	基盤専門	1年～	2
Development Assistance by Japan: ODA and NGOs	基盤専門	1年～	2
Contemporary Japanese Foreign Policy	基盤専門	1年～	2
War and Japan	基盤専門	1年～	2
Education and Development	先進専門	2年～	2
Japan and Peacebuilding: UN Policies	先進専門	3年～	2
Japan and Peacebuilding: Asian Policies	先進専門	3年～	2

Themes & Subjects

日本の歴史と文化/ Japanese History and Culture

1. 概要

歴史和解が達成されていない東アジアにおいて、地域研究の一領域としての「日本研究」は各国のコンテキストの中で展開されている。例えば、中国と韓国の研究者がもっている近代の日本像と、日本人研究者がもっているそれとの距離を縮めることは難しい。日本研究をめぐる知的交流の停滞は、学問の進歩のみならず、この地域の国際関係の安定にも大きな影響を及ぼしている。

いままでの「日本研究」は「アジア研究」から独立し、「日本的空間」のなかに存在してきた。その結果、日本の「独自性」が特別に強調されてきた。しかし、19世紀以来のアジアの歩みには、戦争と革命はいままでもなく、社会・経済の近代化や文化の伝達と発展など、どの分野からみても、日本が深く関わってきたことは周知の通りである。日本研究の範囲を広げ、アジア研究のなかに日本研究を取り入れ、さらに世界のなかの日本という問題意識を確立させることは、グローバルな日本理解と、世界が共有する「日本研究」を作り上げるのに不可欠な作業である。

大学教育の国際化が進むなか、早稲田大学の学生には世界に向けて、「日本」を発信する能力が求められている。一方、外国からの留学生は、異文化としての「日本」への理解を渴望しているのみならず、アジアのなかの「日本」、世界のなかの「日本」についての幅広い知識と情報への関心も高い。

このアカデミックカテゴリーは、アジア諸国の歴史と文化との関係を意識しながら、日本の歴史と文化に対する理解を深めることを目的とする。日本の歴史と伝統文化は本アカデミックカテゴリーの重要な柱であるが、近代以降、日本が経験した成功と失敗の歴史と、このような歴史のなかで形成された新たな文化への探求も重要な内容となる。とりわけ、戦後日本はアジアのどの国よりも、環境問題、高齢化問題、エネルギー問題、自然災害などの問題をたくさん経験し、多くの経験を蓄積してきた。教員と学生とのコミュニケーションを深めながら、「日本経験」をアジアの公共財に育て上げていきたい。

2. 修了必要単位：12単位（選択科目のみ）

▼選択科目

科目名	科目区分	配当年次	単位数
歴史学（日本史）1	基盤専門	1年～	2
歴史学（日本史）2	基盤専門	1年～	2
歴史学（日中関係史）1	基盤専門	1年～	2
歴史学（日中関係史）2	基盤専門	1年～	2
日本文学1	基盤専門	1年～	2
日本文学2	基盤専門	1年～	2
日本文化論	基盤専門	1年～	2
漢字文化圏論1	基盤専門	1年～	2
漢字文化圏論2	基盤専門	1年～	2
日本研究1	基盤専門	1年～	2
日本研究2	基盤専門	1年～	2
Japan and World War II: Historical Controversies	基盤専門	1年～	2
Women in Modern Japan: Outside Encounters and Early Changes	基盤専門	1年～	2
日本文化研究	先進専門	2年～	2
Urban History of Tokyo	先進専門	3年～	2

Themes & Subjects

アメリカ研究 / American Studies

1. 概要

アメリカ研究は国内外の主要な大学に講座が設置されている確立された研究分野です。アメリカ合衆国は軍事、政治、経済、社会、文化、メディアにおいて世界に大きな影響を与えています。

対米戦争で日本が敗北し、占領を受けたこともあり、戦後の日本の諸制度を理解するうえでも、アメリカ合衆国について知ることは必要です。今後も日本とのかかわりは深くなり、重要性も大きくなると考えられます。

しかしながら、この国はさまざまな文化と価値観を持った移民たちによって建国され、地域的多様性の大きい州の連合体である「合衆国」なので、それを理解するには多角的、学際的アプローチが必要になります。

このアカデミックカテゴリーでは、政治、社会、文化、メディアの各分野の多角的、学際的視点からアメリカ合衆国を総合的に深く理解することを目指します。

政治にかかわる領域

現代政治制度論(アメリカ)、現代政治分析(アメリカ)

社会にかかわる領域

ポピュラー・カルチャーの社会科学

文化にかかわる領域

公共文化論 1

メディアにかかわる領域

メディア論 1、メディア論 4 (隔年開講)

履修可能学年は以下の通り

「現代政治制度論」および「公共文化論」2年以上、「現代政治分析」3年以上、その他科目は1年以上

2. 修了必要単位：8単位（必須科目6単位、選択科目2単位）

▼必須科目

科目名	科目区分	配当年次	単位数
ポピュラー・カルチャーの社会科学（2024年度以前履修分）	基盤専門	1年～	2
メディア論 4（2023年度以前履修分）	基盤専門	1年～	2
現代政治制度論（アメリカ合衆国）（2023年度以前履修分）	基盤専門	2年～	2

▼選択科目

科目名	科目区分	配当年次	単位数
メディア論 1（2023年度以前履修分）	基盤専門	1年～	2
公共文化論 1	先進専門	2年～	2
現代政治分析（アメリカ合衆国）（2023年度以前履修分）	先進専門	3年～	2

Themes & Subjects

社会調査 / Social Research

1. 概要

社会調査は、社会科学において新しい知見を得る手段や、理論や仮説の実証的検証の手段として、学術研究に欠かせない手法です。また、官公庁が行う統計調査や世論調査は基礎的なデータを得る上で、マス・メディアが行う世論調査や選挙予測調査は世論や政治動向を知る上で、企業が行うマーケティング・リサーチは消費者の動向やニーズを知る上で、それぞれ欠かせないものになっています。このように社会調査は、社会のさまざまな分野で人びとの動向を知る有用な手段として活用されています。

これらの調査の手法は、量的データを得るための定量調査と、質的データを得るための定性調査の大きく二つに分類されます。それぞれにさまざまな技法が存在しますが、これらの技法の実際の調査現場での適用は、調査課題によって定量調査・定性調査の一方の技法が用いられ、両者の技法が併用されたりします。

本アカデミックカテゴリーでは、これらの調査技法のうち、定量調査における基本的な技法のひとつである質問紙調査法を中心に、社会科学のさまざまな分野で必要となる調査の方法と分析技法を学びます。

本アカデミックカテゴリーは、本学部が提供する社会調査士カリキュラムのうち、講義科目のみによって構成されています。本アカデミックカテゴリーの履修に加え、実習科目「ソーシャル・リサーチ」を履修すれば、社会調査士資格の取得が可能です。

2. 修了必要単位：10～12単位（必須科目8単位、選択科目2～4単位）

▼必須科目

科目名	科目区分	配当年次	単位数
社会調査の基礎	コア科目	1年～	2
社会調査法 1	基盤専門	1年～	2
社会統計の読み方	基盤専門	1年～	2
統計解析の基礎（2020年度以前履修分）	コア科目	1年～	2
統計リテラシーα（フルオンデマンド）	初年次教育 または他箇所科目	1年～	1
統計リテラシーγ（フルオンデマンド）	コア科目 または他箇所科目	1年～	1

▼選択科目

科目名	科目区分	配当年次	単位数
社会調査法 2	基盤専門	2年～	2
社会科学のための数学	基盤専門	1年～	4

3-2. 各ゼミナールにおいて履修が望まれる科目

2 年次より「ゼミナール」履修が開始します。一部ゼミナールでは、担当教員が「履修が望まれる科目」を設定しています。これは必修や前提科目ではなく、既得か同時履修または今後の履修が望まれる科目のことです。社会科学部 Web サイト「在学生の方へ」の「ゼミナール」内に掲載されている「ゼミナール要覧」において各ゼミナールの「履修が望まれる科目」を公開しているので、科目選択の指針のひとつとしてください。

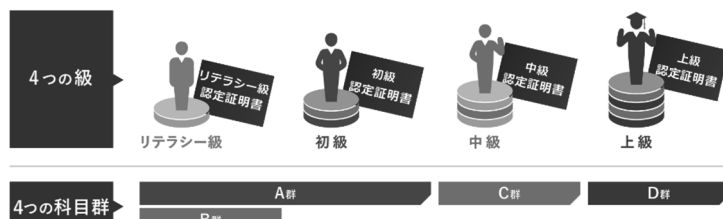
なお、ゼミナール履修は卒業要件ではありませんが、例年約 9 割の学生が履修しています。

データ科学認定制度を活用しよう！

早稲田大学では、データ科学（データサイエンス）の学びに対する明確な目標を提示するとともに、履修者のデータ科学に関する能力を保証するためのデータ科学認定制度を設置しています。各級の認定要件を満たした方にはデータ科学センターより認定証明書を発行します。詳しくは、デジタルパンフレットをご覧ください。

【ここがポイント！】

2021 年度以降入学者の初年次教育である「統計リテラシーα」「統計リテラシーβ」の単位を修得することで、データ科学認定制度における「リテラシー級」の認定要件を満たすことができます。認定には、級毎の認定希望申請が必須ですので、以下の認定希望申請フォームより**是非申請してください。**（単位修得前から希望申請可能）

**【リテラシー級認定を取得したら】**

リテラシー級に加え、所定の 3 科目（3 単位）を修得し、認定希望申請をすると初級認定を取得することができます。初級の認定は、データ分析の一通りの流れを実践することができるようになることが目標です。データ分析の知識・スキルは、授業のレポートやプレゼン、卒業論文に加え、卒業後のキャリアでも活用することができます。データ科学認定制度をご自身の学びやキャリア形成に是非活用してください。

4. 社会科学部以外で履修できる科目

社会科学部では、学生の学習の自由度を高めるため、社会科学部の科目以外にも、本学他箇所や協定他大学が提供する「全学オープン科目※」を卒業算入単位に含めることができます（在学中最大 36 単位まで）。また、社会科学部のカリキュラムとしては卒業単位には算入できない科目も、ご自身の進路、研究や興味に合わせて履修が可能です（教職科目等）。単位の算入区分については、P.61 をご確認ください。

※全学オープン科目とは、学生の所属学部を問わず全学に提供されている科目で、各学部・グローバルエデュケーションセンター（以下 GEC）・留学センター・協定他大学より提供されています。

グローバルエデュケーションセンター（GEC）提供 全学オープン科目 (<https://www.waseda.jp/inst/gec/>)

GEC では、全学部・全研究科の学生が、専門分野に限らず全く異なる分野も学習できる多種多様な科目を展開しています。

すべての学問の基礎となる大学生の必須スキルとして、アカデミック・ライティング科目（「学術的文章の作成」ほか）、数学科目（「数学基礎プラスα（金利編）」ほか）、データ科学科目（「統計リテラシーα」「データ科学入門α」ほか）、情報科目（「プログラミング初級」ほか）、英語科目（「Tutorial English」「Academic Writing and Discussion in English」ほか）を提供します。また、早稲田大学以外では学ぶ機会の少ない言語科目や、多数の特色あるスポーツ実習科目（「ラグビー」「弓道」ほか）、日本語教育科目（「日本語教育学入門」ほか）等も提供しています。

人間的力量と呼ばれる科目群には問題解決型・体験型の実践的な学びを多く取り入れています。

科目の提供に加えて、GEC では「全学副専攻制度」を設けています。所属している学部で重点的に学ぶ「主専攻」のほかに、その他の学問分野を「副専攻」として体系的に学び、主専攻の補強、第二の強みの獲得、主専攻の応用領域の獲得などを目指します。全学副専攻の修了者には、卒業時に修了証明書が発行されます。

※GEC 提供科目のうち、インターンシップ科目は在学中最大 2 単位まで、保健体育科目は 4 単位まで卒業算入単位として扱うことができます。また、GEC 提供の言語科目のうち、1 年次に「英語 1 - 2」として履修する「Tutorial English」、および「教養外国語」として履修する「イタリア語」「朝鮮語」の各科目については他箇所提供科目の卒業算入上限（36 単位）には含まれません。

他学部提供 全学オープン科目・他学部提供科目

他学部が自箇所学生以外にも履修を認める科目については、社会科学部生も履修することができます。他学部が提供する科目には、全学オープン科目と他学部提供科目があります。

【全学オープン科目】 GEC が提供する全学オープン科目と同じく、学生所属学部に関係なく履修を認める科目です。他学部が公開している科目を、1 次登録にて登録することができ、修得した単位は卒業算入単位に含めることができます。

【他学部提供科目】 他学部が自箇所学生以外の履修を認め、自箇所学生の登録を優先したのち、定員に余裕があれば開放される科目です。3 次登録にて登録することができますが、修得した単位は卒業算入単位には含まれません。

※他学部提供科目のうち、政治経済学部、法学部、商学部の提供する一部科目は、基盤専門科目として卒業単位に算入できます。

これらの学部は、社会科学部とは異なった特徴を持っていますので、強い専門性を志向する学生の皆さんの履修を推奨しています。

但し、科目登録は 3 次登録に限られていますので、科目提供学部の学生で定員に達している場合には履修できません。

協定他大学 提供科目 (https://www.waseda.jp/inst/gec/undergraduate/other_univ/)

早稲田大学は協定を結んでいる他大学と互いに科目を提供しあっています。早稲田大学には設置されていない各大学特有の科目も多くラインナップされており、登録の選択肢も広がります。他大学からの提供科目も所属学部のルールに従い卒業単位に算入することが可能です。履修は 2 年生以上が対象ですが、一部科目については、1 年生も履修可能です（詳細は「全学オープン科目履修ガイド」で確認できます）。

留学センター 提供科目 (<https://www.waseda.jp/inst/cie/>)

留学センターは、海外からの留学生受入れや本学の学生の海外留学支援はもちろん、国際教育プログラムの実施拠点として、留学プログラムと連動して履修できる科目、外国語学習・テーマ研究・異文化体験を中心とした短期留学科目のほか、海外の学生とともに授業を本学で履修するサマーセッション科目、海外大学からの教員を招聘して実施する「International Japanese Studies」の科目など、独自の科目を学部生に提供しています。

教育学部提供 資格関連科目（教職課程、図書館司書など）

社会科学部生も教育学部提供の資格関連科目を履修することで、教員免許・図書館司書・博物館学芸員などの資格取得が可能です。教育学部提供の資格関連科目はすべて、卒業算入単位として扱われません（自由科目）。

資格取得に必要な科目詳細については、教育学部発行の「教職課程履修の手引き」および社会科学部 Web サイトの資格ページを確認してください。

社会科学研究科提供科目

4 年生以上の学生は、科目担当教員の承認があれば、年間 8 単位まで社会科学研究科提供の講義科目履修が可能です（先取り履修制度）。社会科学部の卒業算入単位としては扱われませんが、社会科学研究科入学後、最大 10 単位まで修了単位として認定可能です。履修を希望する学生は、事務所までメールでご連絡ください。事務所より申請フォームを提供しますので、科目担当教員の許可を得たことを確認できるメールを添付のうえ、各学期の 3 次登録期間最終日 17 時までに申請してください。

Ⅱ. 科目登録の手続き

1. 科目登録手続きのながれ

科目登録の手続きは、科目の設置箇所、および科目区分ごとに、時期と方法が異なります。下記①～⑧の詳細説明を参照し、科目登録に臨んでください。

①	在学生自動登録
②	初年次教育再履修自動登録
③	必修外国語再履修登録
④	1 次登録
⑤	2 次登録
⑥	3 次登録
⑦	ゼミナール継続者・合格者の登録
⑧	他箇所（社会科学部以外）科目の登録手続き

① 在学生自動登録

[対象者] 2 年生以上

[申請期間] なし

[対象科目]

通常／再履修	対象科目	申請方法	詳細
通常	ゼミナール	申請不要	前年度中に実施したゼミナール継続判定、および募集の結果に基づき自動登録されます。 なお、継続履修を希望しない場合、および延長生がゼミナール履修を希望する場合、個別に手続きが必要です。詳細は P.52 を参照してください。

② 初年次教育再履修自動登録

[対象者] 2 年生以上（特に新 2 年生） ※初年次教育の科目を再履修する必要がある学生のみ

[申請期間] なし

[対象科目]

通常/再履修	対象科目	申請方法	詳細
再履修	ラーニング・コミュニティ	申請不要	再履修クラスである Y・Z クラスが秋クォーターに自動登録されます。
再履修	学術的文章の作成	申請不要	不合格となった翌学期に自動登録されます。
再履修	統計リテラシー	申請不要	不合格となった翌学期に自動登録されます。

[注意事項]

- ・「ラーニング・コミュニティ」は合格するまで再履修クラスが秋クォーターに自動登録されます。
- ・「学術的文章の作成」「統計リテラシー」は、不合格となった科目が合格するまで自動登録されます。

③ 必修外国語再履修登録

[対象者] 2年生以上 ※必修外国語を再履修する必要がある学生のみ

[申請期間] 春学期：3/11(火) 9:00 ～ 3/12(水) 17:00、秋学期：9/10(水) 9:00 ～ 9/11(木) 17:00

[対象科目]

通常/再履修	対象科目	申請方法	詳細
再履修	英語 1 - 1	MyWaseda	再履修クラスであるY・Zクラスから、第2希望まで申請可能です。
	英語 1 - 2	MyWaseda	Tutorial English ではなく、社会科学部設置の「英語 1 - 2（春学期・秋学期）」を必要な単位数分履修する必要があります。A・Bクラスから第2希望まで申請可能です。
	英語 2 - 1	MyWaseda	再履修クラスであるY・Zクラスから、第2希望まで申請可能です。
	英語 2 - 2	MyWaseda	第4希望まで申請可能です（希望順位登録方法はP.75参照）。
	教養外国語 ドイツ語 フランス語 中国語 スペイン語	MyWaseda	春学期の単位を未修得の場合は春学期に、秋学期の単位を未修得の場合は秋学期にそれぞれ申請してください。なお、開講クラスの授業形態（対面・オンライン）は、シラバス等でご自身でご確認ください。 <ドイツ語・フランス語 選択者> A～Eクラスの中から第5希望まで申請可能です。 <中国語・スペイン語 選択者> 再履修クラスのY・Zクラスの中から第2希望まで申請可能です。

[注意事項]

- ・「本登録期間に再履修登録の申請を忘れた」もしくは「希望した全クラスが選外になった」場合、1次登録・2次登録期間に、定員に余裕があるクラスに限り、Web 科目登録を受け付けます。
- ・教養外国語についてイタリア語・朝鮮語・日本語選択者の方は、1次登録期間以降に再履修登録を行ってください。
- ・必修英語ならびに教養外国語の再履修の申請期間は、単位の修得状況によって異なります。
 - (1)春学期のみ未修得の場合は春学期に科目登録を行ってください。
 - (2)秋学期のみ未修得の場合は秋学期に科目登録を行ってください。
 - (3)春学期・秋学期ともに未修得の場合は学期ごとに科目登録を行ってください。

◆休学・留学をした場合の必修外国語の取り扱いに関して

対象科目	休学・留学等で履修を取りやめた場合	「不合格」の状態に休学・留学した場合
英語 1 - 1	復学後、必修外国語再履修登録期間に必ず登録を行ってください。	
英語 1 - 2		
英語 2 - 1		
英語 2 - 2		
教養外国語 （ドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語）		
教養外国語 （イタリア語、朝鮮語、日本語）	復学後、1次登録期間以降に必ず登録を行ってください。	

④ 1 次登録

[対象者] 全学年
 [申請期間] 春学期：＜在学生＞3/18(火) 9:00 ～3/21(金) 17:00、＜新入生＞4/1(火) 9:00 ～ 4/3(木) 17:00
 秋学期：＜全学年共通＞9/17(水)9:00 ～ 9/19(金) 17:00

[対象科目]

対象科目	申請方法	詳細
教養外国語	MyWaseda	定員に余裕があるクラスに限り、Web 科目登録を受け付けます。
選択外国語	MyWaseda	ご自身の履修計画に基づいて登録申請してください。
コア科目	MyWaseda	ご自身の履修計画に基づいて登録申請してください。
基盤専門科目	MyWaseda	ご自身の履修計画に基づいて登録申請してください。
先進専門科目	MyWaseda	ご自身の履修計画に基づいて登録申請してください。
社会科学総合研究	MyWaseda	ご自身の履修計画に基づいて登録申請してください。
英語学位プログラム 設置科目	MyWaseda	ご自身の履修計画に基づいて登録申請してください。
全学オープン科目	MyWaseda	学部提供全学オープン科目については1次登録期間中にのみ申請可能です。2次登録期間以降は申請できません（P.53 参照）。
教職等資格関連科目	MyWaseda	ご自身の履修計画に基づいて登録申請してください。

[注意事項]

- ・ 新入生自動登録・在学生自動登録・必修外国語再履修登録の結果、定員に達した科目には申請できません。

◆ 1 次登録期間の必修外国語の再履修登録に関して

「英語 1 - 1」、「英語 1 - 2」、「英語 2 - 1」、「英語 2 - 2」、「教養外国語」（イタリア語・朝鮮語・日本語を除く）の再履修登録は1次登録期間前に受け付けていますが、登録を忘れた、もしくは希望した全クラスが選外になった場合、1次登録・2次登録期間に、定員に余裕があるクラスに限り、Web 科目登録を受け付けます（イタリア語・朝鮮語・日本語の再履修者も同様に1次登録以降 Web 科目登録での受付となります）。どの科目を登録するか等、再履修科目の登録詳細に関しては、P.49 をご確認ください。

◆ 必修英語代替として登録された「英語学位プログラム設置科目」、「グローバルラーニング」および「Tutorial English」について

必修英語代替として登録された「英語学位プログラム設置科目」、「グローバルラーニング」および「Tutorial English」については「必修外国語」科目扱いとなり、3次登録期間で取消をすることができませんのでご注意ください。

◆【重要】「ソーシャル・リサーチ」の登録方法および履修ルールについて

「ソーシャル・リサーチⅠ・Ⅱ」では、科目運営上の理由から独自の登録方法および履修ルールを設けています。履修を検討している方は必ず確認してください。詳細は社会科学部 Web サイトで案内する予定です。

<登録方法>

- ・ **春学期 1 次登録期間（在学生）において、所定のフォームから申請を行います。通常の Web 科目登録では申請できません。また、2 次登録以降は登録できません。**登録結果発表日時・方法は通常どおりです。
- ・ 申請にあたり志望理由書の提出が必須です。また、履修希望科目を複数提出することが可能です。これらの内容に基づき、担当教員が履修可否および科目を決定します。
- ・ 申請した「ソーシャル・リサーチ」と同じ曜日時限に他の科目を登録しないでください。登録した場合、原則として「ソーシャル・リサーチ」が優先的に決定となります（必修科目やゼミナールを除く）。
- ・ 定員は 20 名程度です。なお、申請が 5 名以下の場合、科目運営上の理由で不開講となる可能性があります。
- ・ 実験実習料の納入が必要です。納入に関する詳細は P.67・68 を確認してください。

<履修ルール>

1. ソーシャル・リサーチはⅠ・Ⅱのセット科目です。どちらか一方のみの履修登録はできません。
つまり、Ⅰ（春学期）の履修が決定した場合、Ⅱ（秋学期）が自動的に登録されます。
2. Ⅰ・Ⅱいずれも科目取消を不可とします。Ⅰの成績が不合格であっても、Ⅱの取消はできません。
3. Ⅰの「志望理由書」を担当教員に提出し、登録許可を得る必要があります。
4. 授業時間外の作業が多いこと、秋学期末に調査報告書を作成することが必要なこと、および社会調査を実施する上での旅費宿泊費・交通費は自己負担となること（実験実習料に加えて必要）を理解したうえで履修に臨んでください。
5. その他、シラバスの案内を熟読したうえで履修に臨んでください。

⑤ 2次登録

[対象者] 全学年

[申請期間] 春学期：4/7(月) 9:00 ～ 4/8(火) 17:00、秋学期：9/25(木) 9:00 ～ 9/26(金) 17:00

[対象科目]

対象科目	申請方法	詳細
教養外国語	MyWaseda	定員に余裕があるクラスに限り、Web 科目登録を受け付けます。
選択外国語	MyWaseda	ご自身の履修計画に基づいて登録申請してください。
コア科目	MyWaseda	ご自身の履修計画に基づいて登録申請してください。
基盤専門科目	MyWaseda	ご自身の履修計画に基づいて登録申請してください。
先進専門科目	MyWaseda	ご自身の履修計画に基づいて登録申請してください。
社会科学総合研究	MyWaseda	ご自身の履修計画に基づいて登録申請してください。
英語学位プログラム 設置科目	MyWaseda	ご自身の履修計画に基づいて登録申請してください。
全学オープン科目 ※学部提供全学 オープン科目除く	MyWaseda	学部提供全学オープン科目については1次登録期間中にのみ申請可能です。2次登録期間以降は申請できません（P.53 参照）。
教職等資格関連科目	MyWaseda	ご自身の履修計画に基づいて登録申請してください。

[注意事項]

- ・ 1次登録までの結果、定員に達した科目には申請できません。

◆ 2次登録期間の必修外国語の再履修登録に関して

「英語1－1」、「英語1－2」、「英語2－1」、「英語2－2」、「教養外国語」（イタリア語・朝鮮語・日本語を除く）の再履修登録は1次登録期間前に受け付けていますが、登録を忘れた、もしくは希望した全クラスが選外になった場合、1次登録・2次登録期間に、定員に余裕があるクラスに限り、Web 科目登録を受け付けます（イタリア語・朝鮮語・日本語の再履修者も同様に1次登録以降 Web 科目登録での受付となります）。どの科目を登録するか等、再履修科目の登録詳細に関しては、P.50 をご確認ください。

⑥ 3次登録

[対象者] 全学年

[申請期間] 春学期：4/18(金) 9:00 ～ 4/19(土) 17:00、秋学期：10/8(水) 9:00 ～ 10/9(木) 17:00

[対象科目]

対象科目	申請方法	詳細
教養外国語	MyWaseda	<イタリア語/朝鮮語/日本語 選択者>のみ 定員に余裕のあるクラスに限り、Web 科目登録を受け付けます。
選択外国語	MyWaseda	ご自身の履修計画に基づいて登録申請してください。
コア科目	MyWaseda	ご自身の履修計画に基づいて登録申請してください。
基盤専門科目	MyWaseda	ご自身の履修計画に基づいて登録申請してください。
先進専門科目	MyWaseda	ご自身の履修計画に基づいて登録申請してください。
社会科学総合研究	MyWaseda	ご自身の履修計画に基づいて登録申請してください。
英語学位プログラム 設置科目	MyWaseda	ご自身の履修計画に基づいて登録申請してください。
全学オープン科目 ※学部提供全学 オープン科目除く	MyWaseda	学部提供全学オープン科目については1次登録期間中にのみ申請可能です。2次登録期間以降は申請できません（P.53 参照）。
他学部提供科目	MyWaseda	科目設置学部で他学部生の履修を認めている科目のうち、各学部の2次登録終了後に定員に余裕がある科目に限り、3次登録で申請することができます。
教職等資格関連科目	MyWaseda	ご自身の履修計画に基づいて登録申請してください。

[注意事項]

- ・2次登録までの結果、定員に達した科目には申請できません。
- ・3次登録では、1次・2次登録にて決定した科目の一部を対象に、取り消し、および算入科目区分の変更ができます。詳細はP.65を参照してください。
- 教養外国語および選択外国語として履修する基礎・初級（社会科学部設置科目）の各科目は3次登録では申請できません。（教養外国語科目の再履修登録も3次登録では受け付けていません）。

⑦ ゼミナール継続者・合格者の登録

ゼミナールの各科目は、在学生自動登録において、前年度中に実施したゼミナール継続判定、および募集の結果に基づき自動登録されます。

なお、以下の場合は、個別手続が必要となりますのでご注意ください。

ゼミナールの継続履修を希望しない場合

「ゼミナール非継続申請」を所定の期日までに所定の申請フォームから提出してください。

申請フォームは Web サイト（<https://www.waseda.jp/fsss/sss/students/seminar/>）に掲載しています。

延長生がゼミナール履修を希望する場合

「延長生ゼミナール登録申請」を所定の期日までに所定の申請フォームから提出してください。

申請フォームは Web サイト（<https://www.waseda.jp/fsss/sss/students/seminar/>）に掲載しています。なお、申請にあたっては、担当教員が登録を認めた旨が記載された Eメールのスクリーンショットをアップロードする必要があります。

⑧ 他箇所（社会科学部以外）科目の登録手続き

- ・各科目の登録日程や登録における注意事項など、詳細については当該科目に関連する履修ガイドや Web ページ等を参照してください。
- ・科目の講義内容は、Web シラバスを参照してください。
- ・春学期科目登録の対象となるのは、以下の期間に開講する科目です。
「通年」「春学期」「春クォーター」「夏クォーター」「夏季集中」「集中講義（春学期）」「集中講義（春・秋学期）」「春夏期」「夏秋期」「夏シーズン」
- ・秋学期科目登録の対象となるのは、以下の期間に開講する科目です。
「秋学期」「秋クォーター」「冬クォーター」「冬季集中」「春季集中」「集中講義（秋学期）」「冬シーズン」

分類	科 目		参照先要項・手引き等	科目登録時期						取消 可否 (※2)
				春学期登録			秋学期登録			
				1次	2次	3次	1次	2次	3次	
全学オープン科目	グローバル・エデュケーション・センター提供科目			○	○	○	○	○	○	○ (※3)
	Web 科目登録	アカデミック・ライティング科目	・全学オープン科目履修ガイド ・GEC Web ページ (https://www.waseda.jp/inst/gec/)	「春クォーター」「秋クォーター」科目のうち 週2コマ（週に2時限実施する）科目は、 3次登録の開放は行いません。 2次登録までに科目登録をするようにしてください。 ＜例：週2コマ科目＞ 火2時限・金2時限（週2回授業がある科目） 水4～5時限（2時限連続の科目） 水2時限+オンデマンド（ハイブリッド科目） 2次・3次登録で登録可能な科目については、GEC Web ページに掲載する「余裕定員表」を参照してください。						
		数学科目								
		データ科学科目								
		情報科目								
		英語科目（※1）								
		言語科目								
		保健体育科目								
		自然科学科目								
		人文・社会科学科目								
日本語教育科目										
他大学提供科目		・他大学マニュアル ・GEC Web ページ (https://www.waseda.jp/inst/gec/) →学部学生の方へ →→他大学提供科目	各大学の登録スケジュールや申請方法については、左記 Web ページを参照してください。						×	
留学センター提供科目		・全学オープン科目履修ガイド ・留学センター Web ページ	○	○	○	○	○	○	○	
学部提供全学オープン科目		・全学オープン科目履修ガイド ・各学部 Web ページ	○	—	—	○	—	—	○ (※4)	
他学部提供科目		各学部 Web ページ	—	—	○	—	—	○	—	
教職等資格関連科目		『教職課程履修の手引き』（教職支援センター発行）	○	○	○	○	○	○	○ (※5)	

- ※1 グローバル・エデュケーション・センター提供の以下の英語科目は、グループ編成の都合上、登録機会が以下の通りとなります。
- ・Tutorial English（春クォーター、秋クォーター開講）：1次登録のみ
- ※2 1～2次登録期間に Web 科目登録で申請し、履修決定となった科目を 3次登録期間中に取消可能か示しています。一部授業運営に支障が出るため、取消不可の科目があります。※3～※5も確認してください。
- ※3 グローバル・エデュケーション・センター提供の科目のうち、1～2次登録で決定した以下の科目は取り消しできません。
- ・聴講料支払対象科目 ・学術的文章の作成
- ※4 若干数の科目は取消不可となっています。取消不可の科目は全学オープン科目履修ガイド 科目一覧の備考欄に記載されています。
- ※5 教職等資格関連科目のうち「教育実習演習」「教職実践演習」「介護体験実習講義」は取消不可

国際教養学部の他学部提供科目登録（3次登録）について

- ・国際教養学部の Web ページ (<https://www.waseda.jp/fire/sils/students/registration/>) で、他学部生が登録可能な科目を公開しますので、事前に確認のうえ、Web から履修申請を行ってください。
- ・1人1科目までの申請となります。2科目以上登録した場合は、無作為に超過分がエラーとなりますので、2科目以上の登録は行わないでください。
- ・中級科目は2年生以上、上級科目は3年生以上のみが登録可能です。
- ・英語力の証明は求めませんが、TOEFL ITP 530点以上の英語力がある方を対象の目安としています。

2. 主なルール・注意点

科目登録では、登録エラーがおきないように注意すべき事項がいくつかあり、事前に確認する必要があります。主なルール・注意点をよく読み、自身の希望する科目登録が行えるように準備してください。なお、**エラーにより希望しない算入区分への登録決定、希望する科目の登録不可等が発生した場合、登録内容を変更することはできません。**十分に注意して登録に臨んでください。

	ルール・注意点	参照先	
履修申請時	算入区分	各科目には「算入区分」が設けられており、「卒業算入」扱いにできるものと、できないものの2種類があります。	「2-1. 単位の種類（算入区分）」
	制限単位数	「卒業算入」扱いとして申請できる単位数は、学期、科目区分、科目設置箇所などにより制限が設けられています。	「2-2. 登録制限単位数・算入上限単位数」
	他箇所科目の科目区分	他箇所提供科目は、科目の設置箇所や性質により算入区分・科目区分が異なります。	「2-3. 社会科学部以外で履修した科目の単位算入部門」
	前提条件	一部の科目（積み上げ式科目）は、登録する前学期までに修得すべき所定の科目を合格する必要があります。	「2-4. 科目名のルールと履修方法」
	配当年次	各科目には配当年次が定められており、履修学年によって登録できる科目が制限されています。	
	遠距離	授業実施キャンパス間の移動時間が確保できない場合、登録はできません。	
	曜日・時限の重複	同一曜日時限には複数科目を申請できません。	
	同一科目の重複履修	同一学期に同一科目を申請することや、前学期までに単位を修得した科目を申請することはできません。	
履修申請後	例外条件	上記の例外として、科目名称や講義内容等の変更により履修条件が例外的に定められている科目があります。	「2-5. 履修条件の例外科目一覧」
	定員と抽選	各科目には定員が定められており、定員を超える希望申請があった場合には抽選により履修者が決定されます。	「2-6. 定員と抽選」
	取消・区分変更	一部科目では、決定後科目の取り消しと算入区分の変更ができます。	「2-7. 決定した科目の取り消し・算入区分変更」
	申請・登録結果の確認	申請情報および登録結果は、必ず Web 科目登録画面で確認してください。	「2-8. 申請情報・登録結果の確認」
	聴講料・実験実習料納入	聴講料・実験実習料の納入が必要な科目の登録が決定し、期限内に納入しなかった場合、決定科目は取り消しとなり、その後の科目登録において抽選の優先順位が下がります。	「2-9. 聴講料・実験実習料納入」

2-1. 単位の種類（算入区分）

各科目には「算入区分」が設けられており、卒業単位として加算される「卒業算入単位」と、卒業単位には加算されない「卒業非算入単位」とがあります。

◆卒業算入単位

卒業算入単位とは、科目を履修し、合格した場合、その単位が卒業必要単位数（124 単位）の一部として、それぞれの科目区分（初年次教育、必修英語、教養外国語、選択外国語、コア科目、基盤専門科目、ゼミナール、先進専門科目、社会科学総合研究）の上限単位数まで**算入される単位**のことです。卒業算入として登録した科目はすべて **GPA（成績の平均、下記表に詳細あり）に影響します。**

なお、「社会科学基礎教育課程」の上限単位数（80 単位）および「学際・複合教育課程」の上限単位数（44 単位）を超えて卒業算入単位として登録することが可能ですが、それぞれの上限単位数（80 単位または 44 単位）を超過した単位は卒業必要単位数（124 単位）に算入することはできません（GPA には影響します）。

また、科目登録時にエラーは表示されないのをご注意ください。

例）「社会科学基礎教育課程」の上限である 80 単位を修得済みの状態で、「社会科学基礎教育課程」の科目である選択外国語 2 単位を卒業算入単位として科目登録した場合、当該科目の成績は GPA に影響しますが、新たに登録した選択外国語 2 単位は卒業必要単位数（124 単位）には算入されません。

◆卒業非算入単位

非算入単位とは、科目を履修し合格した場合、成績は付与されますが、**卒業必要単位数には加算されない単位**のことです。非算入科目には、「**超過履修科目**」と「**自由科目**」の 2 つがあります。卒業非算入として登録した科目は **GPA に影響しません。**

なお、初年次教育および必修外国語（必修英語・教養外国語）は、卒業算入単位から非算入単位に変更することはできません。

◇超過履修科目

超過履修科目とは、本来「卒業算入」として扱える科目が、申請者の希望や登録時のエラーにより「卒業非算入」の単位として登録されたものを指します。例えば、登録制限単位数を超えて科目登録を行う場合や、成績の良し悪しに関係なく自身の研究または興味に基づいて履修したい場合に、「超過履修科目」として申請することができます。

ただし、超過履修科目として申請した科目（社会科学部設置科目）が抽選対象科目となった場合、卒業算入単位として申請した学生が優先的に登録されます。

◇自由科目

自由科目とは、「卒業非算入」としてのみ履修が可能な科目です。社会科学部のカリキュラムとして卒業算入単位に認められないと判断された科目、もしくは他箇所提供科目のうち社会科学部設置科目と「同名科目」または「同内容」と判断された科目が該当します。

【GPA（Grade Point Average）について】

GPA とは成績の平均を表す値で、学期毎または在学中通算の GPA が確認できます。対象科目は、「卒業算入科目」として登録したすべての科目で、不合格科目を含みます。

GPA は様々な場面で成績評価として利用され、留学プログラム申請や大学院入学、また奨学金判定基準等に利用されています。大切な指標となるため、科目登録の際には、「算入」「非算入」に十分注意して登録を行ってください。

GPA 計算式は以下のとおりです。

$$\frac{(A^+ \text{ 修得単位数} \times 4) + (A \text{ 修得単位数} \times 3) + (B \text{ 修得単位数} \times 2) + (C \text{ 修得単位数} \times 1)}{\text{総登録単位数 (卒業算入単位すべて、不合格科目も含む)}}$$

2-2. 登録制限単位数・算入上限単位数

各学期に「卒業算入単位」として申請・登録できる単位数は制限があり、これらの制限を超えて申請するとエラーとなります。

「重要」

- 各登録制限単位数を超えて申請しようとすると、Web 科目登録時にエラーが表示されます。**エラーを解消せずに申請した場合、無作為に選ばれた科目が登録不可もしくは「超過履修科目（非算入）」として登録されます。**
- 一度「超過履修科目」として登録決定した科目の卒業算入区分への変更はできません。また、他の卒業算入科目との算入区分の入れ替えも認められません。各種制限単位数を超えて登録を希望する際は、必ずオーバーする単位数分以上をご自身で選び、超過履修科目（卒業非算入単位）として申請するようにしてください。

◆年間・半期登録制限単位数

◇1 年次入学者

3 年生以下		4 年生以上	
年間合計		年間合計	
40 単位		48 単位	
春学期	秋学期	春学期	秋学期
24 単位	24 単位	28 単位	28 単位

◇学士・3 年次編入学者

3 年生		4 年生以上	
年間合計		年間合計	
48 単位		56 単位	
春学期	秋学期	春学期	秋学期
28 単位	28 単位	32 単位	32 単位

※「通年」・「春夏期」・「夏季集中」科目は「春学期」の登録単位数、「冬季集中」・「春季集中」・「夏秋期」科目は「秋学期」の登録単位数に数えられます。

重要 春学期に不合格となった単位があっても、不合格分の単位数は秋学期の登録制限単位数に補充されません。

- 例 1) 1 年次入学 3 年生の方が春学期に 24 単位登録した場合、春学期科目がすべて不合格であったとしても、秋学期登録可能単位数は 16 単位までとなります（年間登録制限単位数：40 単位－春学期登録単位数：24 単位＝16 単位）。
- 例 2) 1 年次入学 2 年生の方が春学期に 10 単位のみを登録した場合、秋学期の最大登録可能単位数は 30 単位ではなく、24 単位です（秋学期登録制限単位数の上限）。

◆科目種別ごとの登録制限・算入上限単位数

科目種別	年間登録制限	在学中算入上限
選択外国語	4 単位	8 単位
社会科学特殊講義（特講含む）	4 単位	12 単位
先進社会科学特殊講義（特講含む）	4 単位	4 単位
外国書研究・地域研究演習	4 単位	4 単位
グローバルラーニング	4 単位	4 単位
専門英語	4 単位	12 単位
ゼミナール I	2 単位または 4 単位 ※1	2 単位または 4 単位 ※1
ゼミナール II・III	4 単位	8 単位
ソーシャル・リサーチ	6 単位 ※2	12 単位

※1 2012 年度以前入学者・2018 年度以降入学者は、ゼミナール I の年間登録制限単位数・在学中算入上限ともに 2 単位です。

※2 ソーシャル・リサーチは春学期 2 単位、秋学期 4 単位の登録制限があります。

◆他箇所提供科目 登録制限・算入上限単位数

科目種別	年間登録制限	在学中算入上限
他箇所科目 合計	12 単位	36 単位
うち 選択外国語	4 単位	8 単位
うち 保健体育科目	4 単位	4 単位
うち インターンシップ科目	2 単位	2 単位

※学術的文章の作成、統計リテラシーα・β、英語 1－2（Tutorial English）および教養外国語として履修したイタリア語・朝鮮語・日本語は他箇所制限単位数の対象外です。

※他箇所提供科目のうち超過履修科目または自由科目として登録された科目は登録制限単位数・算入上限単位数に含まれません。

重要 単位認定の取り扱いについて

- 他箇所の在学中算入上限 36 単位には、**留学認定単位**、および**入学前の高校生特別聴講**、**外国学生導入教育の認定単位**も含まれます。なお、これらの認定単位は、「年間登録制限単位」の対象外です。留学の単位認定の詳細は、「社会科学部生のための留学案内」で確認してください。

◀重要▶

登録制限単位数・算入上限単位数については P.56 に記載のとおりですが、合わせて以下の「超過履修科目・自由科目を含めた年間登録単位数の上限」および「オンライン授業科目の卒業算入上限と授業方法区分」についても必ず確認のうえ、履修計画を検討してください。

◆ 超過履修科目・自由科目を含めた年間登録単位数の上限

本学では、以下＜単位制度について＞に記載の内容から、卒業必要単位に算入する科目のみならず、超過履修科目・自由科目といった卒業必要単位に算入しない科目を含めて、年間登録単位数の上限の目安を年間 49 単位としています。

※超過履修科目・自由科目についての説明は P.55 をご参照ください。

参考 単位制度について

単位制度とは、一定の基準に従って授業科目を履修し、試験等に合格することによって、その授業科目の単位が付与される制度です。本学の各授業科目の単位数は、早稲田大学学則（早稲田大学大学院学則）により、1 単位の授業科目を 45 時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。また、1 単位あたりに必要となる授業時間数は、授業の方法（講義、演習等）にかかわらず、15 時間から 45 時間までの範囲で各学部が定める時間数としています。本学では、毎週 1 コマ（100 分）で 14 週実施される授業時間数を 30 時間とみなしています（7 週の場合は 15 時間とみなしています）。

そのため、2 単位科目の場合、90 時間に相当する内容の学修が必要となり、例えば講義科目（毎週 1 コマを 14 週）で 2 単位を修得するためには、授業時間数である 30 時間に加え、授業時間以外に約 60 時間に相当する内容の学修を行う必要があります。したがって、14 週の授業に対して毎回概ね 4 時間程度の内容に相当する授業時間外の学修（予習・復習等）が必要となります。

このように、単位修得のためには、授業時間だけでなく、授業時間外にも必要な学修時間を確保する必要があるため、1 年間で登録できる単位数を制限することが必要になります（9 月入学の場合は、春学期を起点として算出します）。なお、本学では、卒業（修了）必要単位に算入する科目のみならず、超過履修科目・自由科目といった卒業必要単位に算入しない科目を含めて、年間登録単位数の上限の目安を年間 49 単位としています。

重要 年間登録単位数の上限を超えて登録した場合の取り扱いについて

科目履修を行う際は、上記に説明する単位制度の趣旨を踏まえた年間登録単位数に留意してください。なお、年間登録単位数の上限を越えている場合、次学期以降の登録単位数について注意喚起および科目履修に関する面談を行う可能性があります。

◆オンライン授業科目の卒業算入上限と授業方法区分

オンライン授業科目（オンラインによる授業が総授業時間の半分以上を超えるもの）は、大学設置基準により、**学部（通信教育課程および大学院の課程を除く。）における卒業所定単位数への算入は 60 単位まで**（以下「60 単位制限」とする）とされています。

本学では、今後もオンラインと対面を組み合わせた授業科目など、授業の実施方法が多様化することが想定されることから、科目登録時に各授業科目の実施方法や60 単位制限への計上の要否を確認できるように、対面授業科目・オンライン授業科目の分類を以下のとおり定義し、「授業方法区分」としてシラバスで示します。自身の履修計画を立てるにあたり、参考としてください。

<「授業方法区分」の定義について>



- ✓ 授業方法区分が、“【対面】”（下表の①、②）および“【非常時】”（下表の⑥、⑦、⑧）で始まる授業科目は「対面授業科目」と取り扱うため、60 単位制限には含めません。
- ✓ 授業方法区分が“【オンライン】”（下表の③、④、⑤）で始まる授業科目で修得した単位は、学部の卒業所定単位としては（③、④、⑤を合わせて）**60 単位を上限として履修が可能です**。

分類	授業方法区分	説明※1	60 単位制限 への計上要否	曜日時限重複 チェック※2	遠距離 チェック※3
対面授業科目	① 【対面】	全時限対面授業により実施する授業科目です（対面授業をオンライン配信する「ハイフレックス型」を含む）。	含めない	対象	対象
	② 【対面】ハイブリッド （対面回数半数以上）	対面授業とオンライン授業の併用により実施し、対面の割合が半数以上の授業科目です。			
オンライン授業科目	③ 【オンライン】ハイブリッド （対面回数半数未満）	対面授業とオンライン授業の併用により実施し、対面の割合が半数未満の授業科目です。	含める	対象	対象
	④ 【オンライン】フルオンデマンド	全時限オンデマンド授業により実施する授業科目です。		対象外	対象外
	⑤ 【オンライン】リアルタイム配信	全時限をオンライン授業により実施し、その一部または全時限をリアルタイム配信として実施する授業科目です。		対象	対象外
非常時対応※4 （すべて対面授業科目として扱う）	⑥ 【非常時】ハイブリッド	対面授業とオンライン授業の併用により実施する授業科目です。	含めない	対象	対象
	⑦ 【非常時】フルオンデマンド	全時限オンデマンドとして開講する科目です。			
	⑧ 【非常時】リアルタイム配信	全時限をオンラインにより実施し、その一部または全時限をリアルタイム配信として実施する授業科目です。			

※1 本学においてオンラインを用いて行われる授業は、以下のとおり分類されます。

■ オンデマンド配信型：

事前に収録された講義動画を視聴することで学び、小テストや課題提出による理解度確認や質疑応答、履修生同士の意見交換等を行う授業。

■ リアルタイム配信型：

指定されている曜日・時限に合わせて授業がライブ配信される授業。

■ ハイフレックス配信型：

教場で実施される対面授業をオンラインシステムにより配信し、履修者がオンラインでも対面でも同じ授業内容を受講可能な授業。本学では対面授業として扱う。

※2 「曜日時限重複チェック」とは、曜日・時限が設定されている授業科目間での時間割重複判定のことです。

※3 「遠距離チェック」とは、異なるキャンパス間の移動時間に基づいた受講可否判定のことです。

※4 「非常時対応」の授業方法区分（⑥～⑧）は、新型コロナウイルス感染症や大規模災害等の社会的な影響を受けて、やむを得ない理由（国や自治体からの大学に対する休講要請、教室定員の制限等）により、当初の授業計画において対面で実施する予定だった授業をオンラインで実施する場合に当該授業科目を設置する学部等の判断により適用します。これらの【非常時】の授業科目は、感染症や災害等の改善状況などにより、当初の計画通り対面授業を実施する可能性があるため、すべての非常時の授業科目について、予め曜日時限が設定されており、科目登録時の曜日時限重複チェック、遠距離チェックの対象となります。

【注意】卒業所定単位数へのオンライン授業の算入制限について

先頭に【オンライン】と付いている授業方法（前ページ表中の③、④、⑤）の科目について、卒業所定単位（124 単位）に算入できる単位数は 60 単位までに制限されます。

つまり、**卒業所定単位数（124 単位）のうち、最低 64 単位は、対面授業で修得する必要があります。**

Web 科目登録の際にシステムでこのチェックは行っていないので、ご自身で単位数を確認してください。

社会科学部事務所では、オンライン授業科目 60 単位制限に関する個別のお問い合わせには対応しておりません。また、それに伴う履修申請の成否に関するお問い合わせについても、同様に対応しておりません。

<オンライン授業科目 60 単位制限の対象となる科目・単位数の確認方法>**1) これから登録を行う科目・履修中の科目**

Web シラバスの「授業方法区分」が “【オンライン】” で始まる科目が計上対象です。

※卒業非算入科目（超過履修科目、自由科目）は計上不要です。

2) 過去に履修し、単位を修得した科目

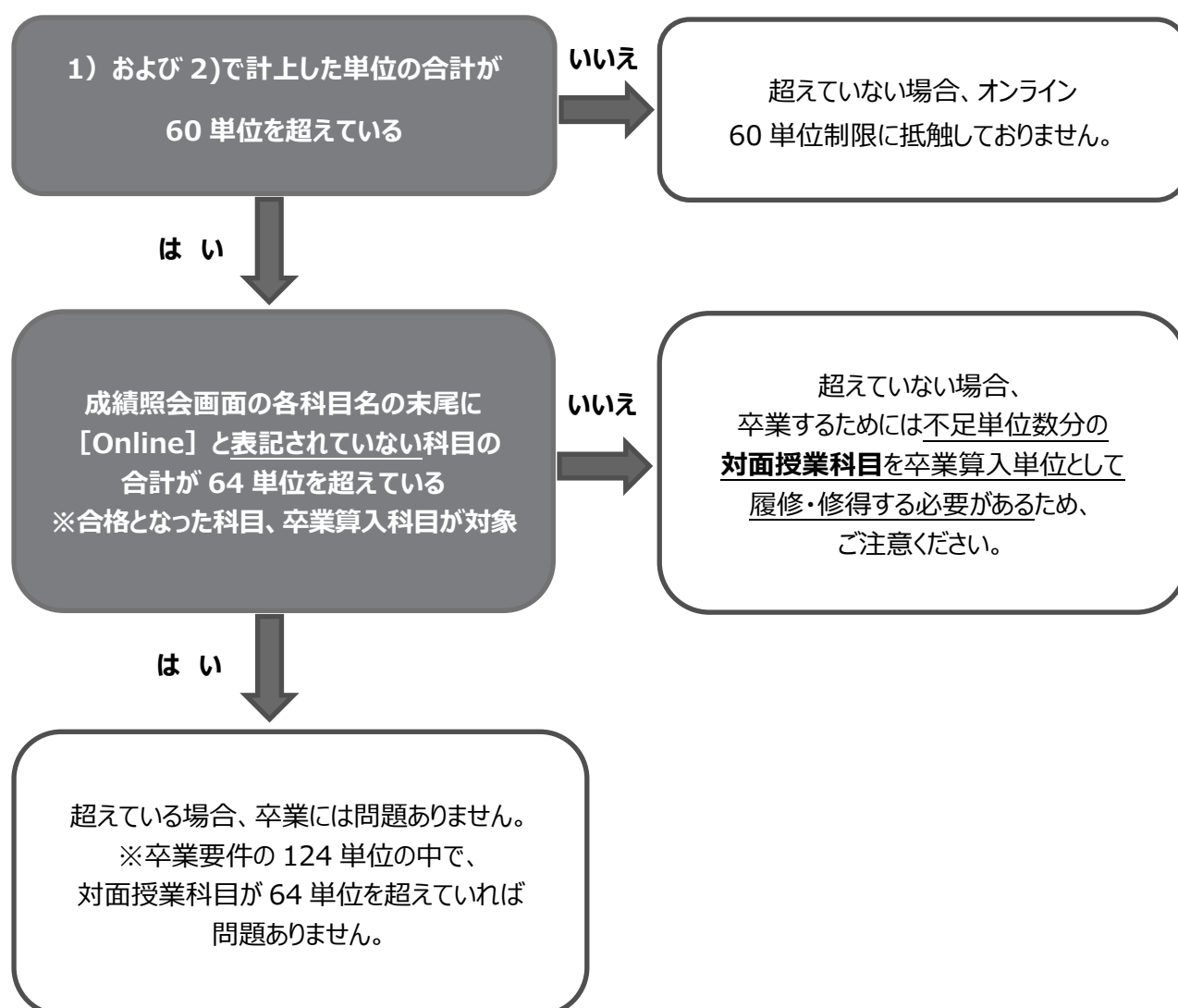
成績照会画面の各科目名の末尾に【Online】と表記された科目が計上対象です。

※履修年度にかかわらず、【Online】と表記された科目はすべて対象となりますのでご注意ください。

※不合格となった科目、卒業非算入科目（超過履修科目、自由科目）は計上不要です。

<オンライン授業科目の履修・修得状況確認フローチャート>

「はい」または「いいえ」の矢印の先の吹き出しをご確認ください。



2-3. 社会科学部以外で履修した科目の単位算入部門

◆全学オープン科目の取り扱いについて

下表において、各学部・センター提供全学オープン科目を履修した場合の単位の取り扱いを示しています。また、社会科学部 Web サイトにて公開される「全学オープン科目の取り扱い一覧」にて、全学オープン科目の科目部門が科目別に一覧化されています。この一覧表は、毎年更新されますので、申請前に確認するようにしてください。

分類	科目群		科目種別			備考
			講義科目	外国語科目	同名科目※ ¹	
全学オープン科目	グローバルエデュケーションセンター提供科目	アカデミック・ライティング科目	基盤専門科目	—	自由科目	
		数学科目	基盤専門科目	—	自由科目	
		データ科学科目	基盤専門科目	—	自由科目	
		情報科目	基盤専門科目	—	自由科目	
		英語科目	—	選択外国語	自由科目	※ ²
		言語科目	—	選択外国語	自由科目	
		保健体育科目	基盤専門科目	—	自由科目	算入上限 4 単位
		自然科学科目	基盤専門科目	—	自由科目	
		人文・社会科目	基盤専門科目	—	自由科目	
		国際教育科目	基盤専門科目	—	自由科目	
		日本語教育科目	基盤専門科目	—	自由科目	
		人間的・力量科目	基盤専門科目	—	自由科目	
		インターンシップ実習	基盤専門科目	—	自由科目	算入上限 2 単位
		【他大学】 f-Campus 武蔵野美術大学 東京女子医科大学 広島大学 九州大学	基盤専門科目	—	—	年間登録制限単位数があります。GEC 発行の「全学オープン履修ガイド」を参照してください。
		留学センター提供科目	基盤専門科目	—	自由科目	
	学部提供全学オープン科目(全学部)		基盤専門科目	選択外国語	自由科目 ※ ³	
他学部提供科目		自由科目	自由科目	自由科目	※ ⁴	
教職等資格関連科目		自由科目	—	—		
社会科学部研究科提供科目		自由科目	—	—	※ ⁵	

※1 同名科目とは、社会科学部設置科目と科目名が同じ科目に加え、科目内容が同じと判断された科目、および社会科学部カリキュラムとして卒業算入単位に認定できないと判断された科目も含まれ、すべて「自由科目」（卒業非算入単位）となります。

※2 英語 1 - 2 として 1 年次に履修する Tutorial English (GEC 提供科目) は、「必修英語」の区分に入ります。

※3 同名科目は通常「自由科目」となりますが、語学科目に限り「選択外国語」（卒業算入単位）として履修可能です。

◆政経・法・商学部の他学部提供科目の取り扱いについて（上記表中の※4）

早稲田大学の各学部が、全学オープン科目以外に他学部生の提供を許可し、自箇所学生の登録後、定員に余裕があれば開放される科目があり、それらの科目は 3 次登録において登録が可能です。これらの科目は原則として「自由科目」（卒業非算入科目）となりますが、政経・法・商学部提供の以下科目においては、基盤専門科目として卒業単位に算入できます。これらの学部では、社会科学部とは異なった特徴を持っていますので、強い専門性を志向する学生の皆さんの履修を推奨しています。

学部	科目部門
政治経済学部	1. 政治学科科目部門（文献研究、公共哲学を除く） 2. 経済学科科目部門（入門科目を除く）
法学部	法律科目（演習科目を除く）
商学部	専門教育科目（演習科目を除く）

※対象科目の詳細は、社会科学部 Web サイトを参照してください。

◆社会科学部研究科 先取り履修について（上記表中の※5）

科目担当教員の承認があれば、年間 8 単位まで社会科学部研究科提供の講義科目履修が可能です。「自由科目」（卒業非算入科目）となりますが、社会科学部研究科入学後、最大 10 単位まで修士課程修了単位として認定が可能です。

【申請時期】春学期／秋学期 1 次～3 次登録期間

2-4. 科目名のルールと履修方法

社会科学部の科目名は「科目名称」と「クラス名称」（科目名の後につくアルファベット）により識別されます。科目名によって履修方法が異なりますので、十分注意してください。

(例)	経済学入門 1	〔ミクロ経済学〕	A ~ C
	科	目	ク
	流	通	ラ
	論	Ⅱ	ス
	科	目	名
	流	通	名
	論	Ⅱ	名
	科	目	名

積み上げ式科目① 「Ⅰ・Ⅱ 科目」（Ⅰを履修し単位を修得していないと、Ⅱが履修できない）

社会科学部設置科目では、科目名末尾にローマ数字の「Ⅰ」または「Ⅱ」がついていた場合、Ⅰを合格していないとⅡの登録・履修ができません（前提条件エラー）。

【例】「商業史Ⅰ」の単位を前学期までに修得していない場合、「商業史Ⅱ」の登録はできません。

※「Ⅰ」を登録しても、不合格であった場合は「Ⅱ」の登録ができません。

※必ずしも「Ⅰ」が春学期、「Ⅱ」が秋学期に開講されるとは限らないため、在学中計画的に履修をしてください。

※「Ⅰ」と「Ⅱ」は、積み上げ式科目のため、「Ⅰ」を合格した場合、「Ⅱ」も登録・履修されることが望まれます。春学期に「Ⅰ」を履修・合格した学生には、秋学期 1 次登録前に「Ⅱ」が自動登録されます。登録された「Ⅱ」は秋学期 1 次登録期間から取消ができます（例外あり）ので、履修を望まない場合は、ご自身で取消してください。

※春学期終了時点で卒業必要単位数を修得済であっても、春学期に「Ⅰ」を履修・合格した場合には、秋学期 1 次登録前に「Ⅱ」が自動登録されます。

【Ⅰ/Ⅱ 積み上げ式科目の例外①：ゼミナール】

ゼミナールにも「Ⅰ/Ⅱ/Ⅲ」が科目名につきますが、履修可否は担当教員の判断となるため、「Ⅱ」または「Ⅲ」からの履修が認められる場合もあります。※「Ⅰ」の単位を修得しても、「Ⅱ」の履修が認められない場合もあります。

【Ⅰ/Ⅱ 積み上げ式科目の例外②：ソーシャル・リサーチ】

Ⅰ・Ⅱはセット科目のため、Ⅰの履修が決定した場合、Ⅱが自動的に登録されます。また、Ⅰ・Ⅱのいずれも科目取消を不可とします。Ⅰの成績が不合格であっても、Ⅱの取消はできません。詳細は P.50 を必ず確認してください。

積み上げ式科目② 外国語科目（ドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語）

社会科学部設置の外国語科目（ドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語）では、科目名に「基礎」・「初級」がついていた場合、「基礎」科目を合格、単位修得していないと、「初級」科目の登録・履修はできません（前提条件エラー）。

【例】「ドイツ語 1 基礎」の単位を前学期までに修得していない場合、「ドイツ語 1 初級」の登録はできません。

科目名に「1」・「2」・「3」…がつく科目

社会科学部設置で、科目名末尾に「1」・「2」・「3」…がついている科目は、いずれの科目からでも履修可能です。

【例】「民法 1」を履修していなくても、「民法 3」の登録が可能です。

※「1」は「2」の、「2」は「3」の前提科目ではありません。番号に関係なく、登録・履修が可能です。

※必ずしも、1, 2, 3…の全てを履修する必要はありません。

クラス名に「A」・「B」・「C」…がつく科目

社会科学部設置で、クラス名が「A」・「B」・「C」…となっている科目は**同科目**です。いずれか 1 科目のみ履修が可能で、一度単位を修得した場合は担当教員が異なっても、再度登録・履修はできません。

【例】「政治分析 A」の単位が既得であった場合、「政治分析 B」の登録はできません。

※同学期に複数クラスが開講している場合、その学期にはいずれか 1 科目のみ登録が可能です。複数クラスの申請を行った場合、どちらか一方がエラーとなり、登録されません。

※前学期までに「A（または B, C…）」の単位が不合格であった場合、同じクラス、また別クラスの登録・履修は可能です。

2-5. 履修条件の例外科目一覧

前述の諸条件に加えて、履修条件変更や科目名称変更により、例外的に登録できない科目があります。(以下一覧)

対象科目	例外履修条件
国際教育協力論	「Educational Development in Developing Countries」または、「Education and Development」の単位を修得している場合は履修できません。
Education and Development	「国際教育協力論」または、「Educational Development in Developing Countries」の単位を修得している場合は履修できません。
E U地域研究 I <先進専門科目>	「E U地域研究 I」または、「E U地域研究 I <基盤専門科目>」の単位を修得している場合は履修できません。
E U地域研究 II	「E U地域研究 II」の単位を修得している場合は履修できません。
グローバルビジネス論 1	「国際経営論 1」または「International Business」の単位を修得している場合は履修できません。また、「International Business」と同一学期に履修することはできません。
グローバルビジネス論 2	「国際経営論 2」または「International Business」の単位を修得している場合は履修できません。また、「International Business」と同一学期に履修することはできません。
ソーシャル・リサーチ (歴史と記憶) I	「ソーシャル・リサーチ (文化・メディア) I」の単位を修得している場合は履修できません。
ソーシャル・リサーチ (歴史と記憶) II	「ソーシャル・リサーチ (文化・メディア) II」の単位を修得している場合は履修できません。
応用ミクロ経済学 1	「経済学入門 1 (ミクロ経済学)」の単位を修得している場合に履修可能です。
応用ミクロ経済学 2	「経済学入門 1 (ミクロ経済学)」の単位を修得している場合に履修可能です。
応用計量経済学 (計量経済学の進んだトピック)	「応用計量経済学 2 [政策評価のための計量経済学]」の単位を修得している場合は履修できません。
金融経済論	「金融経済論 I」の単位を修得している場合は履修できません。
刑法総論 I (犯罪論の基本構造)	「刑法総論」の単位を修得している場合は履修できません。
刑法総論 II (犯罪の諸形態)	「刑法総論」の単位を修得している場合は履修できません。
健康と人権	「Health and Human Rights」の単位を修得している場合は履修できません。また、「Health and Human Rights」と同一学期に履修することはできません。
Health and Human Rights	「健康と人権」の単位を修得している場合は履修できません。また、「健康と人権」と同一学期に履修することはできません。
雇用関係法 I	「個別的労働法 I」の単位を修得している場合は履修できません。
雇用関係法 II	「個別的労働法 II」の単位を修得している場合は履修できません。
行政法	「行政法総論 I」、「行政法総論 II」、「行政救済法 1 (行政訴訟)」、「行政救済法 2 (国家補償)」のうち、いずれかの単位を修得している場合は履修できません。
国際金融論	「国際金融論 I」または「International Finance」の単位を修得している場合は履修できません。また、「International Finance」と同一学期に履修することはできません。
International Finance	「国際金融論」の単位を修得している場合は履修できません。また、「国際金融論」と同一学期に履修することはできません。
社会科学のための回帰分析 1 (回帰分析の基礎、クロスセクションデータの分析)	「計量経済学 I」または「Regression Analysis for Social Sciences 1: Basics of Regression Analysis, Analysis of Cross-Sectional Data」の単位を修得している場合は履修できません。また、「Regression Analysis for Social Sciences 1: Basics of Regression Analysis, Analysis of Cross-Sectional Data」と同一学期に履修することはできません。
社会科学のための回帰分析 2 (時系列データ、パネルデータの分析)	「計量経済学 II」または「Regression Analysis for Social Sciences 2: Analysis of Time Series and Panel Data」の単位を修得している場合は履修できません。また、「Regression Analysis for Social Sciences 2: Analysis of Time Series and Panel Data」と同一学期に履修することはできません。
Regression Analysis for Social Sciences 1: Basics of Regression Analysis, Analysis of Cross-Sectional Data	「計量経済学 I」または「社会科学のための回帰分析 1 (回帰分析の基礎、クロスセクションデータの分析)」の単位を修得している場合は履修できません。また、「社会科学のための回帰分析 1 (回帰分析の基礎、クロスセクションデータの分析)」と同一学期に履修することはできません。
Regression Analysis for Social Sciences 2: Analysis of Time Series and Panel Data	「計量経済学 II」または「社会科学のための回帰分析 2 (時系列データ、パネルデータの分析)」の単位を修得している場合は履修できません。また、「社会科学のための回帰分析 2 (時系列データ、パネルデータの分析)」と同一学期に履修することはできません。
西洋哲学	「西洋哲学 1」および「西洋哲学 2」の単位を修得している場合は履修できません。
組織行動論	「組織行動論 I」および「組織行動論 II」の単位を修得している場合は履修できません。また、「Cross-Cultural Organizational Behavior」と同一学期に履修することはできません。
Cross-Cultural Organizational Behavior	「組織行動論 I」および「組織行動論 II」の単位を修得している場合は履修できません。また、「組織行動論」と同一学期に履修することはできません。
文化人類学 1	「比較文化論 1」の単位を修得している場合は履修できません。
文化人類学 2	「比較文化論 2」の単位を修得している場合は履修できません。
法と経済学 I	「法と経済学」の単位を修得している場合は履修できません。
法情報学	「法情報学 1 [インターネットと法]」の単位を修得している場合は履修できません。
理論人類学 2	「Evolutionary Anthropology」の単位を修得している場合は履修できません。また、「Evolutionary Anthropology」と同一学期に履修することはできません。
Evolutionary Anthropology	「理論人類学 2」の単位を修得している場合は履修できません。また、「理論人類学 2」と同一学期に履修することはできません。
International Business	「グローバルビジネス論 1」または「グローバルビジネス論 2」の単位を修得している場合は履修できません。また、「グローバルビジネス論 1」または「グローバルビジネス論 2」と同一学期に履修することはできません。
法学入門	「公法入門 (国家と法)」および「私法入門 (市民と法)」の両方の単位を修得している場合は履修できません。
Economic Growth	「Introduction to Economics」の単位を修得している場合に履修可能です。
臨床心理学	「臨床心理学 I」の単位を修得している場合は履修できません。
ヨーロッパ市民社会論 1	「ヨーロッパ市民社会論 I」の単位を修得している場合は履修できません。
ヨーロッパ市民社会論 2	「ヨーロッパ市民社会論 II」の単位を修得している場合は履修できません。
社会デザインの思考と技法 3 [社会言語としての写真・映像]	「社会言語としての映像」の単位を修得している場合は履修できません。
社会デザインの思考と技法 4 [参加のデザイン技術]	「参加のデザイン技術」の単位を修得している場合は履修できません。
社会デザインの思考と技法 5 [演劇実践と場の創造]	「社会デザイン実習 3」の単位を修得している場合は履修できません。
スペイン語・会話	「スペイン語 1 基礎」および「スペイン語 2 基礎」の単位を修得している場合に履修可能です。
Culture, Nation, and Modernity	「Readings in Culture and History (Fall)」の単位を修得している場合は履修できません。
Introduction to Manga and Anime Culture	「Readings in Culture and History (Spring)」の単位を修得している場合は履修できません。
Anthropology of Japan	「Readings in Japan in the World (Fall)」の単位を修得している場合は履修できません。
Cultural Politics of Japan	「Readings in Japan in the World (Spring)」の単位を修得している場合は履修できません。
Monozukuri Culture in Japanese Society	「Readings in Japanese Technology and Environment (Fall)」の単位を修得している場合は履修できません。
Disaster Studies	「Readings in Japanese Technology and Environment (Spring)」の単位を修得している場合は履修できません。
Topics in Social and Economic Development 1	「Social Development in East and Southeast Asia 1」の単位を修得している場合は履修できません。
Topics in Social and Economic Development 2	「Social Development in East and Southeast Asia 2」の単位を修得している場合は履修できません。
異文化コミュニケーション論	「Intercultural Communication」の単位を修得している場合は履修できません。また、「Intercultural Communication」と同一学期に履修することはできません。
Intercultural Communication	「異文化コミュニケーション論」の単位を修得している場合は履修できません。また、「異文化コミュニケーション論」と同一学期に履修することはできません。

日本近代政治史 1	2024 年度以前に「日本史概論 1」を修得している場合は履修できません。
日本近代政治史 2	2024 年度以前に「日本史概論 2」を修得している場合は履修できません。
政治学原論 1	「政治学原論 I」の単位を修得している場合は履修できません。
政治学原論 2	「政治学原論 II」の単位を修得している場合は履修できません。
日本文学 1	「日本文学 1〔古典と近代〕」の単位を修得している場合は履修できません。
日本文学 2	「日本文学 2〔近代と現代〕」の単位を修得している場合は履修できません。
科学技術・イノベーション概論	「科学の歴史と科学技術政策」の単位を修得している場合は履修できません。
企業活動と法実務 1	「企業活動と法 1」の単位を修得している場合は履修できません。
企業活動と法実務 2	「企業活動と法 2」の単位を修得している場合は履修できません。

2-6. 定員と抽選

社会科学部設置科目の定員は以下、別途定員が定められている科目以外は、原則 1 科目 300 名です。

※教室設備との関係から、教室収容定員を履修定員とすることがあります。

定員が定められている科目

◆科目ごとの履修定員

対象科目	履修定員（最大）
スペイン語・会話	20 名
ソーシャル・リサーチ	20 名程度
ヴィジュアルイメージ研究	20 名
社会デザインの思考と技法 2 〔フィールドでの技術〕	30 名
社会デザインの思考と技法 4 〔参加のデザイン技術〕	30 名
社会デザインの思考と技法 5 〔演劇実践と場の創造〕	20 名
異文化コミュニケーション論	49 名
紛争解決論実習 1・2・3	15 名
コンピュータルームで授業を行う科目	26 名 (14-613) または 42 名 (14-614)
JA 共済寄附講座 SDGs 未来都市に学ぶ 1・2	32 名
イオン環境財団寄附講座 サステナブルコミュニティ論	100 名
持続可能社会実現への企業の貢献：エコファースト企業の取り組み	50 名
グローバル・サプライチェーン・マネジメント	20 名
情報化社会とワーキングスタイル	30 名
健康と人権	30 名
Japanese Patterns of Communication (★)	35 名
Intercultural Communication (★)	35 名
Postwar Japan-US Relations (★)	20 名
Building Local Peace: Field Work Practice (★)	8 名

◆科目部門ごとの履修定員

科目部門	履修定員（最大）
コア科目	300 名
外国語科目	40 名
英語 2-2	35 名
グローバルラーニング	40 名
外国書研究	40 名
専門英語	20 名
「Practicum（実践）」科目（★）	20～35 名

（★）英語学位プログラム設置科目

抽選時の優先順位

希望者が各科目の定員を超える場合には、抽選が行われ登録者が決定されます。抽選の結果、落選してしまった場合、「選外」となり登録されません。なお、抽選の際には、下記の「抽選時に優先順位が定められている科目」を除き、申請者全員が平等に扱われます。

◆抽選時に優先順位が定められている科目

科目区分	抽選における優先順位（数字が小さいほど高順位）			
	1		2	
2024 年度以降入学者のカリキュラムで「ミニマムディシプリン科目」として扱われる科目	1 年生	2 年生	3 年生	4 年生以上

科目区分	抽選における優先順位（数字が小さいほど高順位）		
	1	2	3
2024 年度以降入学者のカリキュラムで「コース科目」として扱われる英語学位プログラム設置科目	・英語学位プログラム学生	・2023 年度以前入学者 ・2024 年度以降入学者における自コース学生	・2024 年度以降入学者における他コース学生 ・他箇所学生

※社会科学部 Web サイト掲載の「2025 年度科目登録の手引き＜2024 年度以降入学者用＞」学科科目配当表から対象科目を確認することができます。

前年度に抽選が発生した科目

今年度開講科目の内（外国語科目を除く）、前年度に抽選が発生した科目について、その科目名および倍率を 3 月中旬頃までに社会科学部 Web サイトの科目登録関連ページに掲載します。1 次登録に向けて履修計画をたてるうえで参考としてください。

2-7. 決定した科目の取り消し・算入区分変更

一度申請し、決定した科目は原則として取り消し、変更はできません。

ただし、一部の科目においては、**3次登録期間中に限り**、1次・2次登録期間に登録した科目の①取り消し、または②算入区分変更（算入→非算入）が認められています。対象科目はそれぞれ以下のとおりです。

◆各科目種別における3次登録期間中の取り消し・算入区分変更の可否について

科目種別		① 取り消し	② 算入区分変更
社会科学部設置科目	基盤専門科目	○	×
	先進専門科目	○	×
	ソーシャル・リサーチ	×	×
	社会科学総合研究	○	×
	コア科目	○	×
	初年次教育	×	×
	必修外国語	×	×
	選択外国語	基礎・初級 上記以外	×
	ゼミナール I・II・III	×	×
他箇所設置科目（以下の場合を除く）		○	○ (算入→非算入のみ)
P.53 で取消不可とされている科目		×	○ (算入→非算入のみ)
日本語教育研究センター提供科目 ※		○	○ (算入→非算入、非算入→算入)

※ 外国学生に限りです。また、3次登録期間だけでなく、2次登録期間でも取り消し・算入区分変更が可能です。

重要

- 一度「取り消し」を行った科目は、**登録決定に戻すことはできません。**
- 科目区分の変更の確定後に、**再度「非算入」から「算入」に変更することはできません。**
- 取り消し単位数および区分変更する単位数の上限はありませんが、**3次登録終了後に追加登録の機会はありません。**
- 取り消し、または算入区分を変更した分の単位数を、3次登録で別科目により補うことは可能です。
- 自動登録された必修科目を取り消すことはできません。
- 秋学期に自動登録された積み上げ式科目は、秋学期1次登録から取り消すことが可能です。
(P.61 に記載の「積み上げ式科目①」を参照)

※ 科目取り消し、算入区分変更等の操作方法については、P.73～をご確認ください。

2-8. 申請情報・登録結果の確認

申請情報および登録結果は Web 科目登録画面にて必ず確認してください。

Web 科目登録画面

科目登録結果発表日の朝から最新の科目登録結果が反映されますので必ずご確認ください。

なお、科目登録は原則自己責任となりますので、Web 科目登録画面を確認しなかったことで生じた履修上の不利益について、学部は一切責任を負いかねますことご承知おきください。

重要 授業実施教室の確認について

授業が行われる教室は、必ず最新の Web 科目登録画面にて確認してください。

なお、教室は授業開始後も変更される可能性がありますので、科目設置箇所の掲示板やWebシラバスもあわせて確認してください。

注意 「登録制限単位数オーバーエラー」を解消しないまま科目登録を終えた場合、登録申請した科目が無作為に「不可」または「超過履修（非算入）」に変更されます。登録結果を確認する際、この点もご自身で確認してください。

2-9. 聴講料・実験実習料納入

聴講料・実験実習料は、一部の科目を履修するにあたって授業料以外に支払う必要のある費用のことです（実習科目や体育科目等）。期限までに納入しなかった場合、決定科目は取り消しとなり、その後の科目登録において抽選の優先順位が下がります。

◆納入期間

登録学期	納入対象科目	納入期間
春学期	1次登録／2次登録／3次登録	4月24日（木）～ 4月28日（月）23:59
秋学期	1次登録／2次登録／3次登録	10月15日（水）～10月20日（月）23:59

※上記期間外の納入は一切受け付けられません。

◆納入方法

科目の登録が決定したら、以下①～③の方法で納入を完了させてください。

①納入案内メールの確認

納入期間の初日に、Waseda メールアドレス宛に**納入案内メール**が届きます。

メールには、納入にあたり必要な情報が記載されていますので、必ず確認をしてください。

<納入案内メール>

差出人：fee-payment@list.waseda.jp

件名：【重要】2025年度●学期登録 聴講料・実験実習料の納入について

本文：【納入金額（合計）・納入期限・納入方法選択画面の URL・注意事項】などが記載

※Waseda メールの容量がいっぱいの場合、メールを受信することができません。事前に空き容量を確認するようにしてください。

※納入案内メールや納入手順案内メール（納入方法選択後に送信）が「迷惑メール」フォルダに入ってしまうことがあります。メールが見つからない場合は、検索ボックスに【検索キーワード：【fee-payment】】を入力し、【迷惑メール】や【ゴミ箱】も含めて検索してみてください。それでもメールが見つからない場合は、以下の窓口にお問い合わせください。

【納入方法に関するお問い合わせ】

fee-payment@list.waseda.jp（早稲田大学教務部教育企画課）

※お問い合わせの際は、必ず Waseda メールアドレスを使用し、学籍番号・氏名・所属学部・携帯電話番号を明記してください。

※お問い合わせ対応時間：月曜～金曜 9:00～17:00（土日除く）

※科目登録・授業の履修等に関する内容については、所属学部事務所、または科目設置箇所までお問い合わせください。

②納入方法の選択・確定

納入方法は以下の3つから選択できます。

メール本文中の URL をクリックし、納入方法選択画面から納入方法を1つ選択してください。

一度確定した納入方法を変更することはできませんのでご注意ください。

納入方法	説明	備考・注意
コンビニエンスストア（受付番号）決済	納入方法選択画面より支払用番号を発行し、コンビニ店舗で納入する方法 【詳細ページ】 https://waseda.box.com/v/waseda-freepayment	・Web 上で納入先のコンビニを選択する必要あり（ <u>番号発行後のコンビニ変更不可</u> ）。 ・基本的にクレジットカードでの納入不可。 ・30万円を超える納入不可。
ペイジー決済	納入方法選択画面で支払用番号を発行し、各金融機関のインターネットバンキングまたは ATM を利用して納入する方法 【詳細ページ（利用可能な金融機関など）】 http://www.pay-easy.jp/howto/index.html	・納入金額が10万円を超える場合、金融機関の ATM は利用不可（インターネットバンキングは可）。 ・コンビニ設置の ATM は不可。
クレジットカード決済	納入方法選択画面でクレジットカード情報を入力して納入する方法	・VISA・MasterCard のみ対応。その他のブランド不可。 ・分割・リボ払い不可。 ・決済不可の場合は、納入方法選択画面に戻る。

③納入手順の確認・納入完了

納入方法の確定後、Waseda メールアドレス宛に**納入手順案内メール**が届きます。

その手順にしたがって、期限までに納入を完了すると、**納入完了通知メール**が届きます。

※「クレジットカード決済」選択者は、②で納入方法が確定した時点で決済完了となり、納入完了通知メールが届きます（納入手順案内メールは届きません）。

◆注意事項

- ・**期間外の納入はいかなる理由があっても認められません（期限間際に納入を試みたが、完了しなかった場合も含む）。未納の場合、決定科目の履修が認められないだけでなく、その後の科目登録において抽選の順位が下がることがあります。**
- ・聴講料・実験実習料は納入案内メールに記載された合計金額をすべて納入してください。**一部の科目の聴講料・実験実習料のみ納入することはできません。また、納入後の返金もできません。**
- ・納入方法の確定後は、別の方法に変更できません。
- ・クレジットカード決済を利用する際は、カードの利用限度額や有効期限に注意してください。
- ・**大学生協店舗で納入を行うことはできません。**
- ・**1次登録で決定となった「Tutorial English」については、レッスングループ編成の都合上、その他の登録決定科目とは異なる期間に実験実習料を納入します。**
- ・納入案内メールが届かない、またはあやまって削除してしまった場合は教育企画課（fee-payment@list.waseda.jp）までお問い合わせください。

◆聴講料・実験実習料が必要な科目（2025 年度社会科学部設置科目）

科目名	聴講料・実験実習料
ソーシャル・リサーチ（歴史と記憶） I	¥5,000
ソーシャル・リサーチ（歴史と記憶） II	¥5,000
ソーシャル・リサーチ（ジェンダーとセクシュアリティ） I	¥5,000
ソーシャル・リサーチ（ジェンダーとセクシュアリティ） II	¥5,000
紛争解決論実習 1	¥20,000
Building Local Peace : Field Work Practice ※英語学位プログラム提供科目	¥5,000

- ・上記科目については聴講料・実験実習料に加えて実費精算が必要となるものがあります。また、上記以外の科目においても実費精算が必要になる可能性があります。履修を検討する科目については必ずシラバスをご確認ください。
- ・他箇所提供科目における聴講料・実験実習料の有無については全学オープン科目履修ガイドや Web シラバスをご確認ください。

Web 科目登録利用手順

※凡例  …中心となる作業。数字は、作業順序

【注意】科目登録をWEBで申請する場合、申請する科目をあらかじめ決めて申請をしてください！

1. Web 科目登録の流れ

「成績照会・科目登録専用ログイン」画面からのログイン

○MyWaseda ログイン前画面左下の＜成績照会・科目登録専用＞

をクリックし＜成績照会・科目登録専用ログイン＞画面からログインを行い、
＜成績照会・科目登録専用メニュー＞から科目登録を選択します。

○登録済みの科目を確認します。

登録科目一覧の確認

①科目検索

- [科目検索]ボタンをクリックすると科目検索画面が表示されます。
- 科目開講箇所を選択し科目群、検索条件を指定して[科目検索]ボタンをクリックします。
- 検索条件に合う履修の許可される科目が表示されます（それ以外の科目は非表示）。

①

登録希望
科目の検索

②

科目の[選択]

②科目の[選択]

- 選択チェックボックスにチェックを入れます（次の科目を検索するか登録科目一覧に戻ると選択中となります）。※この作業を繰り返します。

③科目申請

- 選択中の科目を[科目申請]ボタンをクリックして申請します。

科目申請

申請内容確認

申請中

エラー

- エラーの場合、エラー内容を確認してエラーを解消します。

抽選/登録チェック

- 抽選／登録チェックは大学の行う作業です。

科目取消

- 登録科目一覧画面から[科目取消]ボタンをクリックします。

確認

- 取消可能な科目の一覧が表示されますので「取り消す科目の」取消チェックボックスにチェックを入れて[取消]ボタンをクリックします。

- 申請中となった科目は申請が完了しています。登録結果発表で抽選結果を確認します。

- 申請時のチェックで判定を行わない履修規定については、その登録結果発表にて併せて発表されます。

登録結果発表

決定
登録完了♪

選外・不可
次の登録へ

2. Web 科目登録画面説明

Web 科目登録は、すべてこの画面（ログイン後、メニューから科目登録を選択した状態）から行います。

(1) 履修申請は[登録科目一覧]（この画面）を中心に4つの画面で構成されます。登録科目一覧では現在の科目の状態を常に確認してください。

(2) 履修希望科目は[科目検索]ボタンにより科目検索画面で検索のうえ選択します。検索～選択の作業が終了したら登録科目一覧に戻り[科目申請]ボタンで申請を確定してください。

(3) 一部の科目は登録の取り消しが可能です。取消可能科目は[科目取消]ボタンで確認できます。

(4) 一部の科目は科目区分の変更が可能です。変更可能科目は[発表後算入変更]ボタンで確認できます。

(5) [閉じる]ボタンで作業を終了する前に[印刷]ボタンでこの画面を印刷して保管してください。

印刷

(4)

(1) 所属学部Web申請期間

春学期1次登録 2013年3月30日 10:00～2013年4月2日 17:00

申請期間詳細情報

(3) 科目検索

科目申請

科目取消

発表後算入変更

登録科目一覧

備考に「¥」マークのある科目は聴講料等の支払対象、[関連URL]ボタンは関連するWebサイトへのリンク、[入力有]ボタンは追加で登録する情報の申請画面へのリンクを表しています。科目名をクリックするとシラバス情報が表示されます。

登録算入単位 28 通年 0 春学期 22 秋学期 6

学期	曜日	時間	開講学部	備考	科目名	担当教員	キャンパス	教室名	科目区分	単位	状態/希望順位
春学期	月	3時限	政経		政治学基礎 03	谷藤 悦史	早稲田	15-202	専門・関連・政治	2	申請中
春学期	水	2時限	政経		ゲーム理論入門 03	船木 由喜彦	早稲田	15-401	基礎・入門:必修以外	2	申請中
春学期	金	4時限	政経		比較宗教学a 01	鎌田 東二	早稲田	15-201	隣接・文化・歴史	2	申請中
春学期	土	3時限	政経		計量分析 01	松村 幸輝	早稲田	4-307(PC室)	専門・基礎:必修以外	2	申請中
春学期	月	1時限	政経		経済学入門A 03	長江 亮	早稲田	8-B101	基礎・入門:必修	2	決定
春学期	月	2時限	政経		解析学入門 01	西原 健二	早稲田	1-301	基礎・数学:必修	4	決定

(1) 申請期間表示

科目により申請締切日が異なります。科目群ごとの申請期間を確認してください。

(2) 登録科目一覧

現在の科目登録の状態を科目ごとに表示します。備考欄に「¥」マークの表示される科目は聴講料等の納入が必要です（期限までに納入しない場合、申請科目の登録が取り消されます）。

(3) 各機能ボタン

〔科目検索〕〔科目申請〕〔科目取消〕の各機能ボタンが用意されています。

① 〔科目検索〕

〔科目検索〕ボタンを押すと「科目検索画面」に遷移します。「科目検索画面」では、申請しようとする科目の開講箇所を指定して〔確定〕ボタンを押し、科目群を選択します。検索条件には必ず1項目以上を入力します。〔科目検索〕ボタンを押すと申請可能な科目のリストを表示します（履修できない科目はあらかじめ検索対象から除かれます）。

② 〔科目申請〕

〔科目申請〕ボタンを押すと、選択中の科目の申請を確定するための確認画面が表示されます。

③ 〔科目取消〕

〔科目取消〕ボタンを押すと、科目取消を確定するための確認画面が表示されます。取り消すことができるのは、選択中、申請中の科目が対象です。

※学部によっては限られた期間内で登録決定科目を取り消すことができます。

(4) 印刷ボタン

使用中のPCがプリンターに接続している場合、このボタンを押すことで画面イメージを印刷することができます。申請科目の保管に利用してください。

3. Web 科目登録利用手順

1

成績照会・科目登録
専用メニュー

<https://my.waseda.jp/>

上記のURLにアクセスし、
＜成績照会・科目登録専用＞を選択し
ます。

- 専用メニューは MyWaseda ログイン画面の左下にあります
- 科目登録期間中は専用メニュー
を利用してください。

成績照会・科目登録専用



2

ログイン

Waseda メールアドレス、パスワード
を入力して [Login] ボタンをクリッ
クします。

WASEDA University

サインイン

Wasedaメールアドレス

アカウントにアクセスできない場合

次へ

【重要】2021年8月21日より、ログイン画面に加えて、**ログイン時のIDがWasedaメールアドレスに変更**されましたので
ご注意ください。詳細はこちらをご参照ください。ログインでき
ない場合（パスワードを忘れた、等）はこちら、初回ログイン
の方ははこちらをご参照ください。

WASEDA University

← XXXXXXX@waseda.jp

パスワードの入力

パスワード

パスワードを忘れた場合

サインイン

【重要】2021年8月21日より、ログイン画面に加えて、**ログイン時のIDがWasedaメールアドレスに変更**されましたので
ご注意ください。詳細はこちらをご参照ください。ログインでき
ない場合（パスワードを忘れた、等）はこちら、初回ログイン
の方ははこちらをご参照ください。

3

成績照会・科目登録
専用メニュー

ログインすると「成績照会・科目登
録専用メニュー」が表示されます。
＜科目登録＞のリンクをクリックし
ます。

○履修申請に関する問い合わせを行
う場合には、「お問い合わせフォー
ム」ボタンをクリックし、必要事
項を記入し送信してください。

成績照会・科目登録専用メニュー

《成績照会・科目登録専用メニュー》

- ▶ **科目登録**
- ▶ 成績照会
- ▶ Waseda-netメール

※学部等によって締め切り日が異なります。科目登録関連情報にてご確認ください。

■ ガイド

- 科目登録日程（締切日時）や利用方法を確認したい
- 曜日・時限などが講義要項と異なる（変更情報）
- よくある質問を確認したい
- その他、Web科目登録について質問したい

科目登録関連情報

Web科目登録対応履歴

FAQ

お問い合わせフォーム

4

登録科目一覧

科目登録をクリックすると「登録科目一覧画面」が表示されます。自動登録科目など、登録済科目の状態や時間割を確認します。

- 登録算入単位数で卒業単位に算入される登録済科目の合計単位数がわかります。制限単位数と比較しながら申請してください（登録算入単位数は、通年・春学期・秋学期の合計となります）。

(1) 希望申請は「登録科目一覧」の画面を中心に4つの画面で構成されます。登録科目一覧では現在の科目の状態を常に確認してください。
 (2) 履修希望科目は「科目検索」ボタンにより科目検索画面で検索のうえ選択します。検索～選択の作業が終了したら登録科目一覧に戻り「科目申請」ボタンで申請を確定してください。
 (3) 一部の科目は登録の取り消しが可能です。取消可能科目は「科目取消」ボタンで確認できます。
 (4) 一部の科目は科目区分の変更が可能です。変更可能科目は「発表後算入変更」ボタンで確認できます。
 (5) 閉じるボタンで作業を終了する際に「印刷」ボタンでこの画面を印刷して保管してください。

所属学部Web申請期間 2013年3月30日 10:00～2013年4月2日 17:00 申請期間詳細情報

科目検索 科目申請 科目取消 発表後算入変更

登録科目一覧

学期	曜日	時間	科目名	担当教員	キャンパス	教室名	科目単位数	単位	履修/希望単位
春学期	月	3時限	経済学基礎Ⅱ	谷崎 悦史	早稲田	15-202	専門・関連・経済	2	申請中
春学期	水	2時限	ゲーム理論入門Ⅱ	鈴木 由喜恵	早稲田	15-401	基礎・入門・必修以外	2	申請中

5

科目検索

登録希望科目を検索します。

- 学部を選択し「確定」ボタンを押します。
- 次に科目群の中から登録を希望する科目の科目群を選択します。
- 検索条件を1項目以上を入力して「科目検索」ボタンを押します。
- 希望の科目が見つからない場合は検索条件を再度確認し、検索条件を例えば学期のみにするなど極力減らして検索してください。

1. 科目の所属学部を選択して「確定」ボタンを押してください。

2. 科目群を選択してください。

3. 検索条件(1項目以上)を指定して「科目検索」ボタンを押してください。

科目名

学部

曜日

時限

科目検索

いろいろな検索方法

▼科目名

部分一致検索です。

▼曜日・時限

プルダウンメニューで学期・曜日・時限を指定して検索することができます。

6

科目の選択

科目を選択するには、検索結果から科目名の左側にある選択チェックボックスにチェックを入れます。

複数の科目を同時に選択することができます。

選択チェックボックスにチェックが入っている状態で検索を終了して一覧へ戻るをクリックするか次の科目を検索します。選択した科目は登録科目一覧で、[選択中]と表示されます。

2013-04-01 14:03:28

2013年3月30日 10:00～2013年4月2日 17:00

検索を終了して一覧へ戻る

選択 学期

春学期

7

科目申請

選択が終了すると一覧画面に戻り、選択した科目の状態は「選択中」となっています。

「選択中」の科目は「科目申請」ボタンを押して申請を確定します。

○ 科目検索を繰り返して複数の科目を同時に申請することもできます。

○「選択中」の科目がある場合は、「[選択中]の科目があります。[科目申請]ボタンで科目を申請してください。」というメッセージが表示されます。

学期	曜日	時間	開講学部	備考	科目名	担当教員	キャンパス	教室名	科目区分	単位	状態
春学期	月	1時限	政経		経済学入門 02	井上 淳	早稲田	1-301	基礎・数学:必修	4	選択中
春学期	月	3時限	政経		政治学基礎 03	谷藤 悦史	早稲田	15-202	専門・関連・政治	2	申請中

8

申請の確認

「OK」ボタンをクリックすると申請時登録チェックが行われ、科目の履修可否が判定されます。

○ エラーがない場合は状態が「選択中」から「申請中」に変わります。

○ エラーが発生するとエラーメッセージが表示されますので、エラーの原因となった科目を取り消して問題を解消し、あらためて「科目申請」ボタンを押してください。

学期	曜日	時間	開講学部	備考	科目名	担当教員	キャンパス	教室名	科目区分	単位	状態/希望順位
春学期	月	1時限	政経		経済学入門A 03	長江 亮	早稲田	8-B101	基礎・入門:必修	2	選択中

9

科目取消

登録期間中は「申請中」「選択中」の科目を取り消すことができます。科目を取り消すには「科目取消」ボタンをクリックします。

※登録決定科目の取り消し

一部の科目で登録決定科目の取り消しを限られた期間内に行うことが可能です。一度取り消すと登録データが消えてしまい、**再度登録決定に戻すことはできません**ので、十分注意してください。

学期	曜日	時間	開講学部	備考	科目名	担当教員	キャンパス	教室名	科目区分	単位	状態/希望順位
春学期	月	1時限	政経		経済学入門 02	井上 淳	早稲田	1-301	基礎・数学:必修	4	選択中:既得済
春学期	月	3時限	政経		政治学基礎				専門・関連・政治	2	登録済エラー

単位 状態/希望順位

4 選択中:既得済・登録済エラー

10 取消の確認

取り消し可能な科目の一覧が表示されますので、取り消したい科目のチェックボックスにチェックを入れて「取消」ボタンを押してください。

○取消ボタンを押すと確認のメッセージが表示されます。

さんの履修登録です。 2013-04-01 17:18:12

取消可能な科目は下記の通りです。取り消しますか？
取り消さない場合は登録科目一覧画面へ戻ってください。

取消可能な科目一覧 **取消** 科目をチェックし「取消」ボタンを押すと科目が取消されます。 **取り消しせずに登録科目一覧へ戻る**

取消	学期	曜日	時限	開講学部	備考	科目名	担当教員	キャンパス	教室名	科目区分	単位	状態/希望順位
☒	春学期	月	1時限	政経		経済学入門A 03	長江 亮	早稲田	8-B101	基礎・入門:必修	2	選択中:既得済・登録済エラー

11 登録一覧画面の印刷

もし利用中の PC にプリンターが接続されていたら、申請作業が終了した時点で登録科目一覧画面を印刷して保管してください。

- 科目の状態が「申請中」となっている科目が申請の確定した科目です。「選択中」の科目は画面を閉じると情報が破棄されてしまいますので「科目申請」ボタンで申請を確定してください。
- プリンターが接続されていない場合は、申請した科目の状態をメモに残して保管しましょう。

(1)履修申請は[登録科目一覧]のこの画面を中心として4つの画面で構成されます。登録科目一覧では現在の科目の状態を常に確認してください。
(2)履修希望科目は[科目検索]ボタンにより科目検索画面で検索のうえ選択します。検索～選択の作業が終了したら登録科目一覧に戻り[科目申請]ボタンで申請を確定してください。
(3)一部の科目は登録の取り消しが可能です。取消可能な科目は[科目取消]ボタンで確認できます。
(4)一部の科目は科目区分の変更が可能です。変更可能な科目は[発表後変更]ボタンで確認できます。
(5)印刷するボタンで作業を終了する際に[印刷]ボタンでこの画面を印刷して保管してください。

■所属学部Web申請期間 2013年3月30日 10:00～2013年4月2日 17:00 申請別詳細情報

科目検索

科目申請

科目取消

発表後変更

登録科目一覧	科目名	科目区分	単位	状態/希望順位
春学期 月 1時限 政経	経済学入門A 03	基礎・入門:必修	2	申請中
春学期 水 2時限 政経	ゲーム理論入門 03	基礎・入門:必修以外	2	申請中

登録科目一覧画面上、科目の状態は、次のとおり遷移します。

状 態	説 明	状 態	説 明
選択中	科目検索－〔選択〕後の状態。このまま作業を終了すると選択は無効となります。取消可。	不可	〔選択〕〔申請〕後、履修上の問題があり申請が許可されなかった科目。(発表期間中の表示)
申請中	〔申請〕ボタンにより申請の許可された科目。取消可。	処理中	申請期間が終了し処理中の状態。取消不可。 (申請期間終了後、発表開始前までの表示)
決定	履修の決定した科目。取消不可。(発表開始後の表示)	選外	履修希望者が定員を超えていたため無作為抽選が行われ抽選に外れ、履修の許可されなかった科目。(発表期間中の表示)

※表示件数の制限について

条件を入力し、科目の検索を行う際に検索結果が100件より多い場合には、検索結果表示欄にエラーメッセージが表示されます。このメッセージが表示された場合は、曜日、時限、科目名の先頭の数文字など、検索条件を追加してから、再度検索を行ってください。

いろいろな申請方法

希望順位登録：希望順位登録とは、抽選が行われる可能性が高い科目を同時に複数申請できる登録方法です。希望順位を選択できる科目群は、希望順位選択のプルダウンメニューが表示されます。希望順位を選択する場合は、必ず第1希望から順に選択してください。例えば、第2希望のみを選択した場合、抽選は第1希望者の後に行われますので、科目を登録できる可能性は極端に低くなります。

科目区分変更：検索結果一覧に表示される「科目区分」の欄がプルダウンメニューで選択可能になっている場合は、科目区分を変更して申請することができます。例えば登録制限単位数オーバーエラーになった科目を一度取り消し、科目区分を制限単位数に算入されない科目区分に変更してあらためて申請することにより、申請が受け付けられる場合があります。

科目区分	単位	希望順位
選外・他箇所	2	General Tutorial English(希望順位入力) 1
選外・他箇所	2	Ge 1 Tu 2 En 3 希望順位入力 1

科目区分	単位
基礎・社会	4
基礎・社会	
基礎・超過履修	

● 他箇所設置科目を申請してみましょう。

学部を変更し[確定]ボタンをクリックします。
次に科目群の中から登録を希望する科目の科目群を指定します。自学部の科目登録と同じ要領で科目を検索し、選択後、科目申請ボタンを押して申請します。

1. 学部の選択
グローバル

2. 科目群の選択
所定外科目

● 登録結果を確認しましょう。

各登録の発表日時になると、申請した科目の登録結果が発表されます。登録が認められた科目は「決定」、抽選の結果、登録できなかった科目については「選外」、登録エラーのため登録できなかった科目については「不可」がそれぞれ表示されます。

科目区分	単位	状態/希望順位
基礎・社会	4	申請中
基礎・社会	4	申請中
基礎・人文	2	選外
必修・英語 I	2	決定 英語 I (必修) ~ 3/25 / 2

4. Web 科目登録上の注意事項

申請科目のチェック機能について

Web 科目登録では、科目申請時に以下のチェックが行われエラー情報を表示します。

[主な登録エラー]

エラー名称	エラー内容	解消方法
既登録エラー	既に登録されている科目を申請している	申請できないため科目取消する
希望順位重複エラー	希望順位を指定する場合に既に同一の希望順位で科目を申請している	同一希望順位の科目についていずれかを科目取消する
曜日時限重複エラー	既に申請・登録されている科目と曜日時限が重複する科目を申請している	いずれかの科目を取消する
前提条件エラー	履修の前提となる条件を満たしていない	申請できないため科目取消する
遠距離エラー	休み時間内で移動できないキャンパスの科目を申請している	いずれかの科目を取消する
制限単位数エラー	登録可能な単位数の上限を超えて申請している	いずれかの科目を取消するか、修正せずに申請を行う (※)

この他にも履修規則上のエラーがあります。内容がわからない場合は、「科目登録関連冊子」などを参照して問題を解決してください。

※制限単位数エラーは修正しなくても申請可能です。但し、エラーのまま申請を行った場合は、登録結果発表時に無作為に選ばれた科目がエラーとなるため注意してください。

5. その他の機能

● 関連ページへのリンク

科目検索画面の備考欄に「関連 URL」ボタンが表示される科目は、関連するホームページへのリンクが設定されています。必要な情報が記載されていますので、必ずクリックして確認ください。

備考	科目名
関連URL	EU/欧州統合研究入門

● 志望理由等の入力が必要な科目

科目検索画面の備考欄に「入力有」が表示される科目は、別画面から「申請フォーム」を呼び出し、志望理由などの内容を入力する必要がある科目です。

※申請フォームは 120 分間操作がないとセッションが切れ、再度呼び出す必要がありますのでご注意ください。

備考	科目名
入力有	EU/欧州統合研究入門

● 聴講料等が必要な科目

科目検索画面の備考欄に「¥(要聴講料等)」が表示される科目は、聴講料等が必要な科目です。

備考	科目名
¥(要聴講料等) 関連URL	General Tutorial English (初級) 37 (早稲田)

● Web シラバスの参照

科目選択画面で科目名をクリックすると、該当科目の Web シラバスを参照することが可能です。

科目名	担当教員
学際研究入門(現代福祉)	久塚 純一

6. エラー表示について

● サービスを提供することができない場合

以下のメッセージが表示された場合は、[お問い合わせフォーム]ボタンを押し、必要事項を記載の上、問い合わせを行ってください。

早稲田大学事務サービス

Welcomeback [] さん

学生向けサービス

サービスを提供することができませんでした。

2014-01-27 17:26:32
エラーコード:1122-03.5

このエラーに関するお問い合わせはフォームから必要事項を記載し、送信してください。

お問い合わせフォーム

※内容によっては、返信メールに時間がかかる場合があります。

● 操作を受け付けることができない場合

全てのブラウザを閉じて、「成績照会・科目登録専用ログイン」からログインしてご利用ください。

早稲田大学事務サービス

Welcomeback [] さん

学生向けサービス

操作を受け付けることができません。

次の原因が考えられます。

※初期ログイン ID でログインしている。

※「成績照会・科目登録専用メニュー」から「科目登録」を選択していない。

※「成績照会・科目登録専用メニュー」から「科目登録」を選択した後、長時間操作していない。

※初期ログイン ID でログインしている場合は、Waseda ID 取得後にご利用ください。

※「科目登録」は必ず「成績照会・科目登録専用メニュー」から「科目登録」を選択してください。

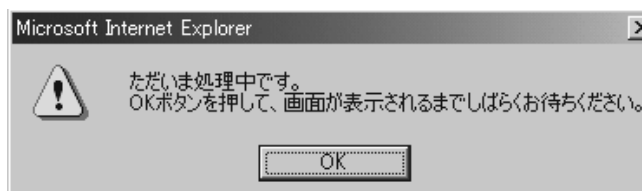
● メンテナンス中の場合

Web 科目登録システムはシステム最適化作業のため、毎日、メンテナンス時間を設けています（2:00AM～7:00AM）。メンテナンス中の場合、以下のメッセージが表示されます。



● 同じボタンを続けて複数回押してしまった場合

[OK] ボタンを押して、処理が終了するまでお待ちください。



7. 推奨環境について

Web 科目登録の推奨環境は下記のウェブサイトをご確認ください。

http://www.waseda.jp/navi/services/system/sys_requirements.html

以上

Ⅲ. 学科目配当表

◆時間割について

本冊子に掲載されている時間割は、2025 年 1 月末時点での情報で、変更の可能性があります。
変更が生じた場合には、社会科学部 Web サイトにてお知らせいたします。

◆Web シラバス

早稲田大学の全科目の講義内容については、Web シラバスで確認ができます。
(早稲田大学 Web サイト TOP → (右上) データ集 → シラバス検索)

URL: <https://www.wsl.waseda.jp/syllabus/JAA101.php>

寄附講座・提携講座・協力講座の開設について

早稲田大学（以下、大学と表記します）では、教育研究の質的向上・発展に寄与することを目的として学術研究提携等を行っています。

その際、大学の主体性と独自性を堅持するため、次の「ガイドライン」を制定しています。

1. 学問の自由および独立を守ること。
2. 世界の平和および人類の福祉に貢献する研究を行うものとし、軍事研究および軍事開発は行わないこと。
3. 本大学における研究活動の発展および教育の向上に寄与すること。
4. 研究成果の公表を禁止された秘密研究は行わないこと。ただし、研究成果の公表時期に関する研究委託者または共同研究者との信頼関係に基づく合理的制約は、この限りでない。
5. 社会的に公正であること。
6. 関連資料を開示の上、民主的な手続きに基づき、提携等に関する意思決定を行うこと。

また、このガイドラインを正しく運用していくため、大学は、「学術研究提携等審査委員会」を設置して、個々の提携等を審査しています。

以下の寄附講座・提携講座・協力講座は、このような学術研究提携等の一環として上記の審査を経て設置されたものです。

以下の科目は全国共済農業協同組合連合の協力に基づいて開設されています。

区分	科目名	教員氏名
提携講座	農と SDGs（研究と実践のために） A	早田 宰 落合 基継 加藤 基樹
提携講座	農と SDGs（研究と実践のために） B	早田 宰 落合 基継 加藤 基樹
寄附講座	JA 共済寄附講座 SDGs 未来都市に学ぶ 1	早田 宰 加藤 基樹 神林 邦明 益子 智之
寄附講座	JA 共済寄附講座 SDGs 未来都市に学ぶ 2	早田 宰 加藤 基樹 神林 邦明 益子 智之

以下の科目はイオン環境財団の協力に基づいて開設されています。

区分	科目名	教員氏名
寄附講座	イオン環境財団寄附講座 サステイナブルコミュニティ論	早田 宰 黒川 哲志 益子 智之 岡田 久典 中野 健太郎

以下の科目は財団法人ハクボン奨学会の協力に基づいて開設されています。

区分	科目名	教員氏名
提携講座	社会科学総合研究（ユーラシア共同体と東アジア）	弦間 正彦 李 愛俐娥

以下の科目はエコ・ファースト推進協議会の協力に基づいて開設されています。

区分	科目名	教員氏名
提携講座	持続可能社会実現への企業の貢献：エコ・ファースト企業の取り組み	棟居 徳子 黒川 哲志 長島 祐基 劉 雨迪

Ⅲ. 学科目配当表

学科目配当表

初年次教育 - ラーニング・コミュニティ

配当 年次	単位	科目名	クラス	教員氏名	学期	曜日時限
1年～	1	ラーニング・コミュニティ	Y		休講	
			Z	笠島 洋一	秋ク	水5

コア科目 - 共通入門群

配当 年次	単位	科目名	クラス	教員氏名	学期	曜日時限
1年～	1	統計リテラシー ※2021年度以降入学者のみ	Q1	小林 学、他	春ク	フルOD
			Q2		夏ク	フルOD
			Q3		秋ク	フルOD
			Q4		冬ク	フルOD
		統計リテラシーδ ※2021年度以降入学者のみ	Q1	野村 亮、他	春ク	フルOD
			Q2		夏ク	フルOD
			Q3		秋ク	フルOD
			Q4		冬ク	フルOD
	2	社会科学の基礎	A	吉田 敬	春	月2
			B	吉田 敬	秋	月2
		社会調査の基礎	A	開沼 泰隆	春	月1
			B	北川 由紀彦	秋	金3
		ゲーム理論の基礎	A	戸田 学	春	木1
			B	戸田 学	秋	木1
		政治分析の基礎	A	遠藤 晶久	春	フルOD
			B	遠藤 晶久	秋	フルOD
	4	社会科学のための基礎コンピュータ	A	阿部 圭司	春	金1
						金2
			B	開沼 泰隆	秋	月1
						月2
			C	根岸 亮平	秋	月1
						月2
			D		休講	
			E	佐藤 公俊	春	フルOD
			F		休講	

コア科目 - 専門入門群

配当 年次	単位	科目名	クラス	教員氏名	学期	曜日時限
1年～	2	マーケティング入門	A	野口 智雄	春	フルOD
			B	野口 智雄	秋	フルOD
		社会学入門	A	釜野 さおり	春	火1
			B	周藤 真也	春	金1
			C	浜本 篤史	春	水1
		政治学入門	A	厚見 恵一郎	春	水2
				稲生 信男		
				安中 進		
		国際関係論入門	B	厚見 恵一郎	春	フルOD
				稲生 信男		
				安中 進		
			A	奥迫 元	春	フルOD
				堀 芳枝		
				宮下 大夢		
		経済学入門 1〔ミクロ経済学〕	B	奥迫 元	秋	フルOD
				堀 芳枝		
				宮下 大夢		
		経済学入門 2〔マクロ経済学〕	A	北村 能寛	春	フルOD
			B	藍津 明由	春	月2
		経営学入門	A	A 及川 浩希	秋	フルOD
				B 藍津 明由	秋	フルOD
			B	葛山 康典	春	火2
				小阪 玄次郎		
		会計学入門	B	須子 統太	春	木2
				中島 健一		
			A	葛山 康典	春	木4
				小阪 玄次郎		
		法学入門	—	須子 統太	春	フルOD
				仲道 祐樹		
		総合知入門	—	塚林 美弥子	秋ク	フルOD
				吉田 和夫		
			—	早田 寧		
				山田 寛邦		

学科目配当表

Ⅲ. 学科目配当表

基礎専門科目 - 社会科学総合分野

配当 年次	単位	科目名	クラス	教員氏名	学期	曜日時限
1年～	1	フィールドへの招待	—	周藤 真也	秋学期 集中	—
				落合 基雄		
				佐藤 洋一		
				早田 幸		
				益子 智之		
	2	バイオエシックス	—	横野 恵	春	木1
		社会調査法 1	A	開沼 泰隆	春	月2
			B	小山 泰代	秋	火5
		社会統計の読み方	—	釜野 さおり	秋	火1
		心理学概論	—	阿部 哲理	秋	火3
		比較経済史 1	—	君塚 弘恭	春	フルOD
		比較経済史 2	—	君塚 弘恭	秋	フルOD
		社会科学方法論	A	吉田 敬	春	月3
			B	吉田 敬	秋	水3
		近代経済社会思想史 1	—	寺尾 範野	春	木2
		近代経済社会思想史 2	—	寺尾 範野	秋	木2
		健康と人権	—	横居 徳子	春	水5
		持続可能な開発のための社会科学	A	本間 まり子	春	水3
			B	本間 まり子	秋	水3
		開発社会論	—	浜本 篤史	夏ク	その他
		ジェンダーの社会学 1	—	釜野 さおり	春	月4
		社会学原論 1〔歴史と理論〕	—	周藤 真也	秋学期集中	その他
		社会心理学	—	高林 久美子	秋	水2
		ディーセント・ワーク 1	—		隔年休講	
		ディーセント・ワーク 2	—		隔年休講	
		政策科学 1〔政策過程の諸モデル〕	—		休講	
		現代家族論 1	—		休講	
		現代家族論 2	—		休講	
		社会意識論	—		休講	
2年～	2	社会調査法 2	—	周藤 真也	春	フルOD
		組織行動論	—	鄭 有希	冬ク	水2
						水3
		組織イノベーション 1	—	好川 透	春	火3
		組織イノベーション 2	—	好川 透	秋	火3
		社会学原論 2〔現代社会への応用〕	—	周藤 真也	春	水3
		社会イノベーション	—	小山 淑子	秋	金3
		持続可能社会実現への企業の貢献：エコ・ファースト企業の取り組み	—	横居 徳子	秋	火3
				黒川 哲志		
				長島 祐基		
				劉 雨迪		

基礎専門科目 - 政治学分野

配当 年次	単位	科目名	クラス	教員氏名	学期	曜日時限
1年～	2	政治分析	A	浅野 正彦	春	火4
			B		休講	
		日本政治史Ⅰ	—	大西 比呂志	春	水3
		日本政治史Ⅱ	—	大西 比呂志	秋	水3
		日本近代政治史Ⅰ	—	星原 大輔	春	月3
		日本近代政治史Ⅱ	—	星原 大輔	秋	月3
		国際関係論	—	栗迫 元	秋	火2
		平和学Ⅰ	—	堀 芳枝	春	火3
		選挙制度論	—		休講	
		外国政治史Ⅰ	—		休講	
		外国政治史Ⅱ	—		休講	
	2	現代政治制度論(イタリア)	—	池谷 知明	秋	水3
		現代政治制度論(ドイツ)	—	高見 仁	秋	土3
		現代政治制度論(イギリス)	—	秋本 富雄	春	木4
		現代政治制度論(スペイン)	—	野上 和裕	春	月2
		現代政治制度論(フランス)	—		休講	
2年～	2	現代政治制度論(アメリカ合衆国)	—		休講	
		政治学Ⅰ	—	厚見 恵一郎	春	水5
		政治学Ⅱ	—	厚見 恵一郎	秋	水5
		行政学Ⅰ	—	稲生 信男	春	金3
		比較政治制度論Ⅰ	—	池谷 知明	春	火4
		比較政治制度論Ⅱ	—	池谷 知明	秋	火4
		地域自治論Ⅰ	—	稲生 信男	春	火2
		地域自治論Ⅱ	—	稲生 信男	秋	火2
		政治学原論Ⅰ	—	池谷 知明	春	火3
		政治学原論Ⅱ	—	池谷 知明	秋	火3

基礎専門科目 - 法学分野

配当 年次	単位	科目名	クラス	教員氏名	学期	曜日時限
1年～	2	医事法	—	横野 恵	秋	木1
		憲法Ⅰ	A	阪口 正二郎	春	火2
			B	阪口 正二郎	秋	火2
		会社法Ⅰ〔会社のガバナンス〕	—	川島 いづみ	春	月3
		会社法Ⅱ〔会社のファイナンス〕	—	川島 いづみ	秋	月3
		刑法総論Ⅰ〔犯罪論の基本構造〕	—	仲道 祐樹	秋	月4
		国際法Ⅰ	—	福永 有夏	春	水3
		国際経済法Ⅰ	—	福永 有夏	秋	水3
		行政法Ⅰ〔行政法概論〕	—	吉岡 郁美	秋ク	火1
						火2
		行政法Ⅱ〔行政組織・手続等〕	—	吉岡 郁美	冬ク	火2
2年～	2	憲法Ⅱ	—	阪口 正二郎	春	フルOD
		民法Ⅰ〔総則〕	—	大木 満	秋	金1
		民法Ⅱ〔物権〕	—	大木 満	秋	金2
		民法Ⅲ〔債権総論〕	—	吉田 和夫	秋	フルOD
		民法Ⅳ〔債権各論〕	—	吉田 和夫	春	火4
		民法Ⅴ〔親族〕	—	北田 真理	春	フルOD
		民法Ⅵ〔相続〕	—	北田 真理	秋	フルOD
		刑法総論Ⅱ〔犯罪の諸形態〕	—	仲道 祐樹	春	月4
		雇用関係法Ⅰ	—	鈴木 俊晴	春	金4
		雇用関係法Ⅱ	—	滝原 啓允	秋	金5
		刑法各論Ⅰ〔個人、社会、国家に対する罪〕	—	芥川 正洋	春	フルOD
		行政法	—		休講	

Ⅲ. 学科目配当表

学科目配当表

基礎専門科目 - 経済学分野

配当 年次	単位	科目名	クラス	教員氏名	学期	曜日時限
1年～	2	経済数学 1	—	戸田 学	春	火3
		経済数学 2	—	戸田 学	秋	火3
		社会科学のための回帰分析 1 〔回帰分析の基礎、クロスセクションデータの 分析〕	—	荒井 洋一	春ク	水2
		社会科学のための回帰分析 2 〔時系列データ、パネルデータの分析〕	—	荒井 洋一	夏ク	OD
						水2
2年～	2	ミクロ経済学Ⅰ	—	戸田 学	春	火1
		ミクロ経済学Ⅱ	—	戸田 学	秋	火1
		産業構造論	—	鷲津 明由	春	水2
		実証経済学	—	王 在誌	春	金3
		公共経済論Ⅰ	—	笠島 洋一	春	金1
	4	公共経済論Ⅱ	—	笠島 洋一	秋	フルOD
		マクロ経済学	—	及川 浩希	春	木2
						OD

基礎専門科目 - 商学分野

配当 年次	単位	科目名	クラス	教員氏名	学期	曜日時限
1年～	2	情報化社会とワーキングスタイル	—	須子 統太	秋	火3
		現代ビジネス論	—	平井 裕久	秋	火2
		簿記	A	井上 慶太	春	木1
	4		B	菅野 浩勢	秋	木2
		経営のための経済学	—	土門 晃二	春	フルOD
						月4
						水5
2年～	2	情報科学論	—	中島 健一	春	金3
						金4
		国際貿易論 1	—	橋 徹	春	フルOD
		国際貿易論 2	—	橋 徹	秋	フルOD
		ビジネス・イングリッシュⅠ	—	藤尾 美佐	春	火4
		ビジネス・イングリッシュⅡ	—	藤尾 美佐	秋	火4
		産業心理学Ⅰ	—	重森 雅嘉	春	木2
		産業心理学Ⅱ	—	重森 雅嘉	秋	木2
		経営分析	—	矢内 一利	春	金3
	4	産業社会学Ⅰ	—	池田 心豪	春	金1
		産業社会学Ⅱ	—	池田 心豪	秋	金1
		会計学	—	菅野 浩勢	秋	火3
						火4
		経営学	—	小阪 玄次郎	春	月2
						火3
		証券論	—	葛山 康典	春	火4
	4					水4
		グローバル・サプライチェーン・マネジメント	—	中島 健一	秋	金3
						金4
		経営科学 1	—	須子 統太	秋	フルOD
		ビジネスのためのデータサイエンス	—	石田 崇	春	金3
						金4

基礎専門科目 - 自然科学分野

配当 年次	単位	科目名	クラス	教員氏名	学期	曜日時限
1年～	2	生態学 1	—	隔年休講		
		生態学 2	—	赤尾 健一	春	フルOD
		数学 1	—	高橋 一嘉	春	水3
		数学 2	—	高橋 一嘉	秋	水3
		自然地理学Ⅰ	—	小森 次郎	春	月3
		自然地理学Ⅱ	—	小森 次郎	秋	月3
		コミュニティデザイン	—	益子 智之	春ク	木1
						木2
		環境表現論Ⅰ	—	佐藤 洋一	春	水3
				瀬尾 夏美		
		社会・社会科学のなかの自然科学	—	中橋 涉	春	火2
		理論人類学 1	—	中橋 涉	春	火4
		理論人類学 2	—	中橋 涉	秋	火4
		環境科学概論	—	有賀 敏典	秋	火4
		科学技術・イノベーション概論	—	島岡 未菜子	春	木2
				丸山 浩平		
				岡村 麻子		
				斉藤 卓也		
				手嶋 達也		
				湯沢 友之		
				早田 幸		
		農とSDGs（研究と実践のために）	A	落合 基樹	春ク	月4 OD
				加藤 基樹		
			B	早田 幸	秋ク	月4 OD
		落合 基樹				
		加藤 基樹				
		イオン環境財団寄附講座 サステイナブルコミュニティ論	—	早田 幸	秋	金5
岡田 久典						
黒川 哲志						
中野 健太郎						
益子 智之						
JA共済寄附講座 SDGs未来都市に学ぶ 1	—	早田 幸	春	水5		
		加藤 基樹				
		神林 邦明				
		益子 智之				
JA共済寄附講座 SDGs未来都市に学ぶ 2	—	早田 幸	秋	水5		
		加藤 基樹				
		神林 邦明				
		益子 智之				
保全生物学	—	休講				

基礎専門科目 - 情報科学分野

配当 年次	単位	科目名	クラス	教員氏名	学期	曜日時限
1年～	2	地理情報システム論Ⅰ	—	大場 亨	春	土2
		地理情報システム論Ⅱ	—	大場 亨	秋	土2
	4	社会科学のための数学	—	葛山 康典	春	火3
						水3

学科目配当表

Ⅲ. 学科目配当表

基礎専門科目 - 人文科学分野

配当 年次	単位	科目名	クラス	教員氏名	学期	曜日時限
1年～	2	人文地理学	—	竹林 和彦	春	火4
		哲学総論	—	千葉 清史	秋	火5
		文化人類学 1	—	隔年休講		
		文化人類学 2	—	ベル 裕紀	春	火3
		東洋哲学 1	—	王 前	春	火4
		東洋哲学 2	—	王 前	秋	火4
		中国哲学 1	—	遠藤 純一郎	春	金5
		中国哲学 2	—	遠藤 純一郎	秋	金5
		倫理学 1	—	関口 浩	春	月5
		倫理学 2	—	関口 浩	秋	月5
		日本史概論 1	—	黒田 智	春	木2
		日本史概論 2	—	黒田 智	秋	木2
		外国史概論 1	—	日尾野 裕一	春	火5
		外国史概論 2	—	日尾野 裕一	秋	火5
		歴史学(日本史) 1	—	黒田 智	春	水3
		歴史学(日本史) 2	—	黒田 智	秋	水3
		歴史学(日中間関係史) 1	—	劉 傑	春	火3
		歴史学(日中間関係史) 2	—	劉 傑	秋	火3
		歴史学(アジア史) 1	—	松田 春香	春	金2
		歴史学(アジア史) 2	—	松田 春香	秋	木2
		歴史学(ヨーロッパ史) 1	—	古川 誠之	春	フルOD
		歴史学(ヨーロッパ史) 2	—	古川 誠之	秋	フルOD
		地誌	—	竹林 和彦	秋	火4
		漢字文化圏論 1	—	笹原 宏之	春	火5
		漢字文化圏論 2	—	笹原 宏之	秋	木2
		異文化コミュニケーション論	—	花光 里香	春	水3
		言語表現論 1	—	笹原 宏之	春	月3
		言語表現論 2	—	笹原 宏之	秋	月3
		日本研究 1	—	ル・ルー 清野 プレ ンダン	春	月3
		日本研究 2	—	ル・ルー 清野 プレ ンダン	秋	月3
		スペイン語文化圏論 1	—	寺尾 隆吉	春	火2
		スペイン語文化圏論 2	—	寺尾 隆吉	秋	火2
		英語圏の社会と文化 1	—	古川 敬明	春	火3
		英語圏の社会と文化 2	—	古川 敬明	秋	火3
		西洋哲学	—	千葉 清史	春	火5
		史料学(絵画史料論)	—	黒田 智	春	水5
		フランス語文化圏論 1	—	朝倉 三枝	春	火3
		フランス語文化圏論 2	—	朝倉 三枝	秋	火3
		日本文学 1	—	山崎 薫	春	月3
		日本文学 2	—	山崎 薫	春	水3
		歴史学概論	—	黒田 智	春	水2
			—	劉 傑		
			—	君塚 弘森		
2年～	2	日本文学 2	—	山崎 薫	秋	月3

基礎専門科目 - 専門英語

配当 年次	単位	科目名	クラス	教員氏名	学期	曜日時限
2年～	2	Examining Global Issues 1〔Social Problems in Contemporary Japan: Global Comparisons〕	—	冷 君暁	春	月3
		Examining Global Issues 2〔Major Themes and Events in Modern Japanese History〕	—	冷 君暁	秋	月3
		Exploring Cultures through Film 1	—	花光 里香	春	金2
		Exploring Cultures through Film 2	—	花光 里香	秋	金2
		Exploring Japanese Cultures through Film 1	—	花光 里香	春	金3
		Exploring Japanese Cultures through Film 2	—	花光 里香	秋	金3
		Diversity in Modern Japan 1	—	休講		
		Diversity in Modern Japan 2	—	長谷川 和美	秋	月4
		Ethnicity and Gender in Global Issues 1	—	長谷川 和美	春	月4
		Ethnicity and Gender in Global Issues 2	—	休講		
		Building Inclusive Societies 1	—	休講		
		Building Inclusive Societies 2	—	休講		
		Challenges and Opportunities in Multicultural Societies 1	—	休講		
		Challenges and Opportunities in Multicultural Societies 2	—	休講		
		Contemporary Global Issues A 1	—	休講		
		Contemporary Global Issues A 2	—	休講		
		Contemporary Global Issues B 1	—	休講		
		Contemporary Global Issues B 2	—	休講		
		Migrating People in Japan 1	—	休講		
		Migrating People in Japan 2	—	休講		

基礎専門科目 - グローバルラーニング

配当 年次	単位	科目名	クラス	教員氏名	学期	曜日時限
1年～	2	グローバルラーニング(ジェンダーと開発)	A	本間 まり子	春	火2
			B	本間 まり子	秋	火2
		グローバルラーニング(社会デザインのための地域研究)	A	清水 健太	春	木4
			B	清水 健太	秋	木4
		グローバルラーニング(社会科学のための記録・表現)	A	清水 健太	春	月4
			B	清水 健太	秋	月4
		グローバルラーニング(環境ガバナンス)	A	宮澤 尚里	春ク	月4 金4
			B	宮澤 尚里	秋ク	月4 金4
		グローバルラーニング(持続可能な開発)	A	宮澤 尚里	春ク	月3 金3
			B	宮澤 尚里	秋ク	月3 金3
		グローバルラーニング(科学技術と社会)	A	中山 敬太	春	木2
			B	中山 敬太	秋	木2
		グローバルラーニング(地球社会と未来政策)	A	中山 敬太	春	金3
			B	中山 敬太	秋	金3

Ⅲ. 学科目配当表

学科目配当表

先進専門科目 - 社会科学総合分野

配当 年次	単位	科目名	クラス	教員氏名	学期	曜日時限
2年～	2	ソーシャル・リサーチ(歴史と記憶)Ⅰ	—	周藤 真也	春	金2
		ソーシャル・リサーチ(ジェンダーとセクシュアリティ)Ⅰ	—	釜野 さおり	春	火2
		ソーシャル・リサーチ(まちづくり)Ⅰ	—	隔年休講		
		ソーシャル・リサーチ(開発・環境)Ⅰ	—	隔年休講		
		臨床心理学	—	阿部 哲理	春	金2
		商業史Ⅰ	—	君塚 弘泰	春	火3
		商業史Ⅱ	—	君塚 弘泰	秋	火3
		比較近代社会思想 1	—	寺尾 範野	春	金2
		比較近代社会思想 2	—	寺尾 範野	秋	金2
		社会保障の法と政策 1	—	横居 徳子	春	火4
		国際人権論 1	—	横居 徳子	春	水3
		国際人権論 2	—	横居 徳子	秋	水3
		環境社会学 1	—	浜本 篤史	春ク	水5 OD
		環境社会学 2	—	湯淺 陽一	秋	木3
		国際人的資源マネジメント 1	—	鄭 有希	秋	フルOD
		国際人的資源マネジメント 2	—	隔年休講		
		グローバルビジネス論 1	—	長谷川 信次	秋	水2
		グローバルビジネス論 2	—	長谷川 信次	秋	水3
		ジェンダーの社会学 2	—	釜野 さおり	秋	月4
		現代社会学の方法	—	周藤 真也	秋	金4
		文化の社会学	—	周藤 真也	秋	水3
		観光学	—	隔年休講		
		知識社会学	—	隔年休講		
		社会学の思想と理論	—	休講		
		政策科学 2(日本の政策過程)	—	休講		
	4	ソーシャル・リサーチ(歴史と記憶)Ⅱ	—	周藤 真也	夏秋	金2 その他
		ソーシャル・リサーチ(ジェンダーとセクシュアリティ)Ⅱ	—	釜野 さおり	夏秋	火2 その他
		ソーシャル・リサーチ(まちづくり)Ⅱ	—	隔年休講		
		ソーシャル・リサーチ(開発・環境)Ⅱ	—	隔年休講		
3年～	1	データ倫理	—	横野 恵	夏ク	水4
		EU地域研究Ⅰ	—	井上 淳	春	金3
		EU地域研究Ⅱ	—	井上 淳	秋	金3
	2	ヨーロッパ市民社会論 1	—	浪岡 新太郎	秋ク	月3 月4
		ヨーロッパ市民社会論 2	—	浪岡 新太郎	冬ク	月3 月4
		社会保障の法と政策 2	—	隔年休講		
			—			

先進専門科目 - 政治学分野

配当 年次	単位	科目名	クラス	教員氏名	学期	曜日時限
2年～	2	行政学Ⅱ	—	稲生 信男	秋	金3
		紛争解決論実習 1	—	堀 芳枝	秋学期集中	—
		紛争解決論実習 2	—	休講		
		紛争解決論実習 3	—	休講		
		現代選挙論 1	—	遠藤 晶久	春	火2
		現代選挙論 2	—	遠藤 晶久	秋	火2
		政治過程論 1	—	安中 進	春	金4
		政治過程論 2	—	安中 進	秋	金3
		平和学Ⅱ	—	堀 芳枝	秋	火3
		情報政治論	—	細貝 亮	春	水3
		現代政治分析論(イタリア)	—	池谷 知明	春	水3
		現代政治分析論(ドイツ)	—	高見 仁	春	土3
3年～	2	現代政治分析論(イギリス)	—	秋本 富雄	秋	木4
		現代政治分析論(スペイン)	—	野上 和裕	秋	月2
		現代政治分析論(アメリカ合衆国)	—	休講		
		国際政治理論	—	奥迫 元	春	水4
		太平洋地域海洋国家研究	—	奥迫 元	秋	水2
		比較政治学	A	河崎 健	春	水2
			B	河崎 健	秋	水2
		現代市民権理論	—	厚見 東一郎	秋	フルOD
		国会論	—	小林 英樹	春	金6
		比較議会論	—	秋本 富雄	秋	木5
		国際NGO協力論	—	山田 満	春	火3
		国際開発制度論	—	日野 類子	春ク	火2 火3
	4	立法過程論	—	秋本 富雄	春	木5
		平和構築論	—	山田 満	秋	火3
		政治行動論Ⅰ	—	浅野 正彦	春	フルOD
		政治行動論Ⅱ	—	浅野 正彦	秋	フルOD
		人間の安全保障論	—	阿部 和典	春	火5
		国際教育協力論	—	山崎 瑛莉	夏ク	火4 火5

先進専門科目 - 法学分野

配当 年次	単位	科目名	クラス	教員氏名	学期	曜日時限
2年～	2	労働市場法	—	渡原 啓允	秋	金4
		刑法各論 2(財産に対する罪)	—	仲道 祐樹	秋	月2
3年～	2	行政法 3(行政争訟)	—	休講		
		会社法 3(組織再編・M&A)	—	隔年休講		
		環境法 1(公害規制法)	—	黒川 哲志	夏ク	火4 金4 金4
		環境法 2(自然保護法)	—	黒川 哲志	秋ク	火4 フルOD
		法情報学	—	吉田 和夫	春	フルOD
		金融商品取引法 1 〔総論・流通市場規制等〕	—	川島 いづみ	春	金3
		金融商品取引法 2 〔発行市場規制・業者規制等〕	—	川島 いづみ	秋	金3
		国際法 2	—	福永 有夏	春	水2
		国際経済法 2	—	福永 有夏	秋	水2
		現代雇用社会の法と政策	—	渡原 啓允	秋	金3
		労働関係法	—	鈴木 俊晴	春	金5
		知的財産権法(著作権法)	—	今村 哲也	春	フルOD
	4	知的財産権法(特許法、商標法、不正競争防止法)	—	今村 哲也	秋	フルOD
		生命倫理と法 1(生命の始期に関わる諸問題)	—	横野 恵	春	火1
		生命倫理と法 2(生命の終期に関わる諸問題)	—	横野 恵	秋	火1
		企業活動と法実務 1	—	尾家 康介	春	火4
		企業活動と法実務 2	—	尾家 康介	秋	火4
		行政法 4(行政法各論)	—	休講		
		刑事政策	—	休講		
		犯罪学	—	休講		

先進専門科目 - 経済学分野

配当 年次	単位	科目名	クラス	教員氏名	学期	曜日時限
2年～	2	食料と農業の経済学 1(食料需給の決定 要因と食料問題・農業調整問題)	—	弦間 正彦	春	フルOD
		食料と農業の経済学 2 〔日本の経験と教訓〕	—	弦間 正彦	秋	フルOD
		金融経済論	—	大野 裕之	春	月1
		経済動学Ⅰ	—	篠塚 友一	春	フルOD
		経済動学Ⅱ	—	篠塚 友一	秋	フルOD
		国際金融論	—	北村 龍寛	秋	火3
		財政学	—	大野 裕之	秋	月1
		環境の産業連関分析	—	斎津 明由	秋	月2
		法と経済学Ⅱ	—	土門 晃二	春	月3
		制度設計の経済学Ⅰ	—	笠島 洋一	春	水2
		制度設計の経済学Ⅱ	—	笠島 洋一	秋	水2
		Mechanism Design	—	笠島 洋一	秋	木1
3年～	2	応用マクロ経済学	—	及川 浩希	春ク	月3 OD
		応用ミクロ経済学Ⅰ	—	篠塚 友一	春	フルOD
		応用ミクロ経済学Ⅱ	—	篠塚 友一	秋	フルOD
		応用計量経済学 〔計量経済学の進んだトピック〕	—	荒井 洋一	秋	水2
		法と経済学Ⅰ	—	土門 晃二	秋	月3 月4
		産業組織論	—	土門 晃二	秋	水5

学科目配当表

Ⅲ. 学科目配当表

先進専門科目 - 商学分野

配当 年次	単位	科目名	クラス	教員氏名	学期	曜日時限
1年～	2	会計情報論	A	中島 健一	休講	
			B		休講	
2年～	2	品質管理	—	中島 健一	春	金2
		国際経営論 1	—	休講		
		国際経営論 2	—	休講		
3年～	2	生産システム論	—	中島 健一	秋	金2
		金融データ解析 1	—	葛山 康典	春	火5
		金融データ解析 2	—	葛山 康典	秋	火4
		流通論 I	—	野口 智雄	春	フルOD
		流通論 II	—	野口 智雄	秋	フルOD
		人的資源管理論 I	—	上原 衛	春	金4
		人的資源管理論 II	—	上原 衛	秋	金4
		リスクマネジメントと保険 I	—	石坂 元一	春	木4
		リスクマネジメントと保険 II	—	石坂 元一	秋	木4
		ベンチャービジネス論 I	—	足代 訓史	春	金2
		ベンチャービジネス論 II	—	足代 訓史	秋	金2
		経営戦略 1	—	休講		
		経営戦略 2	—	休講		
	4	資金論 I	—	休講		
		資金論 II	—	休講		
		会計監査論	—	山崎 秀彦	春	月1 水1 水3
		原価計算	—	成岡 浩一	春	水4
		管理会計	—	齋藤 正章	春	木3 木4
		経営組織論	—	小阪 玄次郎	秋	月3 火2
		企業財務論	—	葛山 康典	秋	火3 水3
		経営科学 2	—	須子 統太	春	フルOD
		外部報告会計論	—	休講		
		経営管理論	—	休講		

先進専門科目 - 情報科学分野

配当 年次	単位	科目名	クラス	教員氏名	学期	曜日時限
3年～	2	情報システム	—	金子 勝一	春	月3
		マルチメディア	—	浮田 善文	秋	木5

先進専門科目 - 人文科学分野

配当 年次	単位	科目名	クラス	教員氏名	学期	曜日時限
1年～	2	日本環境文化史 1	—	隔年休講		
		日本環境文化史 2	—	黒田 智	秋	木2
2年～	2	公共文化論 1	—	隔年休講		
		公共文化論 2	—	菅 豊	夏季集中	—
		日本文化研究	—	山崎 薫	秋	水3
		応用倫理学	—	富田 純矢	秋	木5
3年～	2	中国研究 1	—	劉 傑	春	水3
		中国研究 2	—	劉 傑	秋	水3

先進専門科目 - 自然科学分野

配当 年次	単位	科目名	クラス	教員氏名	学期	曜日時限			
1年～	2	地域計画システム論Ⅰ	—	落合 基継	夏ク	月4 OD			
		地域計画システム論Ⅱ	—	落合 基継	冬ク	月4 OD			
		2年～	2	社会デザインの思考と技法 1〔他者と関わりを持つということ〕	—	佐藤 洋一	秋ク	火2	
落合 基継									
清水 健太									
瀬尾 夏美									
周藤 真也									
早田 幸									
益子 智之									
2	社会デザインの思考と技法 2〔フィールドでの技術〕		—	佐藤 洋一	冬ク	火2			
				落合 基継					
				早田 幸					
				益子 智之					
2	社会デザインの思考と技法 3〔社会言語としての写真・映像〕		—	佐藤 洋一	春ク	火2			
				磯崎 未葉					
				百武 ひろ子			春ク	火3	
		社会デザインの思考と技法 4〔参加のデザイン技術〕		—					百武 ひろ子
		社会デザインの思考と技法 5〔演劇実践と場の創造〕							—
社会デザインの思考と技法 5〔演劇実践と場の創造〕	—	小林 七緒	夏ク	火2					
都市復興デザイン論		—		益子 智之	秋ク	火3			
2	環境表現論Ⅱ	—	益子 智之	秋ク	木1 木2				
	隔年休講								
	4	ヴィジュアルイメージ研究	—	佐藤 洋一	秋	水3 水4			
3年～	2	人間行動と進化	—	秋山 英三	春	フルOD			
		イタリアの都市づくり	—	益子 智之	冬ク	木1 木2			

先進専門科目 - 外国語研究

配当 年次	単位	科目名	クラス	教員氏名	学期	曜日時限
2年～	2	英書研究	25-1	安中 進	春	木2
			25-2	安中 進	秋	木2
			25-3	中橋 渉	春	月3
		ドイツ語・地域研究演習 1	—	休講		
		ドイツ語・地域研究演習 2	—	休講		
		フランス語・地域研究演習 1	—	朝倉 三枝	春	火4
		フランス語・地域研究演習 2	—	朝倉 三枝	秋	火4
		中国語・地域研究演習 1	—	陳 璐	春	水4
		中国語・地域研究演習 2	—	陳 璐	秋	水4
		スペイン語・地域研究演習 1	—	寺尾 隆吉	春	水2
		スペイン語・地域研究演習 2	—	寺尾 隆吉	秋	水2

先進専門科目 - 社会科学特講

配当 年次	単位	科目名	クラス	教員氏名	学期	曜日時限
2年～	2	社会科学特講(社会デザインの基礎理論)	A	清水 健太	春	水2
			B	清水 健太	秋	水2
		社会科学特講(国際協力)	A	宮澤 尚里	春ク	月2 金2
			B	宮澤 尚里	秋ク	月2 金2
		社会科学特講(リスクと不確実性の法政策学)	A	中山 敬太	春	金4
			B	中山 敬太	秋	金4

Ⅲ. 学科目配当表

学科目配当表

社会科学総合研究

配当 年次	単位	科目名	クラス	教員氏名	学期	曜日時限
3年～	2	社会科学総合研究(女性と政治)	－	堀 芳枝	秋	月4
				秋本 富雄		
				安中 進		
		社会科学総合研究(世界遺産学)	－	周藤 真也	秋	土2
				小田島 理絵		
				川津 彩可		
		社会科学総合研究 (ロシア東欧現代経済) 1	－	佐藤 桂	春	フルOD
				弦間 正彦		
				池本 修一		
		社会科学総合研究 (ロシア東欧現代経済) 2	－	弦間 正彦	秋	フルOD
				池本 修一		
				池本 修一		
		社会科学総合研究(食の社会科学)	－	君塚 弘恭	春	金4
				柴田 恵美		
				柴田 恵美		
		社会科学総合研究 (ジェンダーとセクシュアリティ)	－	釜野 さおり	春	金4
				遠藤 晶久		
				神谷 悠一		
佐藤 洋一						
寺尾 範野						
堀江 有里						
社会科学総合研究 (ユーラシア共同体と東アジア)	－	本間 まり子	秋	月3		
		弦間 正彦				
		李 愛俐娥				
社会科学総合研究 (文化のバースペクティブ)	－	休講				

ゼミナール I

配当 年次	単位	科目名	教員氏名	学期	曜日時限
2年～	2	ゼミナールⅠ(中国研究／秋学期)	劉 傑	秋	火5
		ゼミナールⅠ(環境及び資源経済学研究／秋学期)	赤尾 健一	秋	月4
		ゼミナールⅠ(コミュニティ開発／秋学期)	早田 幸	秋	火4
		ゼミナールⅠ(現代社会学研究／秋学期)	周藤 真也	秋	水4
		ゼミナールⅠ(異文化コミュニケーション研究／秋学期)	花光 里香	秋	水3
		ゼミナールⅠ(メディアと言語の研究／秋学期)	笹原 宏之	秋	月4
		ゼミナールⅠ(政治思想研究／秋学期)	厚見 恵一郎	秋	火4
		ゼミナールⅠ(国際関係研究／秋学期)	奥迫 元	秋	火3
		ゼミナールⅠ(契約法研究／秋学期)	吉田 和夫	秋	火4
		ゼミナールⅠ(Study of Environmental Law／秋学期)	黒川 哲志	秋	水3
		ゼミナールⅠ(国際経済法研究／秋学期)	福永 有夏	秋	水4
		ゼミナールⅠ(医療と法／秋学期)	横野 恵	秋	水3
		ゼミナールⅠ(Economic Analysis of the World Economy／秋学期)	弦間 正彦	秋	月5
		ゼミナールⅠ(経済と環境の実証分析／秋学期)	賢達 明由	秋	水4
		ゼミナールⅠ(情報産業の経済分析／秋学期)	土門 晃二	秋	水3
		ゼミナールⅠ(ゲーム理論とその応用／秋学期)	戸田 学	秋	火4
		ゼミナールⅠ(多国籍企業の研究／秋学期)	長谷川 信次	秋	火4
		ゼミナールⅠ(企業財務論研究／秋学期)	葛山 康典	秋	水4
		ゼミナールⅠ(財務会計研究／秋学期)	菅野 浩勢	秋	金3
		ゼミナールⅠ(刑法研究／秋学期)	佐藤 祐樹	秋	火5
		ゼミナールⅠ(空間映像研究／秋学期)	佐藤 洋一	秋	火5
		ゼミナールⅠ(Study of International Financial Systems／秋学期)	北村 能寛	秋	水4
		ゼミナールⅠ(比較政治研究／秋学期)	池谷 知明	秋	水5
		ゼミナールⅠ(応用マクロ経済学研究／秋学期)	及川 浩典	秋	水2
		ゼミナールⅠ(公共文化研究／秋学期)	小長谷 英代	秋	〔未定〕
		ゼミナールⅠ(経営科学／秋学期)	須子 純太	秋	火4
		ゼミナールⅠ(制度設計の経済学／秋学期)	笠島 洋一	秋	水4
		ゼミナールⅠ(比較経済史研究／秋学期)	若原 弘泰	秋	水3
		ゼミナールⅠ(社会科学的哲学／秋学期)	吉田 敬	秋	水2
		ゼミナールⅠ(行政・地域自治研究／秋学期)	福生 信男	秋	水3
		ゼミナールⅠ(哲学・倫理学／秋学期)	千葉 清史	秋	火4
		ゼミナールⅠ(福祉社会研究／秋学期)	寺尾 範野	秋	火3
		ゼミナールⅠ(農村デザイン研究／秋学期)	落合 基雄	秋	火4
		ゼミナールⅠ(人類進化モデル／秋学期)	中橋 渉	秋	月5
		ゼミナールⅠ(選挙・世論研究／秋学期)	遠藤 晶久	秋	水2
		ゼミナールⅠ(応用計量経済学研究／秋学期)	荒井 洋一	秋	水4
		ゼミナールⅠ(情報科学／秋学期)	中島 健一	秋	水2
		ゼミナールⅠ(社会保障と人権／秋学期)	榎原 徳子	秋	火4
		ゼミナールⅠ(スペイン語圏の社会と文化／秋学期)	寺尾 隆吉	秋	水3
		ゼミナールⅠ(多言語社会の会話研究／秋学期)	古川 敏明	秋	水4
		ゼミナールⅠ(平和学研究／秋学期)	堀 芳枝	秋	金4
		ゼミナールⅠ(現代社会における基本的人権と民主主義／秋学期)	阪口 正二郎	秋	金3
		ゼミナールⅠ(Organizational Behavior and Human Resource Management／秋学期)	鄭 有希	秋	水4
		ゼミナールⅠ(Violence, Conflict and Development／秋学期)	小山 淑子	秋	水3
		ゼミナールⅠ(日本文化史／秋学期)	黒田 智	秋	火2
		ゼミナールⅠ(Global Business and Organizational Leadership／秋学期)	好川 透	秋	火4
		ゼミナールⅠ(Gender, Sexuality and Society／秋学期)	森野 さおり	秋	水2
		ゼミナールⅠ(西洋服飾史／秋学期)	朝倉 三枝	秋	水4
		ゼミナールⅠ(経営組織研究／秋学期)	小阪 玄次郎	秋	火3
		ゼミナールⅠ(都市・地域デザイン研究／秋学期)	益子 智之	秋	火5
		ゼミナールⅠ(政治過程論／秋学期)	安中 進	秋	金4
		ゼミナールⅠ(日本文学研究／秋学期)	山崎 薫	秋	火3
		ゼミナールⅠ(労働研究／秋学期)		休講	
		ゼミナールⅠ(Modern Japanese Studies／秋学期)		休講	
		ゼミナールⅠ(ヨーロッパ市民社会研究／秋学期)		休講	
		ゼミナールⅠ(人間の安全保障／秋学期)		休講	
		ゼミナールⅠ(雇用社会の法／秋学期)		休講	
		ゼミナールⅠ(開発・環境社会学研究／秋学期)		休講	

学科目配当表

ゼミナールⅡ

配当 年次	単位	科目名	教員氏名	学期	曜日・時間
3年～	2	ゼミナールⅡ(労働研究／春学期)	篠田 徹	春	金2
		ゼミナールⅡ(労働研究／秋学期)	小山 淑子	秋	水2
		ゼミナールⅡ(中国研究／春学期)	劉 傑	春	火4
		ゼミナールⅡ(中国研究／秋学期)	劉 傑	秋	火4
		ゼミナールⅡ(環境及び資源経済学研究／春学期)	赤尾 健一	春	月5
		ゼミナールⅡ(環境及び資源経済学研究／秋学期)	赤尾 健一	秋	月5
		ゼミナールⅡ(コミュニティ開発／春学期)	岸田 幸	春	火5
		ゼミナールⅡ(コミュニティ開発／秋学期)	岸田 幸	秋	火5
		ゼミナールⅡ(現代社会学研究／春学期)	岡藤 真也	春	水4
		ゼミナールⅡ(現代社会学研究／秋学期)	岡藤 真也	秋	水5
		ゼミナールⅡ(異文化コミュニケーション研究／春学期)	花本 直喜	春	水2
		ゼミナールⅡ(異文化コミュニケーション研究／秋学期)	花本 直喜	秋	月5
		ゼミナールⅡ(メディアと言語の研究／春学期)	崔原 定之	春	月5
		ゼミナールⅡ(メディアと言語の研究／秋学期)	崔原 定之	秋	月5
		ゼミナールⅡ(政治思想研究／春学期)	厚見 重一郎	春	火5
		ゼミナールⅡ(政治思想研究／秋学期)	厚見 重一郎	秋	火5
		ゼミナールⅡ(国際関係研究／春学期)	奥迫 元	春	火3
		ゼミナールⅡ(国際関係研究／秋学期)	奥迫 元	秋	火4
		ゼミナールⅡ(契約法研究／春学期)	吉田 和夫	春	火3
		ゼミナールⅡ(契約法研究／秋学期)	吉田 和夫	秋	火3
		ゼミナールⅡ(Study of Environmental Law／春学期)	黒川 哲志	春	水4
		ゼミナールⅡ(Study of Environmental Law／秋学期)	黒川 哲志	秋	水4
		ゼミナールⅡ(国際経済法研究／春学期)	植木 有夏	春	水5
		ゼミナールⅡ(国際経済法研究／秋学期)	植木 有夏	秋	水5
		ゼミナールⅡ(憲法と法／春学期)	横野 恵	春	水2
		ゼミナールⅡ(憲法と法／秋学期)	横野 恵	秋	水2
		ゼミナールⅡ(Economic Analysis of the World Economy／春学期)	張間 正彦	春	月4
		ゼミナールⅡ(Economic Analysis of the World Economy／秋学期)	張間 正彦	秋	月4
		ゼミナールⅡ(経済と環境の委託分析／春学期)	達達 明由	春	水3
		ゼミナールⅡ(経済と環境の委託分析／秋学期)	達達 明由	秋	水3
		ゼミナールⅡ(情報産業の経済分析／春学期)	土門 晃二	春	水4
		ゼミナールⅡ(情報産業の経済分析／秋学期)	土門 晃二	秋	水4
		ゼミナールⅡ(ゲーム理論とその応用／春学期)	戸田 孝	春	火5
		ゼミナールⅡ(ゲーム理論とその応用／秋学期)	戸田 孝	秋	火5
		ゼミナールⅡ(マーケティング管理研究／春学期)	野口 智雄	春	金3
		ゼミナールⅡ(マーケティング管理研究／秋学期)	野口 智雄	秋	金3
		ゼミナールⅢ(多国籍企業の研究／春学期)	長谷川 信次	春	火4
		ゼミナールⅢ(多国籍企業の研究／秋学期)	長谷川 信次	秋	水4
		ゼミナールⅢ(企業財務論研究／春学期)	葛山 康典	春	水5
		ゼミナールⅢ(企業財務論研究／秋学期)	葛山 康典	秋	水5
		ゼミナールⅢ(財務会計研究／春学期)	菅野 浩勢	春	月3
		ゼミナールⅢ(財務会計研究／秋学期)	菅野 浩勢	秋	月3
		ゼミナールⅢ(刑法研究／春学期)	仲達 祐樹	春	火4
		ゼミナールⅢ(刑法研究／秋学期)	仲達 祐樹	秋	火4
		ゼミナールⅢ(空間映像研究／春学期)	佐藤 洋一	春	火4
		ゼミナールⅢ(空間映像研究／秋学期)	佐藤 洋一	秋	火4
		ゼミナールⅢ(Study of International Financial Systems／春学期)	北村 能寛	春	水3
		ゼミナールⅢ(Study of International Financial Systems／秋学期)	北村 能寛	秋	水3
		ゼミナールⅢ(比較政治研究／春学期)	池谷 知明	春	水4
		ゼミナールⅢ(比較政治研究／秋学期)	池谷 知明	秋	水4
		ゼミナールⅢ(応用マクロ経済学研究／春学期)	及川 浩希	春	月4
		ゼミナールⅢ(応用マクロ経済学研究／秋学期)	及川 浩希	秋	月4
		ゼミナールⅢ(公共文化研究／春学期)	小倉谷 基代	春	火5
		ゼミナールⅢ(公共文化研究／秋学期)	小倉谷 基代	秋	火5
		ゼミナールⅢ(経営科学／春学期)	須子 結太	春	水4
		ゼミナールⅢ(経営科学／秋学期)	須子 結太	秋	水4
		ゼミナールⅢ(制度設計の経済学／春学期)	宮島 洋一	春	金2
		ゼミナールⅢ(制度設計の経済学／秋学期)	宮島 洋一	秋	金2
		ゼミナールⅢ(比較経済史研究／春学期)	君塚 弘典	春	水4
		ゼミナールⅢ(比較経済史研究／秋学期)	君塚 弘典	秋	水4
		ゼミナールⅢ(社会科学的の哲学／春学期)	吉田 敬	春	月4
		ゼミナールⅢ(社会科学的の哲学／秋学期)	吉田 敬	秋	月4
		ゼミナールⅢ(行政・地域自治研究／春学期)	熊生 信男	春	水4
		ゼミナールⅢ(行政・地域自治研究／秋学期)	熊生 信男	秋	水4
		ゼミナールⅢ(哲学・倫理学／春学期)	千葉 清史	春	水4
		ゼミナールⅢ(哲学・倫理学／秋学期)	千葉 清史	秋	水4
		ゼミナールⅢ(Modern Japanese Studies／春学期)	冷 君曉	春	水4
		ゼミナールⅢ(Modern Japanese Studies／秋学期)	冷 君曉	秋	水4
		ゼミナールⅢ(ヨーロッパ市民社会研究／春学期)	数長 千乃	春	水5
		ゼミナールⅢ(ヨーロッパ市民社会研究／秋学期)	数長 千乃	秋	水5
		ゼミナールⅢ(福祉社会研究／春学期)	寺尾 隆吉	春	火4
		ゼミナールⅢ(福祉社会研究／秋学期)	寺尾 隆吉	秋	火4
		ゼミナールⅢ(農村デザイン研究／春学期)	落合 基雄	春	火5
		ゼミナールⅢ(農村デザイン研究／秋学期)	落合 基雄	秋	火5
		ゼミナールⅢ(人間進化モデル／春学期)	中橋 渉	春	月4
		ゼミナールⅢ(人間進化モデル／秋学期)	中橋 渉	秋	月4
		ゼミナールⅢ(選挙・世論研究／春学期)	遠藤 品久	春	火3
		ゼミナールⅢ(選挙・世論研究／秋学期)	遠藤 品久	秋	火3
		ゼミナールⅢ(応用計量経済学研究／春学期)	荒井 洋一	春	水5
		ゼミナールⅢ(応用計量経済学研究／秋学期)	荒井 洋一	秋	水5
		ゼミナールⅢ(情報科学／春学期)	中島 健一	春	水3
		ゼミナールⅢ(情報科学／秋学期)	中島 健一	秋	水3
		ゼミナールⅢ(社会保険と人権／春学期)	横原 優子	春	火5
		ゼミナールⅢ(社会保険と人権／秋学期)	横原 優子	秋	火5
		ゼミナールⅢ(人間の安全保障／春学期)	内川 明佳	春	月2
		ゼミナールⅢ(人間の安全保障／秋学期)	内川 明佳	秋	月2
		ゼミナールⅢ(雇用社会の法／春学期)	松本 俊晴	春	月5
		ゼミナールⅢ(雇用社会の法／秋学期)	松本 俊晴	秋	月5
		ゼミナールⅢ(雇用社会の法／春学期)	高原 啓介	春	金6
		ゼミナールⅢ(雇用社会の法／秋学期)	高原 啓介	秋	金6
		ゼミナールⅢ(スペイン語圏の社会と文化／春学期)	寺尾 隆吉	春	水4
		ゼミナールⅢ(スペイン語圏の社会と文化／秋学期)	寺尾 隆吉	秋	水4
		ゼミナールⅢ(多言語社会の食糧研究／春学期)	古川 敬明	春	水3
		ゼミナールⅢ(多言語社会の食糧研究／秋学期)	古川 敬明	秋	水3
		ゼミナールⅢ(開発・環境社会学研究／春学期)	岡藤 真也	春	水3
		ゼミナールⅢ(開発・環境社会学研究／秋学期)	岡藤 真也	秋	水3
		ゼミナールⅢ(平和学研究／春学期)	堀 芳枝	春	金3
		ゼミナールⅢ(平和学研究／秋学期)	堀 芳枝	秋	金3
		ゼミナールⅢ(現代社会における基本的人権と民主主義／春学期)	阪口 正二郎	春	火3
		ゼミナールⅢ(現代社会における基本的人権と民主主義／秋学期)	阪口 正二郎	秋	火3
		ゼミナールⅢ(Organizational Behavior and Human Resource Management／春学期)	金 素延	春	水5
		ゼミナールⅢ(Organizational Behavior and Human Resource Management／秋学期)	金 素延	秋	水5
		ゼミナールⅢ(Violence, Conflict and Development／春学期)	小山 淑子	春	水2
		ゼミナールⅢ(Violence, Conflict and Development／秋学期)	小山 淑子	秋	水2
		ゼミナールⅢ(日本文化史／春学期)	黒田 智	春	火3
		ゼミナールⅢ(日本文化史／秋学期)	黒田 智	秋	火3
		ゼミナールⅢ(Global Business and Organizational Leadership／春学期)	好川 透	春	火4
		ゼミナールⅢ(Global Business and Organizational Leadership／秋学期)	好川 透	秋	火5
		ゼミナールⅢ(Gender, Sexuality and Society／春学期)	金野 さおり	春	水4
		ゼミナールⅢ(Gender, Sexuality and Society／秋学期)	金野 さおり	秋	水4
		ゼミナールⅢ(西洋服飾史／春学期)	朝倉 三枝	春	水3
		ゼミナールⅢ(西洋服飾史／秋学期)	朝倉 三枝	秋	水3
		ゼミナールⅢ(経営組織研究／春学期)	小阪 玄次郎	春	火4
		ゼミナールⅢ(経営組織研究／秋学期)	小阪 玄次郎	秋	火4
		ゼミナールⅢ(都市・地域デザイン研究／春学期)	松子 智之	春	火4
		ゼミナールⅢ(都市・地域デザイン研究／秋学期)	松子 智之	秋	火4
		ゼミナールⅢ(政治論議／春学期)	安中 進	春	金5
		ゼミナールⅢ(政治論議／秋学期)	安中 進	秋	金5
		ゼミナールⅢ(日本文学研究／春学期)	山崎 薫	春	火4
		ゼミナールⅢ(日本文学研究／秋学期)	山崎 薫	秋	火4

ゼミナールⅢ

配当 年次	単位	科目名	教員氏名	学期	曜日・時間
4年～	2	ゼミナールⅢ(労働研究／春学期)	篠田 徹	春	金2
		ゼミナールⅢ(労働研究／秋学期)	小山 淑子	秋	水2
		ゼミナールⅢ(中国研究／春学期)	劉 傑	春	火4
		ゼミナールⅢ(中国研究／秋学期)	劉 傑	秋	火4
		ゼミナールⅢ(環境及び資源経済学研究／春学期)	赤尾 健一	春	月5
		ゼミナールⅢ(環境及び資源経済学研究／秋学期)	赤尾 健一	秋	月5
		ゼミナールⅢ(コミュニティ開発／春学期)	岸田 幸	春	火5
		ゼミナールⅢ(コミュニティ開発／秋学期)	岸田 幸	秋	火5
		ゼミナールⅢ(現代社会学研究／春学期)	岡藤 真也	春	水4
		ゼミナールⅢ(現代社会学研究／秋学期)	岡藤 真也	秋	水5
		ゼミナールⅢ(異文化コミュニケーション研究／春学期)	花本 直喜	春	水2
		ゼミナールⅢ(異文化コミュニケーション研究／秋学期)	花本 直喜	秋	月5
		ゼミナールⅢ(メディアと言語の研究／春学期)	崔原 定之	春	月5
		ゼミナールⅢ(メディアと言語の研究／秋学期)	崔原 定之	秋	月5
		ゼミナールⅢ(政治思想研究／春学期)	厚見 重一郎	春	火5
		ゼミナールⅢ(政治思想研究／秋学期)	厚見 重一郎	秋	火5
		ゼミナールⅢ(国際関係研究／春学期)	奥迫 元	春	火3
		ゼミナールⅢ(国際関係研究／秋学期)	奥迫 元	秋	火4
		ゼミナールⅢ(契約法研究／春学期)	吉田 和夫	春	火3
		ゼミナールⅢ(契約法研究／秋学期)	吉田 和夫	秋	火3
		ゼミナールⅢ(金社法研究／春学期)	川島 いつみ	春	金4
		ゼミナールⅢ(金社法研究／秋学期)	川島 いつみ	秋	金4
		ゼミナールⅢ(Study of Environmental Law／春学期)	黒川 哲志	春	水4
		ゼミナールⅢ(Study of Environmental Law／秋学期)	黒川 哲志	秋	水4
		ゼミナールⅢ(国際経済法研究／春学期)	植木 有夏	春	水5
		ゼミナールⅢ(国際経済法研究／秋学期)	植木 有夏	秋	水5
		ゼミナールⅢ(憲法と法／春学期)	横野 恵	春	水2
		ゼミナールⅢ(憲法と法／秋学期)	横野 恵	秋	水2
		ゼミナールⅢ(Economic Analysis of the World Economy／春学期)	張間 正彦	春	月4
		ゼミナールⅢ(Economic Analysis of the World Economy／秋学期)	張間 正彦	秋	月4
		ゼミナールⅢ(経済と環境の委託分析／春学期)	達達 明由	春	水3
		ゼミナールⅢ(経済と環境の委託分析／秋学期)	達達 明由	秋	水3
		ゼミナールⅢ(情報産業の経済分析／春学期)	土門 晃二	春	水4
		ゼミナールⅢ(情報産業の経済分析／秋学期)	土門 晃二	秋	水4
		ゼミナールⅢ(ゲーム理論とその応用／春学期)	戸田 孝	春	火5
		ゼミナールⅢ(ゲーム理論とその応用／秋学期)	戸田 孝	秋	火5
		ゼミナールⅢ(マーケティング管理研究／春学期)	野口 智雄	春	金3
		ゼミナールⅢ(マーケティング管理研究／秋学期)	野口 智雄	秋	金3
		ゼミナールⅢ(多国籍企業の研究／春学期)	長谷川 信次	春	火4
		ゼミナールⅢ(多国籍企業の研究／秋学期)	長谷川 信次	秋	水4
		ゼミナールⅢ(企業財務論研究／春学期)	葛山 康典	春	水5
		ゼミナールⅢ(企業財務論研究／秋学期)	葛山 康典	秋	水5
		ゼミナールⅢ(International Cooperation and Peace Building／春学期)	山田 満	春	水4
		ゼミナールⅢ(International Cooperation and Peace Building／秋学期)	山田 満	秋	水4
		ゼミナールⅢ(財務会計研究／春学期)	菅野 浩勢	春	月3
		ゼミナールⅢ(財務会計研究／秋学期)	菅野 浩勢	秋	月3
		ゼミナールⅢ(刑法研究／春学期)	仲達 祐樹	春	火4
		ゼミナールⅢ(刑法研究／秋学期)	仲達 祐樹	秋	火4
		ゼミナールⅢ(空間映像研究／春学期)	佐藤 洋一	春	火4
		ゼミナールⅢ(空間映像研究／秋学期)	佐藤 洋一	秋	火4
		ゼミナールⅢ(Study of International Financial Systems／春学期)	北村 能寛	春	水3
		ゼミナールⅢ(Study of International Financial Systems／秋学期)	北村 能寛	秋	水3
		ゼミナールⅢ(比較政治研究／春学期)	池谷 知明	春	水4
		ゼミナールⅢ(比較政治研究／秋学期)	池谷 知明	秋	水4
		ゼミナールⅢ(応用マクロ経済学研究／春学期)	及川 浩希	春	月4
		ゼミナールⅢ(応用マクロ経済学研究／秋学期)	及川 浩希	秋	月4
		ゼミナールⅢ(公共文化研究／春学期)	小倉谷 基代	春	火5
		ゼミナールⅢ(公共文化研究／秋学期)	小倉谷 基代	秋	火5
		ゼミナールⅢ(経営科学／春学期)	須子 結太	春	水4
		ゼミナールⅢ(経営科学／秋学期)	須子 結太	秋	水4
		ゼミナールⅢ(制度設計の経済学／春学期)	宮島 洋一	春	金2
		ゼミナールⅢ(制度設計の経済学／秋学期)	宮島 洋一	秋	金2
		ゼミナールⅢ(比較経済史研究／春学期)	君塚 弘典	春	水4
		ゼミナールⅢ(比較経済史研究／秋学期)	君塚 弘典	秋	水4
		ゼミナールⅢ(社会科学的の哲学／春学期)	熊生 信男	春	水4
		ゼミナールⅢ(社会科学的の哲学／秋学期)	熊生 信男	秋	水4
		ゼミナールⅢ(行政・地域自治研究／春学期)	千葉 清史	春	水4
		ゼミナールⅢ(行政・地域自治研究／秋学期)	千葉 清史	秋	水4
		ゼミナールⅢ(Modern Japanese Studies／春学期)	冷 君曉	春	水4
		ゼミナールⅢ(Modern Japanese Studies／秋学期)	冷 君曉	秋	水4
		ゼミナールⅢ(ヨーロッパ市民社会研究／春学期)	数長 千乃	春	水5
		ゼミナールⅢ(ヨーロッパ市民社会研究／秋学期)	数長 千乃	秋	水5

Ⅲ. 学科目配当表

学科目配当表

自由科目

配当 年次	単位	科目名	クラス	教員氏名	学期	曜日時限
3年～	2	職業指導 1	—	小島 貴子	春	金3
		職業指導 2	—	小島 貴子	秋	金3

必修英語

配当 年次	単位	科目名	クラス	教員氏名	学期	曜日時限
2年～	1	英語1－1(春学期)	Y	長田 哲男	春	火2
			Z	長田 宣子	春	月2
		英語1－1(秋学期)	Y	長田 哲男	秋	火2
			Z	長田 宣子	秋	月2
		英語1－2(春学期)／スピーチ	A	長谷川 和美	春	月3
			B	根橋 玲子	春	火3
			C	休講		
			D	休講		
		英語1－2(秋学期)／スピーチ	A	長谷川 和美	秋	月3
			B	根橋 玲子	秋	火3
			C	休講		
			D	休講		
3年～	1	英語2－1(春学期)	Y	長田 宣子	春	水4
		英語2－1(秋学期)	Z	根橋 玲子	春	火2
			Y	長田 宣子	秋	水4
			Z	根橋 玲子	秋	火2
2年～	1	英語2－2(春学期) リスニング	E	市賀 弘之	春	金3
			F	市賀 弘之	春	金4
		英語2－2(春学期) 会話	P	カレンダー ボール カイル	春	土3
			Q	カレンダー ボール カイル	春	土4
		英語2－2(秋学期) リスニング	E	市賀 弘之	秋	金3
			F	市賀 弘之	秋	金4
		英語2－2(秋学期) 会話	P	カレンダー ボール カイル	秋	土3
			Q	カレンダー ボール カイル	秋	土4

学科目配当表

Ⅲ. 学科目配当表

教養外国語

配当 年次	単位	科目名	クラス	教員氏名	学期	曜日時限
1年～	1	ドイツ語1基礎	A	小山田 豊	春	金1
			B	小山田 豊	春	金2
			C	新田 章	春	金2
			D	新田 章	春	金3
		ドイツ語2基礎	E	中野 愛理	春	月3
			A	千葉 清史	春	水3
			B	千葉 清史	春	水2
			C	山中 健義	春	月2
		ドイツ語1初級	D	山中 健義	春	月3
			E	紫田 歩	春	金3
			A	小山田 豊	秋	金1
			B	小山田 豊	秋	金2
		ドイツ語2初級	C	新田 章	秋	金2
			D	新田 章	秋	金3
			E	中野 愛理	秋	月3
		フランス語1基礎	A	千葉 清史	秋	水3
			B	千葉 清史	秋	水2
			C	山中 健義	秋	月2
			D	山中 健義	秋	月3
		フランス語2基礎	E	紫田 歩	秋	金3
			A	大前 元伸	春	月2
			B	梶谷 彩子	春	水1
			C	柴田 恵美	春	水2
		フランス語1初級	D	綾部 素幸	春	水1
			E	梶谷 彩子	春	水2
			A	柴田 恵美	春	水1
			B	大前 元伸	春	月3
		フランス語2初級	C	柴田 恵美	春	金3
			D	マルティネル ルイ ソロ	春	月3
			E	赤羽 悠	秋	金2
		フランス語1初級	A	大前 元伸	秋	月2
			B	梶谷 彩子	秋	水1
			C	柴田 恵美	秋	水2
			D	綾部 素幸	秋	水1
		フランス語2初級	E	梶谷 彩子	秋	水2
			A	柴田 恵美	秋	水1
			B	大前 元伸	秋	月3
			C	柴田 恵美	秋	金3
		フランス語2初級	D	マルティネル ルイ ソロ	秋	月3
			E	赤羽 悠	秋	金2

教養外国語

配当 年次	単位	科目名	クラス	教員氏名	学期	曜日時限
2年～	1	中国語1基礎	Y	陳 璐	春	水2
			Z	韓 水	春	金2
		中国語2基礎	Y	陳 璐	春	金2
			Z	黃 斌	春	金3
		中国語1初級	Y	陳 璐	秋	水2
			Z	韓 水	秋	金2
		中国語2初級	Y	陳 璐	秋	金2
			Z	黃 斌	秋	金3
		スペイン語1基礎	Y			休講
			Z	鎌月 規子	春	フルOD
		スペイン語2基礎	Y			休講
			Z	鎌月 規子	春	フルOD
		スペイン語1初級	Y			休講
			Z	鎌月 規子	秋	フルOD
		スペイン語2初級	Y			休講
			Z	鎌月 規子	秋	フルOD

選択外国語

配当 年次	単位	科目名	クラス	教員氏名	学期	曜日時限
1年～	1	スペイン語・会話	—	ゴンサレス ロンゴリ ア シルビア リディ ア	秋	金2
			A	関口 浩	春	金1
		ドイツ語・地域研究入門 1	B	関口 浩	春	金2
			A	町田 輝雄	春	木4
		ドイツ語・地域研究入門 2	B	中野 愛理	春	月2
			A	関口 浩	秋	金1
		ドイツ語・地域研究 1	B	関口 浩	秋	金2
			A	町田 輝雄	秋	木4
		ドイツ語・地域研究 2	B	中野 愛理	秋	月2
			A	町田 輝雄	秋	木4
		スペイン語・地域研究入門 1	—	ヒガ マルセーロ グ スターボ	春	火3
			—	ゴンサレス ロンゴリ ア シルビア リディ ア	春	金2
		スペイン語・地域研究入門 2	—	ヒガ マルセーロ グ スターボ	春	火3
			—	ゴンサレス ロンゴリ ア シルビア リディ ア	春	金2
		スペイン語・地域研究入門 α	—	寺尾 隆吉	春ク	火1
			—	寺尾 隆吉	夏ク	火1
		スペイン語・地域研究入門 β	—	寺尾 隆吉	夏ク	火1
			—	寺尾 隆吉	夏ク	火1
		スペイン語・地域研究 1	—	ヒガ マルセーロ グ スターボ	秋	火3
			—	ヒガ マルセーロ グ スターボ	秋	火3
		スペイン語・地域研究 2	—	網野 徹哉	秋	金4
			—	網野 徹哉	秋	金4
		スペイン語・地域研究 3	—	寺尾 隆吉	秋	火1
			—	寺尾 隆吉	秋	火1
		スペイン語・地域研究 4	—	寺尾 隆吉	秋	火1
			—	寺尾 隆吉	秋	火1
		中国語・地域研究入門 1	—	黄 斌	春	金4
			—	黄 斌	春	金4
		中国語・地域研究入門 2	—	花井 みわ	春	水4
			—	花井 みわ	春	水4
		中国語・地域研究入門 3	—	白 春樹	春	木2
			—	白 春樹	春	木2
		中国語・地域研究入門 4	—	韓 水	春	金1
			—	韓 水	春	金1
		中国語・地域研究 1	—	黄 斌	秋	金4
			—	黄 斌	秋	金4
		中国語・地域研究 2	—	花井 みわ	秋	水4
			—	花井 みわ	秋	水4
		中国語・地域研究 3	—	白 春樹	秋	木2
			—	白 春樹	秋	木2
		中国語・地域研究 4	—	韓 水	秋	金1
			—	韓 水	秋	金1

コア科目 - 英語学位プログラム提供科目

配当 年次	単位	科目名	クラス	教員氏名	学期	曜日 時限
1年～	2	Introduction to Economics	—	北村 能寛	秋ク	火2 フルOD

Ⅲ. 学科目配当表

学科目配当表

基礎専門科目 - 英語学位プログラム提供科目

配当 年次	単位	科目名	クラス	教員氏名	学期	曜日 時限
1年～	2	Aging and Public Policies in Contemporary Japanese Society	—	晏 子	秋	金4
		Aging and the Life Course	—	晏 子	春	金4
		Anthropology of Japan	—	山本 まゆみ	秋	金4
		Business Administration	—	小阪 玄次郎	秋	木2
		Conflict Transformation	—	香川 めぐみ	春	月2
		Contemporary Japanese Foreign Policy	—	本多 美樹	秋	木3
		Contemporary Japanese Society	—	寺屋 龍野	春	水2
		Contemporary Social Affairs 1	—	ヤン マニエル ミ ナミ	春	火3
		Contemporary Social Affairs 2	—	ヤン マニエル ミ ナミ	秋	火3
		Critical Development Studies	—	小山 淑子	春ク	月2 月3
		Cultural Politics of Japan	—	山本 まゆみ	春	金4
		Culture, Nation, and Modernity	—	小島谷 英代	秋	火3
		Development Economics	—	コウワタナサケン ウツバラット	秋	水3
		Development Studies	—	小山 淑子	冬ク	月2 月3
		Disaster Studies	—	重松 優	春	月4
		East and Southeast Asian Study in Practice	—	コウワタナサケン ウツバラット	春	水2
		Environment and Development	—	コウワタナサケン ウツバラット	秋	水2
		Environmental Law in Japan	—	黒川 哲志	秋	月3
		Evaluating Peacebuilding	—	香川 めぐみ	春	月3
		Evolutionary Anthropology	—	中橋 渉	秋	火3
		Foreign Affairs	—	若林 啓史	春	金2
		Game Theory	—	笠島 洋一	春	木1
		Gender and Development	—	堀 芳枝	春	火2
		Health and Human Rights	—	榎原 徳子	秋	水5
		Intercultural Communication	—	花光 里香	秋	水4
		International Development Policy	—	チエス/コバ タチャ ナ	秋	木3
		International Human Resource Management	—	戎谷 梓	春	火4
		Introduction to Manga and Anime Culture	—	重松 優	春	月3
		Introduction to Mathematical Analysis 1 (Linear Algebra)	—	クヴァンフ デミトリ	秋ク	月2 金2
		Introduction to Mathematical Analysis 2 (Calculus)	—	野邊 厚	冬ク	月2 金4
		Introduction to Rural Development	—	落合 基雄	春	水4
		Introduction to Social Business Cooperation	—	下田 恭美	春	火4
		Introduction to Social Research A	A	安中 進	秋	フルOD
		Japan and World War II: Historical Controversies	—	ホートン ウィリアム ブラッドリー	春	土3
		Japan in the World 1: Japanese Interactions with Europe and America	—	冷 君暁	春	月4
		Japan in the World 2: Japanese Interactions with Asia and the Non-West	—	冷 君暁	秋	月4
		Japanese Economic History (Introductory) 01	01	鏡目 雅人	春ク	火1 火2
		Japanese Studies	—	冷 君暁	春	水3
		Labour Market in the Global Economy	—	コウワタナサケン ウツバラット	春	水3
		Liberal, Post-Liberal and Everyday Peacebuilding	—	香川 めぐみ	春	水2
		Markets and Economies: East Asia, Southeast Asia, and Oceania	—	コウワタナサケン ウツバラット	春	火3
		Monozukuri Culture in Japanese Society	—	重松 優	秋	月3
		On Identity: A Socio-political Analysis	—	山本 まゆみ	秋	水4
		Postwar Japan-US Relations	—	中林 美恵子	秋	月5
		Problem / Conflict Analysis and Resolution	—	香川 めぐみ	秋	月3
		Regression Analysis for Social Sciences 1: Basics of Regression Analysis, Analysis of Cross-Sectional Data	—	荒井 洋一	春ク	水1 フルOD
		Regression Analysis for Social Sciences 2: Analysis of Time Series and Panel Data	—	荒井 洋一	夏ク	水1 フルOD
		Social Business	—	下田 恭美	秋	火4
		Social Business Cooperation Projects	—	下田 恭美	春	水4
		Social Business Practicum	—	下田 恭美	秋	水4
		Social Business Projects	—	下田 恭美	秋	水5
		Social Innovation in Global Asia	—	小山 淑子	春ク	火2 火3
		Social Sciences for Sustainable Development A	—	本間 まり子	秋	木2
		Social Sciences for Sustainable Development B	—	本間 まり子	春	木2
		The Impact of the National Peace Process on Community Peacebuilding	—	香川 めぐみ	秋	月2
		The Psychology of Peacebuilding	—	香川 めぐみ	春	火2
		Theories of Social Business	—	下田 恭美	秋	水3
		Theories of Social Business Cooperation	—	下田 恭美	春	水3
		Theory of Community Development	—	ドリアンダ リーラ プロビ	春	木2
		Topics in Social and Economic Development 1	—	コウワタナサケン ウツバラット	秋	火3
		Topics in Sustainable Development	—	コウワタナサケン ウツバラット	秋	木2
		Trans-Pacific Perspectives on Race, Ethnicity, and Migration	—	篠田 徹	春	金1
		Trans-Pacific Perspectives on Work, Culture, and Society	—	篠田 徹	春	土1
		Understanding the Japanese Economy: Microeconomic Perspectives	—	弦間 正彦	春	フルOD
		Urban Studies	—	ドリアンダ リーラ プロビ	春	木5
		War and Japan	—	奥迫 元	春	水3
		Women in Modern Japan: Contemporary Japanese Women	—	ホートン ウィリアム ブラッドリー	春	土4
		Women in Modern Japan: Outside Encounters and Early Changes	—	ホートン ウィリアム ブラッドリー	秋	土3
2年～	2	Climate Change and Sustainable Development	—	カン ジン	秋	火1
		Economic Growth	—	及川 浩希	春ク	木1 フルOD
		Macroeconomics I 02	02	片山 宗親	春	水2
		Macroeconomics I 01	01	ヴェステグ ロベルト フェレンツ	春	火3
		Organizational Innovation 1	—	好川 誠	秋	水2
		Organizational Innovation 2	—	好川 誠	春	水3
		Topics in Social and Economic Development 2	—	コウワタナサケン ウツバラット	春	木1

先進専門科目 - 英語学位プログラム提供科目

配当 年次	単位	科目名	クラス	教員氏名	学期	曜日 時限
1年～	2	Building Local Peace: Field Work Practice	—	香川 めぐみ	冬ク	火2 水2
		Global Food Security : Demand and Supply Challenges	—	弦間 正彦	秋	フルOD
		Globalization	—	チエス/コバ タチャ ナ	春	火3
		International Finance	—	北村 能寛	冬ク	火2 フルOD
		Japan and Peacebuilding : Asian Policies	—	山田 満	春	水3
		Modern Japanese Social and Cultural History	—	鈴木 貴宇	秋	金3
		Sociolinguistics and Multilingualism	—	古川 敏明	春	火4
		Synthesis of Conflict Resolution and Social Innovation	—	小山 淑子	冬ク	火2 火3
		The Inside of Peacebuilding	—	香川 めぐみ	秋ク	火2 水2
		Urban History of Tokyo	—	佐藤 洋一	春	水5
		Urban Living	—	ドリアンダ リーラ プロビ	春	木3
		Community Design: History, Method and Practice	—	益子 智之	春ク	水2 水3
		Cross-Cultural Organizational Behavior	—	鄭 有希	秋ク	水2 水3
		Education and Development	—	山崎 瑛莉	冬ク	火4 火5
		Global Labor Governance 1	—	篠田 徹	春	水1
2年～	2	Global Labor Governance 2	—	篠田 徹	春	水2 水3
		International Business	—	長谷川 信次	夏ク	火4
		International Development	—	チエス/コバ タチャ ナ	秋	火3
		The World of Cooperative Commonwealth 1	—	篠田 徹	春	木1
		The World of Cooperative Commonwealth 2	—	篠田 徹	春	木2
		The World of Labor Film 1	—	篠田 徹	春	火1
		The World of Labor Film 2	—	篠田 徹	春	火2
		Professionals Innovating Work 1: Exploring New Work and Life Styles in the Changing World	—	小山 淑子	秋ク	火2 火3
		Professionals Innovating Work 2: Getting to Know the World of Work	—	小山 淑子	春ク	金2 金3
			—			

お問い合わせ先

① 科目履修に関するご相談

14号館3階 社会科学部事務所

Tel: 03-3204-8952 Email: kamoku18@list.waseda.jp

お問い合わせは極力メールにてお願いします。

お電話や事務所に直接お越しいただいた場合でも、メールのお問い合わせを優先して回答いたします。

【開室時間】授業期間中) 月-金：10時～16時

授業期間外) 月-金：10時～16時

※土曜・日曜・祝日は閉室です。

※最新の開室時間は社会科学部Webサイトをご確認ください。

② Web 科目登録に関するご質問

IT サービス ヘルプデスク (24時間受付)

【問い合わせ方法】

MyWaseda (my.waseda.jp) 「成績照会・科目登録専用」

→「お問い合わせフォーム」

※質問は24時間受け付けていますが、回答が翌日以降になる場合があります。

※各登録期間終了間際の間合せには回答できない場合があります。

時間に余裕をもって科目登録を行ってください。

③ MyWaseda の ID/PASS に関するご質問

7号館1階 早稲田ポータルオフィス

URL: <https://www.waseda.jp/wpo/>

